



国際ロータリー 第2660地区

2001～2002年度のための

地区協議会

ガバナー 近藤 雅 臣

ガバナー・エレクト 寺 田 和 之

2001年4月21日(土)

於：大阪府立国際会議場

ホストクラブ：大阪ロータリークラブ



大阪ロータリークラブ

〒530-0005 大阪市北区中之島 5-3-68 リーガロイヤルホテル内
電話 (06) 6448-1121 FAX (06) 6441-7720

2001年7月23日

RI 第2660地区

「2001～02年度のための地区協議会」
ご出席のPast Governor・リーダー
各RC会長・幹事
クラブ・社会・職業・国際各奉仕委員長
ロータリー財団・米山奨学会各委員長

各位

2001～02年度のための協議会
ホスト 大阪ロータリークラブ
実行委員会 委員長 阿部晴彦

「地区協議会記録誌訂正のお願い」

去る4月21日(土)に開催の表記地区協議会につきましては、多くの皆様のご協力を
得て無事終了いたし、このほど7月初旬にかけて各位に記録誌をお届けいたしました。

ただ、誠に残念ながら、会の冒頭、お話をいただきました松本良諄Past Governorの記
録に誤りがありました。下記「正誤表」を作成いたしましたので、誠に恐縮ではござい
ますが、訂正方、よろしくお願い申し上げます。

松本Past Governorには心よりお詫び申し上げます。

敬具

正 誤 表

印刷終了後、下記のようなミスが見つかりました。恐縮ですがご訂正お願いいたします。

| ページ・段 | 行 | 誤・脱落 | 正・挿入 |
|-------|------|---------------------------|--|
| 15左 | 8 | Guard of Service | the ideal of Service |
| 16左 | 4～5 | (英文全文削除して右の文を挿入) | thoughtfulness of and helpfulness to others |
| 16左 | 7 | アーサー・シェルデウン | アーサー・シェルドン |
| 16左 | 11 | 一部の人の商業 | 一部の人々が商業 |
| 16左 | 17 | シェルデウン | シェルドン |
| 16右 | 1～2行 | (見出し脱落) | 二つの標語と四つのテスト(挿入) |
| 16右 | 3 | シェルデウン | シェルドン |
| 16右 | 25 | It's fair to all concerns | Is it fair to all concerned? |
| 16右 | 26 | 総ての関係者にとって公正である、 | 総ての関係者に公正であるか、 |
| 16右 | 34 | 関係者が全員もうかりますか、ほん とうですか | 関係者全員がもうかりますか |
| 16右 | 39 | これらの標語は1910年代に | 二つの標語は1911年に |
| 17左 | 5～6行 | (見出し脱落) | 社会奉仕と国際奉仕(挿入) |
| 17左 | 15 | 団体奉仕です。 | 団体奉仕か、ということで。 |
| 17左 | 17 | 34号議題 | 34号決議 |
| 17左 | 18 | 決議23の34号 | 決議23の34 |
| 17左 | 23 | 決議23の34号 | 決議23の34 |



大学ローマ字表記

〒305-8577 茨城県中固市大塚 1-1-1 大学ローマ字表記センター
電話 (029) 851-1151 FAX (029) 851-1152

2001年7月3日

立寄 { 地区協議会
1997-02年度の地区協議会
出題のバリエーション
委員・幹事
委員・幹事
委員・幹事
委員・幹事

2001-02年度の地区協議会
大学ローマ字表記
委員 委員

地区協議会事務局正のお返り

去る4月21日(土)に開催の地区協議会にご参加いただき、誠にありがとうございました。この度は、ご参加いただき、誠にありがとうございました。

地区協議会事務局正のお返り
地区協議会事務局正のお返り
地区協議会事務局正のお返り

地区協議会事務局正のお返り

委員

表 題 五

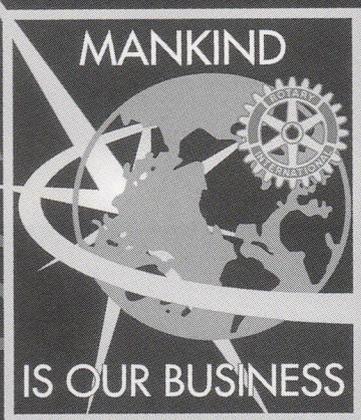
地区協議会事務局正のお返り

| 五・種・人 | 題・題・題 | 行 | 冊・冊 |
|-----------------------------|-----------------------------|-----|-----|
| the ideal of service | guard of service | 8 | 16冊 |
| boughtiness of and | (英全文附録しての文を挿入) | 4-7 | 16冊 |
| helpfulness to others | | | |
| マナー・マナー・マナー | マナー・マナー・マナー | 7 | 16冊 |
| 一部の人が商 | 一部の人の商 | 11 | 16冊 |
| マナー | マナー | 17 | 16冊 |
| (挿入) イスラエルの四の | (挿入) 出題 | 1-2 | 16冊 |
| マナー | マナー | 3 | 16冊 |
| Is it fair to all concerns? | Is it fair to all concerns? | 29 | 16冊 |
| 総ての関心者に公平であるか | 総ての関心者にとって公平であるか | 28 | 16冊 |
| 関係者全員が満足するかどうか | 関係者全員が満足するかどうか | 34 | 16冊 |
| この議論は1910年に | この議論は1910年に | 38 | 16冊 |
| (挿入) 出題 | (挿入) 出題 | 5-6 | 17冊 |
| 関係者全員が満足するかどうか | 関係者全員が満足するかどうか | 15 | 17冊 |
| 31号 | 31号 | 17 | 17冊 |
| 31号 | 31号 | 18 | 17冊 |
| 31号 | 31号 | 23 | 17冊 |

2001～2002年度RIテーマ

親善協会

L'HUMANITÉ C'EST NOTRE AFFAIRE
DEN MENSCHEN VERPFLICHTET
L'UMANITÀ È IL NOSTRO AFFARE
人類が私たちの仕事
우리의 과제는 인류
A HUMANIDADE É A NOSSA MISSÃO
NUESTRA RESPONSABILIDAD ES LA HUMANIDAD
MÄNNISKORS VÄL ÄR VÅR UPPGIFT



MANKIND
IS OUR BUSINESS

Richard D. King
RI President, 2001-02



会場風景



開会セレモニー（午前の本会議）



壇上の近藤ガバナー、寺田ガバナー・エレクト、菅生R I理事ノミネー（右から）



本会議



本会議



ソングリーダー



点鐘

ひととき

受付



受付



談笑





談笑

昼食



コーヒーブレイク



国際ロータリー第2660地区

— 2001 ~ 2002年度のための —

地区協議会 プログラム

2001年4月21日（土） 於：大阪府立国際会議場

出席義務者：2001～2002年度当地区各ロータリークラブの会長、幹事ならびにクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、青少年奉仕、国際奉仕、ロータリー財団および米山奨学各委員長の計9名。

| | | | |
|------------------|------------------------------|----|-------------------------|
| 9：30～10：00 | 登録・受付 | 5階 | メインホール |
| 10：00～11：50 | 本会議 | 5階 | メインホール |
| | 司会 | | 早嶋 茂 |
| 開会点鐘 | ガバナー | | 近藤 雅臣 |
| 国歌斉唱 | ソングリーダー | | 木田川 誠 |
| ロータリー・ソング「奉仕の理想」 | ソングリーダー | | 木田川 誠 |
| 開会の挨拶 | 地区協議会実行委員長 | | 阿部 晴彦 |
| 歓迎の挨拶 | ホストクラブ会長 | | 川島 康生 |
| 来賓およびリーダーの紹介 | ガバナー・エレクト | | 寺田 和之 |
| 次年度の方針 | ガバナー・エレクト | | 寺田 和之 |
| 「ロータリーの原点とその周辺」 | パスト・ガバナー | | 松本 良諄 |
| 「2004年の国際大会」 | RI2004年国際大会実行委員長 パスト・ガバナー | | 戸田 孝 |
| 11：50～12：00 | 移動 | | |
| 12：00～12：50 | 昼食 | | （昼食はエスカレーターで3階イベントホールへ） |
| 12：50～13：00 | 移動 | | （食後各部門別協議会場へ移動） |

13:00~15:00

部門別協議会 (部門別協議会場にて)

| 部門別 | 会場 | 討論リーダー | サブリーダー |
|-----------------|---------------|-------------------------------------|---|
| 会長 (白) | 12階 特別会議室 | ガバナー・エレクト 寺田 和之(大阪) | パスト・ガバナー 古田 敬三(大阪) 立野 純三(大阪) 下地 民男(大阪) |
| 幹事 (ブルー) | 12階 1202 | パスト・ガバナー 熊澤 忠躬(守口) | パスト・ガバナー 戸田 孝(八尾)途中参加 中田 康仁(大阪南) |
| クラブ奉仕 (赤) | 10階 1001 | パスト・ガバナー 吉川 謹司(東大阪東) | 岩知道寿夫(千里) 新津 敬直(大阪西) 井上 暎夫(千里) 大川進一郎(大東) |
| 職業奉仕 (白茶) | 10階 1002 | ガバナー 近藤 雅臣(千里) | 近藤 浩司(大阪南) 松本 豊(大阪東南) |
| 社会奉仕 (黄) | 10階 1003 | パスト・ガバナー 中川 章三(大阪城南) | パスト・ガバナー 廣瀬勘一郎(大阪西南) 若宮 邦弘(大阪天王寺) 徳永 淳三(大阪南西) 浦川 光雄(箕面中央) |
| 青少年奉仕 (水) | 10階 1004~5 | パスト・ガバナー 大森 慈祥(茨木) | 有賀 一夫(大阪咲洲) 石田 肇(東大阪東) 奥 剛典(大阪南) |
| 国際奉仕 (オレンジ) | 10階 1006~7 | 直前ガバナー 柏木 尚(豊中) | 瀧田 浩彦(東大阪中央) 近藤 眞道(高槻西) 笹井 敏之(大阪八尾フレンド) |
| ロータリー財団 (若竹) | 10階 1009 | 2002~04年度 RI理事ノミネー 菅生 浩三(大阪北) | 居相 英機(八尾) 寺田 秀興(東大阪東) 中西 藤和(大阪梅田) 岡本 健治(大阪東南) 野村 浩司(大阪そねぎ) 溝畑 正信(東大阪東) 金田 勝弘(大阪城南) |
| 米山奨学 (もえぎ) | 10階 1008 | 中澤 章好(大阪住吉) | 山本 和雄(大阪なにわ) 小竹 靖二(大阪中之島) |

15:00~15:15

休憩・移動 (メインホールに移動、コーヒーブレイク)

15:15~16:15

本会議

5階

メインホール

部門別要旨報告

部門別協議会

各リーダー

総括

ガバナー・エレクト

寺田 和之

所感

ガバナー

近藤 雅臣

閉会の挨拶

地区協議会副委員長

尾崎 敏紘

ロータリー・ソング「限りなき道ロータリー」

ソングリーダー

木田川 誠

閉会点鐘

ガバナー

近藤 雅臣



本 会 議

午 前

開会の挨拶



地区協議会実行委員長 阿部 晴彦（大阪）

本日開催の2001～2002年度2660地区協議会に御参集くださいます、御苦労さまでございます。

また、近藤ガバナー、菅生2002～2004年度のR I理事ノミニーをはじめ、パスト・ガバナーの皆様方の御出席を賜わりありがたく思います。その上、この会を開催するに当たりまして、いろいろ御指導いただきましたことを、ここに深く感謝いたします。昼からの部門別の会を開催するに当たり、いろいろ御指導いただくことと思いますが、サブリーダーの方々と共に、ロータリーの長い経験と知識を元にして実務的な話をお聞かせいただけることと思います。

いよいよ7月から2660地区も寺田ガバナー年度に入りますが、この年度の各ロータリークラブの主要なポストの方々に一堂に集まっていただきまして、新しい年度の基本的な方針や理念を確認しあい、ロータリーのいろいろな知識を吸収され、それを各ロータリークラブで生かしていただけるものと期待いたしております。川島会長をはじめ、実行委員の方々が設営に大変な努力をしていただきました。今日一日ロータリーの世界にドブプリ浸かっていただきたいと思います。

歓迎の挨拶



ホストクラブ会長 川島 康生 (大阪)

本日は、近藤ガバナーをお迎えし、また、多数のPast・ガバナーの御出席を頂きましてこの会が開催されますことを大変うれしく、大阪ロータリークラブとして大変光栄に思います。各地区委員長の方々をはじめ、次年度の各クラブで主要な役割を担当されます皆様方が、かくも多数御参集くださいましたということは、寺田ガバナー・エレクトをサポートする立場の大阪ロータリークラブといたしまして、心からお礼申し上げます。

私どもは、阿部晴彦地区協議会実行委員長のもとに、鋭意遺漏なきよう準備を進めてまいりましたが、なにか不都合がございましたらロータリーの精神に免じてお許しください。

次年度のRI会長リチャード・D・キング氏のテーマは、「MANKIND IS OUR BUSINESS」です。これは、なかなか難解なテーマである、と考えるおられることと御察いたします。そこで、この研修をしてこられました寺田ガバナー・エレクトから、直々にその真意をお伝えいただきまして、それを中心として21世紀の開期となる次年度を、いかにすべきかということ十分に協議していただければと存じております。本日の会合が実り多きものとなることを願い、歓迎の挨拶とさせていただきます。

次年度の方針



ガバナー・エレクト 寺田 和之 (大阪)

2001～2002年はロータリーにとって重要な年度です。これには、理由が二つあります。一つは、2001年から21世紀に入り、このロータリーも誕生してから95年になります。95年も経つといろいろな問題を抱えるようになり、創立時の精神で行って来たことが、地球全体の変化、人間の変化によって思うように行かなくなってきています。同種の団体も非常な苦難に直面しています。そういう意味で、この同種団体のなかではいちばん伝統と実績のある国際ロータリーが、どのように変わって行き、将来どのように発展をとげるか、ということが我々世代に委ねられた大きな責任であります。そういう意味で今年のアナハイムのエレクト研修会も非常にボルテージが高く、いろいろな事を教えられたり、指示されたりして帰ってきました。

このような、大変な年度が7月から始まります。そこで、2、3カ月前までにこのような催しをして、皆さんと良く御相談して、新年度をつつがなく任務がはたせるようにというのが、この地区協議会の一番大きな課題であります。そのためには、最初にR Iが全世界的に各ロータリーに、目標と方針を伝えようということです。

I. R Iの目標と方針

1. 国際ロータリーのテーマ

2001～2002年のR Iの年度テーマは、「MANKIND IS OUR BUSINESS」、日本語では、「人類が私たちの仕事」と訳されるものです。このままでは、真意が解りづらく理解できないので、非公式の席で

次のように理解したら良いのではないかということが討論されました。

「人類の幸福に貢献することは、私たちの責務である」。これの真の意味はディケンズの『クリスマス・キャロル』に書いてあるそうですが、要約すると「我々は人類のいろんな問題を解決して、自分の人生を意義あるものにする」ということです。今の難問題を、奉仕の精神で少しでもやわらげるような働きを我々がすべきであります。特に奉仕団体であるロータリーの方々には、よろしくお願いします。

2. キャンペーンのテーマ

キャンペーンの表題が「Rotary's Global Quest (One new member every month)」ということで、これは少し現実的すぎて、我々のやるべきことと一致しないような気がします。ロータリーの全世界での探究であり、毎月1人の新会員を集めてこよう、というキャンペーンです。

R Iテーマと同じ理由で、日本語で表現する場合は、次のように読み替えたい。「世界規模でロータリー会員の増加を目指す。全クラブ毎月1人の新会員を集める」ということであります。

3. 2001～2002年度 R I会長について

このたびの年度の会長リチャード・D・キング氏は、米国カリフォルニア州ナイルズ(フレモント)RCの会員です。彼は、弁護士・俳優・モルモン教会長および祭司です。非常にまじめな方です。

「責任を持って、21世紀のロータリーのスタートを果のあるものにしてほしい。そのためには、会員を増やし、お金を集めて将来の財政基盤を、この1年でしっかりとつくりたい」ということを、あらゆる方面に出しておられます。

お金の決定権のある財団の委員もされている実力者です。キング会長が言わんとされていることは、ロータリアンが自分みずから奉仕の精神を発揮して自分の人生を豊かなものにする。そういう崇高な精神でロータリアンになっている。その奉仕の精神をどのように表現するかというと、現在の社会情勢から考えて、世界平和、飢餓、エイズなどの問題に力を入れ、国際的な奉仕事業をもっとしようではないか、そういうことが底流としてあります。もっと若い人の力も集めて、婦人もどんどん参加してもらって、強力なものにして21世紀のロータリーの奉仕活動をもっともっと盛んにしなければいけません。もちろんロータリーの発足当時から行われている会員同士が自覚を高めるために懇親会を盛んに行うことが今も残っていますが、アメリカあたりでは、日本のRCは、金持ちの高齢者が自分の楽しみで時々集まって食事会をしているだけ、というひどい評判もあるので、もっとまじめな団体であるということを示さなければいけません。

20世紀の後半、世界が平和になってからロータリーの規模が大きく成長してきましたが、ここに来て、経済変動の問題や人間の物の考え方が変わってきて会員数が頭打ちになり、ここ数年は減ってきています。アメリカ、中南米、アジア、特に日本が毎年減り続け、この5年ほどの間に10%は減っています。会員が減るということには、大変な危機感がある。この危機感を解決しようということになり、今までのルールを変えてでも会員を増やし、会費の納入、財団への寄付が増えるということに力を入れなければいけません。これが、キング氏の言われている本旨です。

奉仕活動は、今まで以上に行わなければいけないが、昨年タスク・フォース方式は、少し手を広げ過ぎたので、20数グループを11に減らした。

そして、タスク・フォース方式の推進も重点を絞って行います。

- (1) 2001～2002年度は、前年に引き続き功労があった方には、世界ロータリーとして表彰して激励します。会長賞プログラム等です。
- (2) 「ロータリーの全世界での探究」キャンペーン表彰。これはクラブを拡大するとか、増やす、増強するというなかで、特に優れた方を表彰して国際大会のときに出席していただきます。このような新しい表彰方法が今回できました。

II. R I 2660地区の目標と方針

1. 地区のテーマ

ロータリーのテーマはR Iのテーマが唯一のもので、クラブや地区がサブテーマを使用することは、R Iのテーマを補足するものであっても禁止されているので、地区のテーマは設定できません。

2. R Iと地区との関係

ロータリーが全世界的規模で拡大発展するにつれ、社会的、文化的、経済的差異によりある程度の格差や遅延は、やむを得ざる特例として容認せざるを得ません。従って、次年度についても若干の相違は生ずることになるでしょう。しかし、組織の変革、すなわち地区リーダーシップ・プランの導入については、日本地区でわずか数地区が取り残されようとしているので、次年度前半で、R Iの承認を得て2001年11月までには6人のガバナー補佐を選出し、2002年2～3月にはガバナー補佐制度の導入と中間指導者層の研修を開始したい。また、その他の方針は、極力実行に移すが、数値的目標については、当地区の特殊性を勘案して、努力目標と最低限度目標に分けて提示します。

3. 問題別の目標

- (1) 会員増強（純増数）
大規模クラブ（会員数100名以上）

10～15名

中規模クラブ（同40名以上100名未満）

4～5名

小規模クラブ（会員数40名未満）

2～3名

レジュメにある参考「世界の会員数の推移」の表を見ていただければわかりますが、2000年12月末日には、大勢が少しは緩和されていますが、あと後半の期の間に減少傾向が続くと大きな減少になると思われます。

当地区は、12月までは減少が止まり増加傾向もあったが、1月からまた少し減少が始まっています。しかし、皆様の努力で2つの新クラブが誕生しました。この新クラブが入ったことで今のところ5,000名の大台は守っています。今年度は、これ以上可能性がないので6月末には少し減少するのではないかと思います。しかし、維持できれば今までの3、4年間のことを考えると大変がんばっているのではないのでしょうか。

日本の経済は、株の暴落や構造変革で事業を行っている方々にとってきびしい状況になってくるので、来年度は、普通の努力では現状維持もむずかしく、先ほど申し上げましたような増強の目標がありますので、依然として高いハードルです。増強がいちばん大きなテーマになっていますので、よろしくお願ひします。

(2) 会員維持（退会防止）

重点目標は、

①御逝去者・高齢重病者以外の退会者を極力慰留する。

②遠隔地転勤者には後任者など関係者の紹介を要請する。

(3) クラブの新設

クラブの新設も、今の日本では人の移動だけになってしまう恐れもありますので、もう一度よく見直す必要があります。しかし普通は、クラブの数を増やすことによって全体の拡大につながるようになるでしょうから、2、3のクラブの新設を次の年度も結成するように努力をお願いします。

4. 広報活動の活発化

- (1) マスコミの評価が高いプロジェクトや奉仕活動を実施する。
- (2) Eメールなどにより報道機関に情報を流す。

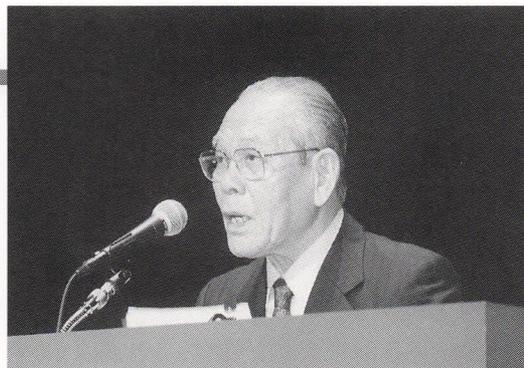
5. パソコン通信の活用

次のようなことで今も活用をお願いしていますが、これからも益々活用してください。

- (1) 基本的な保存情報の整理、及びペーパーレス化の推進。
- (2) 地区内外の各クラブとの情報ネットを拡大し充実させる。

(以下、6.職業奉仕、7.社会奉仕・青少年奉仕、8.国際奉仕、9.ロータリー財団、10.米山奨学会その他は略。レジュメ及び、本誌各部門の報告ページを参照)

ロータリーの原点とその周辺



パスト・ガバナー 松本 良諄 (大阪東)

ロータリーの綱領

(国際ロータリー定款第4条、標準ロータリークラブの定款第3条に明記)

ロータリーの綱領は、有益な事業の基盤として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹育成することにある、として4項目に整理されました。いろいろ変遷があり、現在の形になったのは1935年です。主文の中にある「有益な事業」や第2項の「有用な業務」となっているのは、すべての人々につくすために存在価値を持っている仕事、事業という意味です。

奉仕の理想

奉仕の理想というのは、以前からのロータリアンでも解りにくい、と言われている項目であります。「奉仕の理想」という翻訳に至った経過を見ると、欧米の先進資本主義国の社会に対する物の考え方に、個と社会との関係が日本とは相当違っている。欧米の場合は、個が確立されていて、個人が社会の単位として十分機能している。そういうところに「Guard of Service」が生まれてきたと考えられます。

人間は、1人で生きてはいけません。いろいろな人の助けを借りる。その助けの借り方は、いろいろな人の職業であり、社会的活動の成果を頂いて幸せを求め、生活していくわけです。自分の方からも、自分の職業や社会的活動を皆さんに受け取っていただいて、生活を営み幸福を追求するという

形になっている。

わが国を始め、アジア辺りの非欧米社会では、この辺の事情が違っているのではないのでしょうか。戦前は相当違っていたが、今でも大分違ってきます。一言で言うと、与えられている条件を国であれ社会であれ受け取って、そのなかで適用して幸福を求める、という形で、個というものの自覚が先進欧米型の社会に比べて薄いのです。従って、先ほどのサービスの考え方が違ってきます。日本の場合は、ごくごく簡単に言うならば「皆で渡れば怖くない」という社会思想が強いです。学歴主義、年功序列などの日本的な考え方は、経済発展の段階では長所とされてきました。ここに来て行き詰まってきたとはいえ、まだまだ残っています。そういう所にサービスのアイデアが、混乱を起こす一つの原因になっています。

米山記念奨学金の生みの親の米山梅吉氏は、充実したアメリカ留学体験をお持ちの方ですが、この方がポールハリスの著書を翻訳されるに当たり、サービスを翻訳されていません。カタカナでサービスと書かれており、奉仕という言葉を使っておられません。当地区のパスト・ガバナーで大変な理論家として全国的に名前が通っておられる塚本さんも、奉仕という言葉は使っておられません。

理想についても問題があり、一番高い所を理想とするということではなく、サービスの心というように訳したらよいと思っています。台湾では、「サービスの理想」と訳していますが、我々が考える「サービス」と感覚はあまり変わらないように思います。いまは、奉仕の理想をサービスの理念、観念と替

えて訳している方もおられます。私は、これをロータリーの「奉仕の心」と訳したいと考えています。

「The ideal of service」の実態は何かというと、一応 R I では、「The soulfulness of helpness and togetherness」（他人に対する思いやりと手を差し伸べること）と注釈されている。アーサー・シェルダウン氏は、1908年にロータリークラブができて3年後にシカゴロータリークラブに入って、利を得るに手段を選ばないシカゴの実業関係のなかで「ロータリークラブの存在、意義は何なのだろう」と考えました。一部の人の商業道徳が地に落ちているなかで、公明正大な経営方針を掲げて固定客を獲得し、然るべき成績を上げている、という事実を発見して、その理由を探究した結果、「相手の立場に立って物を考え、その人のためにつくす」という考え方がそこにあります。これを、シェルダウン氏は「サービス」と概念規定をしました。このことで、ロータリーの存在意義として確立したらよいのでは、とポール・ハリスに提言しました。ポール・ハリス氏もかねてからロータリーの理想を求めている、存在理由をはっきりとしなくてはいけない、と考えていたところでしたので、これを喜んで受け入れ、中心概念として理論構成のスタートに置きました。

私は、「奉仕の理想」と訳されているために、いろいろな面で混乱が起り、十分な理解が得られていないので、この辺で修正して行ったほうがよいと思います。もともとロータリーは、「職業奉仕」というのを目的とする団体ということでスタートしました。しかし、この「職業奉仕」というのが、どういうことかいはばん分からないという人が多いです。職業は、お金を儲けることだし、奉仕はお金を出すことで、矛盾している、と言われる人が多い。しかし、綱領の第2項に掲げられているので、これを読めばはっきりと解釈できます。すなわち、「事業及び専門職務の道徳的水準を高めること、あらゆる有用な業務は尊重されるべきである」という認識を深めること、そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するためにその業務を品位あらしめること」とうたってあ

り、これが、奉仕の大きな筋道であります。

レジュメに書きました二つの標語は、アーサー・シェルダウン氏が掲げた「最善のサービスをした者に、最大の利得がある」と、もう一つは、フランク・コリンズという人が提案した「奉仕第一、自己第二」と訳したい。順番を言っていると、私は思います。物質第一主義ではなく、人間が幸福になるために「最善のサービスをした者に、最大の利得がある」としています。

ロータリーの理念のなかで「ロータリーでは、利益をむさぼったり人と競争して勝ったりすることは、いけないのでは」という思い違いをされていることが随分あるのではないのでしょうか。そんなことはありません。日本の奉仕という言葉の中に、「自己を犠牲にして」という意味がありますが、ロータリーのサービスには、自己を犠牲にするということはありません。奉仕をしても、必要経費は頂きますし、その他それに応じたものは、受け取っても良い、という考え方があります。

四つのテストは、翻訳でよく誤解があります。特に2項と4項に「みんな」という言葉がありますが、これは、不特定多数を対象にしているというように聞こえるので、きれいごとすぎる、という意見が相当古いローリアンの中にあります。これを英語で見ますと「It's fair to all concerns」で、総ての関係者にとって公正である、と示されていますが、日本人にとって「フェア」という観念はなかなかかわからないようで、アメリカ元日本大使のライシャワー氏が、貿易摩擦の時に嘆いておられました。合法的とか言うのでなく、日本語にあえて直すのであれば「公明正大」というのではないのでしょうか。

そうしてみると第4項に、はっきりと「総ての関係者が全員もうかりますか、ほんとうですか」と締めくくって、職業奉仕一番の励ましの言葉であると、私は理解しています。今では、「四つのテスト」は職業奉仕だけでなくロータリーの奉仕全般に渡ってのターゲットになっています。

これらの標語は1910年代にできたものでありますが、21世紀には、日本人のなかからでも21世紀

向きのロータリーの標語を考える人が出て来られないかと期待しています。いま、いちばん近い距離におられるのが菅生パスト・ガバナーで、R Iの理事ノミニーになられましたので、期待しております。

社会奉仕は、1910年代に職業奉仕が進んできたなかで、身体障害児童に支援したことに端を発して、社会奉仕も必要ではないかということになりましたが、「ロータリーはあくまでも職業奉仕の団体である、社会奉仕は個人として行ったらよいのであって、クラブがそのようなことをしてはいけない」と相当過激な議論がなされました。アメリカのロータリークラブが二分するような騒ぎにもなりました。I serve 職業奉仕か、We serve 団体奉仕です。

ナッシュビルのロータリークラブが一つの案を提案しました。1923年の34号議題であったので「決議23の34号」と言っていますが、「ロータリーというのは、人生哲学である、利己と利他の立場の葛藤を調和させる」というのを掲げて騒ぎを治めました。一大会の決議であります。それ以降これが綱領を補足するほどの大きな力を持って、特に日本人は、これを大切に考えて「決議23の34号」は、ロータリーの般若心経であると大事に思っている人が多いです。職業奉仕の二つの標語と四つのテストは、神道でいう三種の神器とロータリーでは言っています。しかし、般若心経や三種の神器に代わるもっと新しい物が出てきてほしいと思っています。

国際奉仕は、第一次世界大戦の戦災関係の補償や傷病兵の慰問などから火がついて起こりました。奉仕部門としては歴史が新しく、初めてロータリーの国際大会に取り上げられたのは1919年です。その3年後、サンフランシスコ大会で綱領の中に奉仕として一つの項目に明文化されました。1922年は、この大阪ロータリークラブが日本で2番目のロータリークラブとして誕生した年です。

2004年開催の国際大会について

国際大会特別委員会委員長 パスト・ガバナー 戸田 孝 (八尾)



関西で初めての国際大会が2004年に京阪神4地区合同で開催されます。1905年2月23日にポール・ハリスが、第1回会合をシカゴの地で開きましてから実に99年目の国際大会です。100年目は、創立したシカゴの町で国際大会が開催されます。そのプレ・コンベンションという位置付けで、重要な意味を持っています。

国際大会は、1910年にシカゴの地で第1回が開催されました。それから毎年世界各都市で開催されてきました。その間、日本では2回開催されています。1961年、1978年で、両方とも東京で開催されました。1961年の大会は世界70カ国から23,366人が参加し、当時としては最高の出席数を記録しました。1978年大会は95カ国より39,834人（東京RC70周年誌では40,155人）の参加者の記録をつくりました。1961年も1978年もそれまでの大会の記録を塗り替えています。特に1978年大会の参加者数の記録は、現在に至るまで破られていないのです。この成功は日本のロータリアンのロータリーにける熱い思いが実を結んだ顕れであると考えられます。日本のロータリアンは心が熱く、何かあれば一生懸命やろうではないか、という心を持った方々であります。

「国際大会を関西で!!」という諸先輩の長年にわたる念願が叶いまして、21世紀初頭に4地区連合で行われるということになりましたのは、日本ロータリアンの熱意が国際ロータリーに通じたのだと思います。

大会開催日は2004年5月23日（日）から26日（水）の4日間となっています。参加人員の予想

は、5万人と推定されています。その内訳は、外国のロータリアン並びにご家族2万人、日本のロータリアン並びにご家族3万人、合計5万人となっています。

開会式は5万人の収容力を持つ大阪ドームで行うということで国際ロータリーの一応の了解を頂いています。その他に、いろんな「本会議」がありますが、これは大阪南港の「インテックス大阪」「ATCミュージアム」等で行っていくことになっています。

この国際大会は4日間だけでなく、これに先だって5月20日から22日まで3日間、「ロータリー国際研究会」という大変な研究会が開催されます。皆さんも是非参加してください。更には、「青少年交換会議」、「国際ローターアクト会議」が開かれます。また、大阪・京都・神戸各都市の諸会場でイベントが計画されています。

今後の国際大会は2000年度アルゼンチンの「ブエノスアイレス」、2001年度アメリカの「サンアントニオ」、2002年スペインの「バルセロナ」、2003年度オーストラリアの「ブリスベーン」で開催されることになっています。

2004年の開催地「大阪」が他に先駆けて決定されたのは、京都RC千宗室氏（元RI理事）を委員長とする日本の「2004年RI国際大会準備委員会」による周到な計画と不退転の決意によってもたらされたものと信じています。準備委員長として永らくご活躍いただきました古田パスト・ガバナーに衷心より御礼申し上げます。

現在は、総括委員会と実行委員会とに分かれて

います。総括委員会の委員長に千宗室元R I理事をお願いし、副委員長に今井元R I理事、小谷元R I理事、当地区から古田パスト・ガバナーと大阪大学元総長・熊谷先生が総括副委員長になっていただいております。

実行委員会では、12部会を設けて専門的にいろんな検討を加え、行動しています。当地区から12部会のうち5つの部会にパスト・ガバナーが部会の隊長として就任してもらっています。通算18回の会議を開いて実行計画に取りかかっています。また、小さな会議は数限りなく行われています。いよいよこれから追い込みですが、今後とも皆さんをはじめ、日本全国のロータリアンからの物心両面にわたるご援助ご協力を頂かねばなりません。

特に開催地である大阪2660地区の全ロータリークラブ、全ロータリアンの皆様に計り知れないご協力をお願いしなければなりません。皆さんと一緒に力を尽くし、日本草創の地、平城・難波・平安で開催される国際大会を成功に導き、世界平和にかける日本の姿を世界中の人々に伝えていきたいと心から願っています。

どういう経過で、大阪で開かれるようになったかといいますと、1996年2月に国際協議会を行った時に、2004年の国際大会は日本で開催しよう、という案が起きました。それから順次大阪で開催しようということになりました。1997年2月に推進準備委員会をつくり、千宗室さんに委員長になっていただいて、R Iへの働きかけをしました。もちろん古田パスト・ガバナーも、その中に加わり、大いに活躍してもらいました。そして、1978年の東京国際大会の経験者に話を聞くことになりました。玉村文夫パスト・ガバナーに大阪に来ていただき、お話を聞き、資料を頂きました。

東京大会が4万人だったので、今度は5万人だろうと玉村さんが言われ、私も試算をしてみました。1978年の1月の会員数は、日本を除く世界のロータリアンは、73万6千人で、現在は107万人でありますので、東京大会の時の1.46倍の会員数があります。日本のロータリアンは、1978年の時は7万5千人で、現在は約12万人で1.6倍です。

東京大会の4万人と今回の5万人の計画は、1.25倍で、倍数からいえば十分安全圏にあるので、達成することは可能であるという結論を導きました。

開催するための資金は、どのような計画で集められているのかというのは、次のようです。募金を始めたのは、1998年から2002年までの5年間に区切って、日本全国からお願いしています。分担金は、会費と一緒に頂いているのでご存じない方もあると思います。4地区のロータリアンから半期2千円のご負担をしてもらっています。年4千円で、5年間に2万円ずつになり、知らない内に頂いています。日本の他の地区は、半期1千円ずつ年に2千円、5年間で1万円と当地区の半分だけを負担してもらっています。合計で14億5千万円位の資金が集まるのではないかと計算しています。

それにそって、いろんな計画を立てています。大阪ドームを9日間借りておいてほしいと国際ロータリーが言っています。これは、大変な費用がかかります。その他にも大変な費用がかかります。交通の便の関係で、「インテックス大阪」「ATCミュージアム」より「リーガロイヤル」と「国際会議場」がよいのではという案も出ていて、国際ロータリーでいずれ決定されます。

どうしてこんな大変な国際大会を大阪で開かなくてはいけないのか、という方もあります。この大阪ロータリーができて80数年になりますが、この永い間に一回も大会を開催していません。また、毎年世界各地で行われる大会に行き、きちっとした準備がされていて、ホスピタリティーの確立した大会に出席し、感動して日本に帰ってきますが、これに対してお返しをする年度であると思います。特に2660地区が中心になって、個人個人の能力を結集してこれに当たってください。よろしくご協力の程お願いいたします。

(編大) 立麻 田寺
 (編大) 三野 田吉
 (編大) 三野 雅立
 (編大) 栗原 敏平
 (編大) 三系 共土
 (編大) 一太 藤岡

部門別協議会

本協議会、その目的は、協議会委員会の目的
 の達成を期し、各委員会の活動を
 支えることにある。また、各委員会の
 活動の進捗状況を把握し、必要に応じて
 調整を図ることにある。

会長部門

| | | |
|--------|-----------|------------|
| リーダー | ガバナー・エレクト | 寺田 和之 (大阪) |
| サブリーダー | パスト・ガバナー | 古田 敬三 (大阪) |
| サブリーダー | | 立野 純三 (大阪) |
| サブリーダー | | 下地 民男 (大阪) |
| S A A | | 土井 洋三 (大阪) |
| 記録 | | 廣瀬 太一 (大阪) |

2001～02年第2660地区予算案

立野サブリーダー 次年度、代表幹事をさせていただきます立野です。次年度地区予算案について説明いたします。資料2をご覧ください。ご留意いただきたいのは、単年度予算を赤字にしないということです。

収入の部はR I から交付されるのが200万円、各クラブからの拠出金が7,500万円、その他の収入が300万円、計8,000万円です。それに見合う支出を各委員会にお願いをしています。8月には近藤ガバナーの決算が出ますので、その時点で補正予算を組んで、最終的な2660地区の2001～2002年度の予算としたいと考えています。

2004年に関西4地区合同で開催されます国際大会の前に、ローターアクト世界会議が5月に大阪で開催される予定です。それに向けて、2002年3月2、3日開催予定の全国ローターアクト研修会のホストを、第2660地区のローターアクト委員会が引き受けることになりました。

従来の地区予算の範囲ではとても賄いきれない行事ですので、各クラブには人頭分担金ということで、会員数×2,000円のご負担をお願いしたいと思います。その根拠は、資料3の通りですので、ご了解のほどお願いいたします。ユニバーサル・スタジオのオープンに伴って、大阪市内の各ホテルの見積もりも高くなってきています。各クラブには2002年の2660地区のホストに際して合計1,110万円の助成をお願いしたいと思います。

2001～2002年の地区大会につきましては、ここ

3年間と同じく全員登録制をお願いして、開催させていただきたいと思います。ご理解をお願いします。まだ、1人当たりの費用は決定していませんが、次の時代につながるような地区大会にすべく、十分に詰めていき、実質的な地区大会、内容のあるものになりたいと考えています。

小中 (大阪東) ローターアクトの2,000円は1回限りですね。わかりました。

次に地区大会の全員登録の件ですが、私どものクラブは従来から一貫して反対してまいりました。地区大会の全員登録について4年前から、常に地区協議会で決めていることを疑問に思います。本来、地区大会で決議すべきではないかと思っているのです。

地区資金の額は地区協議会で決めてもいいですが、地区資金を立てることは地区大会の決議ですから、以前に地区大会において2660地区が地区資金を立てることは決議されたはずです。従って、1万円近くなる地区大会登録費用をとるのであれば、全員登録するというのは、地区大会で決議されるほうが、私は理にかなっていると思うのです。

寺田ガバナー・エレクト (G E) 過去のいきさつはよく存じませんが、最初に全員登録という本則でないものを決めるときに、次年度のことを決める地区協議会で決めるのがいいだろうということで、そうなったんだろうと思います。日本のかなりの地区が地区大会の全員登録をすでに実施していますので、地区大会で決めなければならな



いというより、地区大会のことは次年度のための協議会で決めています。

いまのご意見は実務的には納得いくご意見ですが、従来の流れがすでにできていますので、具合が悪ければ流れを変えろということを次の機会、地区大会でも来年の協議会でも結構ですが、地区大会は来週に迫っていますので、今回は従来どおり、地区協議会で決定したいと思います。

古田パスト・ガバナー（PG） 寺田さんがいわれたとおりです。寺田さんご自身は全員負担ではなく、大会参加者だけの費用負担でできないかということの研究し、皆さんと議論されました。何とかそれができれば、それにこしたことはありませんが、実際に検討しますと、自由登録にすると大会そのものが運営できるかどうか、瀬戸際まで追いつめられることとなります。

何とか今年は皆さんにご了解をいただき、全員登録ということで収めさせていただきたいというのが、寺田さんのご本心です。その点ご了承ください

さるよう、私からもお願い申し上げます。

立野サブリーダー いろいろのご意見もあるかと思いますが、地区大会、ローターアクトの費用についてご賛同いただきたいと思います。拍手で賛同とかえさせていただきます。（会場拍手）

ありがとうございます。ご賛同いただいたということで、地区大会の全員登録、ローターアクトのクラブ会員数に対して2,000円の人頭分担当金を頂戴して、ぜひ、地区大会、ローターアクト全国大会を実りあるものにしたいと思います。

地区リーダーシッププランについて

寺田GE 地区リーダーシッププランの導入については3年前のRI理事会で採択されました。予想したよりも各地区における導入のスピードが遅いので、一昨年の2月の理事会で2002年7月から導入させるという最後通牒のようなものが決まりました。

日本では導入していないところは3地区くらいでしたが、最近殆どが導入を決定したときいています。当地区にとりましては来年7月の導入ということになりますと今日の協議会で結論を出さなければいけないことになります。一昨日、地区の諮問委員会でご了承を得ましたので、本日の地区協議会に提案いたします。

ガバナーは毎年1人だけです。クラブ会長さんは何十人といいますが、ガバナーの仕事と、会長の仕事はかなり異質なものですから、代理する、補佐するということできません。ガバナー補佐としてしかるべき人を任命し、その人が自分の担当するところと平素から連絡を取っておれば、公式訪問のとき、その人について来てもらってもいいし、どうしてもガバナーが忙しければ、補佐に任せることもできます。報告書についても、事前にガバナー補佐が各クラブと連絡を取り下調べをしておけば、ガバナーは下調べに基づいてお話をする。下調べ書類が報告書のかわりになり、ガバナーはサインをして、本部に公式文書として送ればよい。こうすることにより、ガバナーがいまままでの激務から若干は解放されて、突発事態が起こったときに専念できるとか、公式訪問実施中にはほかの委員会に行く時間もない、いろんな行事に欠席する、パスト・ガバナーに行ってもらう、というような、あまり好ましくないことが緩和されるだろうということです。

要は、中間的なものをつくることによって、現在、少し無理が生じている世界ロータリーの組織を、合理的な活性化したものに変えられるのではないかというのが、最大の目的です。日本でも35地区のうち、おそらく34地区までは踏み切っている状況です。いままでのいろいろないきさつはありますが、2660地区としては、この機会を逃したらいへんです。最後の機会として、本日、皆様のご承認を得て、手続きを進めたいと思います。

新しい方式がすでに提示されていますので、その方式に基づいて、次期エレクトの方が主になって、できれば来年の3月にガバナー補佐研修会を

開いて、2002年の7月からガバナー補佐制度を発足させることが大切です。

古田 P G 一言だけ補足します。かつての私どものガバナーの先輩によると、「大阪は地区内にクラブが密集しているので、どうしても分区代理を置かなければならないというわけではない。分区代理をつくると、それに伴う弊害が出てくる」ということでした。当地区は分区代理を置いてないものですから、新しく出発するような制度に取り組みということになりました。その点で、ご理解が難しいかもしれませんが、ご研究いただければ、そんなに難しいことではなく、最低限6名のガバナー補佐を設けるなどがありますが、徐々にやっていけばいいわけです。急に、無理して、というわけではありませんので、十分ご研究いただいた上、何か質問があればガバナーにしてください。

土井 S A A 地区リーダーシッププランについて、会場の拍手をもちまして、ご承認頂いたものとします。

寺田 G E ユニバーサルシティ・ロータリークラブというのが、先だって設立総会をしました。I Mの組み分けで、地理的には第5組にお入りいただくことになります。ただ、第5組には現在最も多い13のクラブが入っています。一方、第6組(大阪東、大阪城など)は11クラブですので、大阪天満橋にそちらに移っていただくことにしたいと思います。(会場の拍手で了承)

各クラブが持つ諸問題

寺田 G E 先だっただけお願いしましたアンケートについて報告します。資料6をご覧ください。

1. 貴クラブが当面している最大の問題について

- A : 会員増強・退会防止……………65
- A-1 退会者の増加による会員数の減少 ……38
- A-2 会員数の維持と増強 ……………22

A-3 退会防止対策 5

B：会員高齢化による活力の低下など.....10

B-1 休会、退会者増加と出席率の低下 ... 8

B-2 新入会員教育指導への影響 1

「創立43年経過、古参会員と若手会員との精神的ギャップの融和を図っている」

B-3 出席規定免除について 1

C：クラブ活動など.....11

C-1 魅力あるクラブ造りによる活性化 ... 5

C-2 地域に密着した奉仕活動の推進 3

C-3 RAC・新世代対策の強化..... 3

D：クラブ経理・財政の問題処理..... 9

D-1 会員減による収支不均衡打開策 4

D-2 年度収支赤字による財務体質の弱体化 ... 4

「事務局員削減、事務所共同使用など」

D-3 リストラ策進行中で予算見通し困難 ... 1

「例会場の無償提供が困難となり予算計上ができない」

E：クラブ内の人間関係..... 7

E-1 年齢差、在会年数差による考え方の相違 ... 5

E-2 偏った勧誘は同質集団化を招く 2

2.過去1～2年間に会員数が著しく減少した主な原因について

3.会員数が過去1～2年間に増加ないし僅かな減少にとどまった効果的な会員増強策および退会防止策（2.3を併せて）

A：経済状況の変化に起因.....39

A-1 企業の倒産・経営の悪化24

A-2 企業の経営改革・人的リストラの影響 ...15

B：会員高齢化の影響が大.....17

B-1 体調不良・持病などによる退会12

B-2 会員に世代交代の動き 5

C：クラブ運営のマンネリ化と魅力の低下...15

C-1 奉仕活動に熱意をなくしての退会 ... 6

C-2 年代間の意識の乖離・人間関係の悪化 ... 5

C-3 例会や奉仕活動に魅力がない 4

D：新会員への対応が不十分.....11

D-1 新会員の教育・フォロー体制の不備 ... 7

D-2 結果的には不適格者を入会させた ... 4

E：著しい会員減少はなかった.....47

4.貴クラブの2001～2002年度の会員増強（純増）の目標について

| | |
|--------|----|
| 0～2名の増 | 16 |
| 3～5名 | 56 |
| 6～10名 | 7 |
| 11名以上 | 1 |

5.事務局におけるパソコンの利用状況

| | |
|--------------|----|
| 使用している | 64 |
| 使用していない | 17 |
| 2年以内に使用予定 | 7 |
| 回答なし | 4 |
| クラブのホームページ開設 | 30 |
| 電子メールを使用 | 48 |

6.2000～2001年度の地域社会および国際社会に対する奉仕活動のうち特色あるもの

（ずいぶん多いのでここでは省略。必要な場合にはガバナー事務所へ問い合わせ下さい）

7.地区に対する要望

30近く頂いた中から代表的なものを3つ記載。

- ①地区の各種分担金・カンパについては充分考慮されたい。
- ②地区大会は全員登録をやめ、任意登録で簡素に開催すること。
収入が減少しているのだから簡素にしようという意見は正論ではあるが、それを実行することは難しいのではないか。
- ③各種募金、人頭分担金など、金銭的負担が従来以上にならないこと。

会員数の維持とクラブ運営

越智(大阪北梅田) 会員数の維持と増強について、都市型クラブでは運営上、50名が最低必要といわれています。いまのところ2名、うまくいけば今期中にもう1人増員、増強ができるのではないかと考えています。

前年度、実質赤字になり、本年度は会長および幹事、理事会のほうで経費節減に努めています。慣例の行事などを取りやめたり、ホテル側と交渉して食事を安くしたり、あれこれ対策を考えまし

た。年会費30万のうち半分は例会の食事代です。残りです事務局、事務局員の給料などを賄っていきとなりますと、48名という数字が出てまいりました。入会金をあてにしない、健全経営というのは少なくとも50名であろうという結論を出しました。

高木（高槻東） アンケートに「旧退会者の再入会をはかり、次世代の方も増強したい」と書いてますが、これは、入会されて短期間で、入会年数の短い方がやめておられることがわりに多い。増強も大事であるが、もう一度そういう方を見直していくのも大事ではないかと思えます。二代目、三代目になる方が、現役でお店を継がれています。そういう方も見直していきたい。それとJ Cの方も入会していただくよう、努力していきたいと思っています。

成尾（吹田） 創立43年目を迎えた当クラブは、会長経験者が増えて新旧のギャップができています。それをなくす意味で、例会のテーブル配置も新旧おりませで、できるだけ歓談の時間を持てるようにしています。新旧のギャップをなくすよい方法があれば教えていただきたい。

松岡（大阪うつぼ） アンケートにありますように、諸問題を含めたリストラ、スリム化を考え、リストラ委員会を創るつもりでおります。

当クラブの姉妹クラブである大阪本町クラブと事務局を共同にし、現会長の持つておられるビルの一室を非常に廉価で借りることができました。それで年間約100万ぐらいの減少が可能です。

当クラブは夜の例会ですので、3,900円のところ3,700円にしてくれとホテル側と交渉して成立しました。また、月に一度はカレーライスでいいじゃないかと努力しています。

結婚記念日の記念品に、現在2,000円程度の品を贈っているのですが、その廃止を委員会にもお願いしています。実現するかしないかは、これからの問題です。クリスマス、家族会も簡素にして経費の節減をはかっています。

また、各委員会が多いので簡素化して一緒にできるものは一緒にしてしまったらどうかと思いません。

寺田GE ありがとうございます。話は飛びますが、宮城県と岩手県が昔は一つの地区でした。数年前に二地区に分割し、活力をつけようとしたことがあります。しかし、クラブ数が増えず、会員も減少してきたので、この1、2年以内に再び宮城と岩手がまとまり、日本の35地区が34地区になるという動きが出ています。

50名が最低必要というご意見は、まことに傾聴に値するものであると思えます。人数の少ないところは、運営がやりにくくなって解散するのではないか。だから25名以下のところは早い目にどこかと一緒にしてひとつのクラブにするなど、非公式の話をしています。

ブラジル、オーストラリアと、人口が密集している日本を同じ物差しで考えるのは無理がありますので、新しい解決策、そういう意味で、50名というのはひとつの流れに合っているとは思っています。

過去の退会者を再入会させる

寺田GE いろいろ事情もあって入りにくいのではないのでしょうか。差し障りのないところ、別のところへの入会をお勧めすることも考えられなまいらうかと思えます。J Cというのともたいへんいい考えだと思えます。

世界全体で考えますと、次世代、ロータリー本部は20代ぐらいの人を考えているようです。日本ではどちらかという、成功者、会社でもかなり出世して役職についた方が入っておられました。

次世代となりますと、社会的地位、収入に大きなギャップができ、その方に合わせて会費を下げるわけにはいきません。若い人は会費は安く、権利は同じというのいろいろな問題があるでしょう。これは、女性会員の問題にもつながると思えます。年齢、性別の問題は関係なしに、どんどんお招きする方向に1日も早くいかねばならないのではな

いかと思っています。

世界的な動きとしては、パイロットプラン的な考えで、試験的な新型クラブをつくって、3、4年後にその結果を見て、2005年にまた大改正をする。そのときに、新型も公認する。世界ロータリー全部でいろいろ知恵を出して、壁をとらなければいけないのではないかとと思っています。

新旧会員相互の精神的ギャップはいずれは乗り越えないと、ますます精神的ギャップが広がるのではないかと懸念します。懇親会などを実施して融和をはかっているのは、たいへん正しい方向だと思います。欧米の傾向としては奉仕、サービスのほうへもっと力を入れて、懇親団体という性格は少し薄めてもいいから、各社会に貢献しなさいという方向にいています。

RCのリストラ

寺田GE クラブ収入は会員が増えないことには増えません。これ以上、会員の方に増額をお願いするのは非常に問題があります。ガバナー事務所においても当面は大幅なリストラで、事務所経費を減らすのに尽力しております。

例会も、事務局もできるなら合併したほうがいいんじゃないか。クラブの数が減るといっても、ロータリー全体から見ると好ましいことではありませんが。

似たような委員会は1本にしたらどうかというのは、いずれはそういう方向に向かうと思うのですが、いままでのロータリーがどちらかという、組織を大きくし、委員会を増やして発展していこうという方向できました。

タスクフォースという名前を使っていますが、新しい仕事をつくってロータリーの活動を拡大する方向なので、まだ難しいです。できることから手をつけようということで、次年度に引き継いでいきたいと思っています。

各クラブでいくつもの委員会を運営するのもどうかと思います。その年度のガバナーに相談して、個々のクラブの規則をお変えになれば廃止できる

と、思います。

地区の独自性をうちだせ

神内(箕面) 会員が減少し、費用が足りなくなり、会員自身が意識改革しようということで、地区報告業務すべて委員長にお願いしました。できるだけ事務局を使わない方向です。やっと次年度、32年間勤続の事務員のかたに退職してもらうところまでこぎつけています。

大阪府の場合、大和川以南は和歌山と同じ地区となっています。そのなかで、なぜ拡大し、増強をはからなければならないのか。兵庫県もそうですが、2650地区などは地区大会に行こうとすると、日帰りは無理です。ガバナーもたいへんです。そういう意味では、2660地区のガバナーは怠慢ではないでしょうか。大きいクラブも小さいクラブもグロスで考えるのではなしに、その地区の独自性をRIに声を大にして言っていたきたい。

アンケート結果を披露するのではなしに、ガバナーが見た結果、どうしたいのだということをご披露いただけたら、私は来たかいがあったと感じます。

先ほどの地区大会の全員登録の問題も同じです。どこのクラブもいま意識改革、また経費節減に努力しております。1組から6組まであるIMにしても経費節減で努力しております。どのように経費節減をして、登録料8,000円を減少されたのか見せていただきたい。

寺田GE 私も立場がちがうときは、同じ意見でした。国際ロータリーとして、ほかの同種団体に負けないように、もっと会員を増やして、もっとお金を集めてというのには、非常な矛盾を感じています。しかし、それとは別にわれわれがロータリーに入会して、ロータリー精神をみんなに広げ、それなりの成果をあげて、ロータリーの会員になってよかったと思うような運営をしたいと思っています。日本のロータリーのありようが、世界の別の国のロータリーのありようとちがってあた

りまえ。ということは、この2660地区のなかでも同じ物差しでやらなければいけないことはありません。

私は、退会防止の統計で、死亡した方、重病で会員を続けられなくなったという方も、本人都合で退会された方と同じウエートで統計しているところに疑問を感じました。

即答がない、反応がないとおっしゃる気持ちはよくわかりますが、ガバナーも1年で替わります。事務所のリストラもやろうと思っただけで、打てば響くような対応をすることについて努力はしますが、そう簡単にできるものではないこともご了解ください。

古田 P G サブリーダーとして、一言申し上げます。私はかつて1988年度のガバナーを務め、アメリカで他のガバナーの皆さんと教育を受けました。ワシントンDCの郊外にある軍人墓地。その一隅に第35代大統領J.F. ケネディの墓があります。石碑に大統領就任演説の一説が刻まれています。

「And so, my fellow Americans: Ask not for your country can do for you. Ask what you can do for your country」。

「親愛なるアメリカ国民の皆さん、あなたの国アメリカがあなた方に何をしてくれるか問うのではなく、あなた方がアメリカのために何ができるかを問うべきである」。

換言しますと、少しでも国のために、社会のために役に立つ人間になるように努めましょうとなるわけですが、アメリカをロータリーに差し替えてみました。

「And so, my fellow Rotarians: Ask not for your Rotary can do for you. Ask what you can do for your Rotary」。

「ロータリーが何をしてくれるのか問うのではなく、あなた方がロータリーのために何ができるかを問うべきである」。

こういうことでお考えいただいたら、皆さん方、大いに気概もあがるかと思えます。

もうひとつ、カリフォルニアにペブルビーチと

いうゴルフコースがございます。その有名なコースのカントリークラブにピーター・ヘイズという、すでに亡くなられた有名なプロがおりました。がんにスコットランドのライフスタイルを守りとおしたジェントルマンでした。

ピーター老が口癖のように言うのが、「プレーを早くしろ、文句を言うな」ということです。スロープレーヤーは現在、世界的に弊害になっています。さらにピーター老が強調するのは、「グリーンの傷跡は自分のつけたのはもちろん、時間が許せば、他人のつけた傷もおして立ち去れ」と言っております。

ロータリーについても同じことが言えると思うのです。皆さん方が会長になられ、1年間務めてその役を去るときに、一つでも二つでもクラブをよくしたという実績を残していただければ、ロータリークラブは1日、1日よくなるのではないかと思うのです。

寺田 G E 会長部門のお集まり、長時間にわたり、率直なご意見もいただき、熱心に聞いていただきました。古田さんのお話ではありませんが、皆さん、責任感の強い方ばかりだと思います。これから1年間、よろしく願いいたします。

幹事部門

| | | |
|--------|----------|--------------------|
| リーダー | パスト・ガバナー | 熊澤 忠躬 (守 口) |
| サブリーダー | | 中田 康仁 (大阪南) |
| サブリーダー | パスト・ガバナー | 戸田 孝 (八 尾) 途中参加 |
| S A A | | 江藤 光哉 (大 阪) |
| 記録 | | 吉本 晴之 (大 阪) |

功あれば主体、過ちあれば己に

熊澤パスト・ガバナー(PG) 21世紀はどういうふうになるのでしょうか。また、現在どうなっているのでしょうか。皆さんご存じのようにモラル・ハザードが起こっています。多くの問題があるが、とくに日本をリードする人たちにモラルの低下、危機がきていると思います。そこで、われわれロータリアンの使命、モラルをどのように考えて守っていくかということが、これから先21世紀に向けて、非常に重大なものになってきます。

ロータリアンになられる方は善良な市民であって、職業的に見ても地区の人、まわりの人から見ても、非常に評判の高い人が選ばれている、といえます。そういう意味でエリートです。エリートであるということを、私たちはそう思っています。皆さん自身も思っていたきたい。自分たちはそういう意味ではエリートであると。

幹事になられた皆さんに知っておいていただきたいことは、ロータリークラブでいちばん偉い人は誰だということです。RIの会長があり、ガバナーがあり、地区の委員長があり、自分のクラブのなかにはチャーターメンバーの非常に偉いリーダーもいます。そのなかで、会長がいちばん偉いということです。ただし、1年限り。これがロータリーのいいところです。1年の年度のなかでいちばん尊重される人は会長であり、その会長のつとめは1年限りである。その会長を助けるのは幹事です。会長が光りだ

すか、光らないかは幹事によって決まります。

伊藤忠の重役であった瀬島龍三という方は、シベリアで十何年という抑留生活を経て帰ってきて重役になられたのですが、この人がいいことを書いています。「スタッフ勤務の参考」ということで、若手社員の教育に利用しています。「スタッフの本質は補佐である。功あれば主体、過ちあれば己に」。もし悪いことがあれば、幹事がかぶりなさい。電信柱が高いのも、郵便ポストが赤いのも、全部、幹事の責任だ。それぐらいの気概をもってくれということです。

このことを体得しますと、自分の会社でも同じやり方ができる。これは必ずプラスに向かっていく方法です。皆さん、この1年間は修養のつもりで幹事職に励んでいただきたいと思います。



ロータリー的なロータリー

中田サブリーダー 最近、私は第一線を離れ、アメリカ、シアトルに住んでいます。だいたい150日くらい住んでいて、日本に來たり、帰ったりという生活です。アメリカから日本を見ていて、日本という国はだんだん変な方向へ向かっているような気がしています。今回、回収したアンケートを見ていますと、ロータリーも朱に染まれば赤くなりつつあるのか、という感が強くなりました。

大阪クラブは若い二世、三世の方もおられ、若いイキのいいロータリアンを集めています。しかし、一方でクラブの高齢化が進んでいる。あるいは出席規定免除の適応会員が増えて運営に困っているというような回答もありました。

私はずっと長い間、ロータリーとはこういうものだと思っていました。ところが、アメリカのロータリークラブに出席すると、どうも日本とアメリカのロータリーはずいぶん違うということを感じています。

何年前か前、ヤクルトに何とかというアメリカの大リーガーがきて、ホームランを量産してすぐアメリカに帰ってから「日本では野球という、ベースボールによく似たスポーツが流行っている」と皮肉で言ったことがあります。私はロータリーにも、そういうふうな感想をもつのです。われわれはロータリーをやっているが、どうもロータリー的なロータリーをやっているのではないか。

3、4年前になるでしょうか、クラブの会報に「初期のロータリー」と題して10カ月ほど、頼まれもしないのに勝手に書いたことがあります。ポール・ハリスが初めてのロータリーを創って、日本に東京クラブができるまでを連載したことがありました。

アメリカで1905年、ポール・ハリスが35歳のとき、それこそ無名の貧しい弁護士でしたが、3人の友人を誘ってささやかに事務所で会合を開いていたという生い立ち。一方、私たちがやっている日本のロータリーはというと、当時、三井銀行の常務の米山梅吉さんがアメリカの三井物産のドラ

ス支店に視察旅行に行き、福島支店長に会った。福島さんはダラスRCの会員で、米山さんをクラブに連れて行った。

米山さんは、なかなかおもしろい会なので日本でも広げてみようと、1920年に東京クラブをおつくりになった。そのときに呼びかけられたのが、住友、岩崎という、いわゆる財界人、あるいは財産家、土地の素封家というような人たちです。

アメリカでは30歳、40歳前後の若者が地域に根ざした奉仕活動をしている。最初に立てた綱領は「シカゴのために何かをしよう」という地域密着型の奉仕活動です。そこへいくと日本で始めたロータリーは、いわゆる財産家、大金持ちのいわばサロン。非常にステータスがありました。ロータリーの会員になりたいという人が門前、市をなすという大げさですが、ロータリーで食事をして、週1回会合をするということで広まりました。

いま私がいるシアトルのロータリークラブが会合をしているのは、ゴルフクラブのクラブハウスです。本屋のおっさんもいれば、ガソリンスタンドのおっさん、そこらの商店主がロータリアンです。日本のように、どこどこの銀行の頭取、重工業の社長という人はほとんどいない。アメリカの大企業、大会社の社長というのは、ロータリーに入っている人もいますが、だいたいロータリアンではないのです。そういうふうな、日本とアメリカのロータリーはその発祥の時点から、全然ちがった道を歩んできました。

私の知る限りでは韓国がよく似ています。韓国も日本のロータリーと近い生い立ち、発展をして、最近はやはり会員が減少している。

アメリカでは1人1人がロータリアンです。ところが、日本では会社の代表者であるとか、業界の代表者です。請求書は全部、会社の経理課宛に送っています。会員は会社から会費を出させている。会費というのは、ほとんどが食費です。会社を定年で退職されるとロータリーをおやめになる。あるいは転勤されると、当然のように転勤された後任の方がお入りになってくる。こういうふうな日本のロータリアンは、それも高度成長の時代を

越えてから、飲み食い費用を自分の懐から出さないことが恥ずかしくない、あたりまえのようになってしまいました。このこと自体が精神の衰えだと思いますが、そんなものであってはいけません。私は30数年間、自分の懐から金を出しています。金がかかるといことは、懐がいたむわけですから、できることならクラブの経費はもっと安くしてもらいたいと思っています。

アンケートで、経費がかかりすぎるのではないか。ホテルでうまいものを食べて、金を寄付してものごとを収めようとしているのでいいのだろうか、これがロータリーだろうかかと反省し、疑問を投げかけておられる方もいらっしゃいます。この疑問は、私は正しいと思います。

事務局員は女房

中田 私がアメリカで1回出席すると7ドルです。食事をしないと2ドルでいいのです。だいたい1回の例会で集まるのは100ドルくらいです。よく集まったと喜んでいたら120ドルくらい。レートによりませんが、だいたい1万円ちょっとです。

日本のロータリーは何でそんなに金がかかるかというと、ロータリアンが何もしないからです。事務局の女性がすべてしている。ちょっと言いにくいのですが、会員の同好会の世話まで事務員がやっている。

アメリカではクラブの事務局をもっているところは、ほとんどありません。誰がやっているかというと、幹事がやっているのです。世界のロータリークラブの住所録がありますが、何々ホテル、何々ビルなど、日本はみんなクラブの事務局が固定されている。アメリカやカナダでは、だいたい幹事さんの自宅が事務局で登録されています。私の非常に心やすい友人で、カナダにカーリー・ガルフレイスという男がおります。彼はR Iの副会長になりましたが、奥さんを私に紹介するときに、僕のセクレタリーと言うのです。そのとき彼は、その地区のガバナーでした。自分の妻をガバナー事務所の事務員として使っていたのです。

やはり、回収したアンケートのなかに、こんなことでいいのか、汗もかかずに寄付さえすれば事足りるというロータリーが、はたしてロータリーといえるのだろうかと書いておられるクラブがございました。この考え方は正しいし、この考え方を伸ばさないといけないのではないかと思います。

アメリカでは私のような年金生活者になるか、あるいはシニア会員になってから本腰を入れてロータリー活動に取り組む人がほとんどです。日本では定年になった、もうやめよう。うちの会社には枠がありませんと言う。何の枠かという、会費を払う枠です。そういうことから考えても、どうもロータリーの活動がだんだん萎えていっているのではないかなど。

この考え方はロータリーに限ったことではなく、あらゆる社会で起こっている現象ではないかと思うのです。われわれ日本のロータリアンはエリートで、悪いことをしない。その証拠にバッジをつけているのです。私はどの洋服に着替えてもバッジをつけ替えます。お風呂にはいるときですら、私は心のなかにバッジをつけているのです。そういうつもりで、私はロータリーというものを大事に、大事に考えています。

ロータリーの基本的なものの考え方というのを、幹事の皆さんはおわかりいただきたいと思うのです。ロータリーは任期が1年です。なぜ1年かといいますと、人の奉仕するチャンスをとってはいけない、みんなに平等に奉仕のチャンスを与えるんだという考え方です。アンケートのなかにも、委員長だけが活動しているとおっしゃっているクラブがありました。確かにそんなものです。委員長だけが一生懸命で、あとは知らん顔している。すると、委員長だけ過重な負担がかかるから、二度とあんなことはやりたくないと言って逃げてしまう。

私がロータリーに入ったのは、35歳でした。大阪南クラブは老舗のクラブで、エライさんがいっぱいおられ、そのなかで35歳の若造はこき使われました。おかげでロータリーのことを非常に深く、広く知ることができました。ちょっと忙しいなどという、シャープの創設者早川さんから「忙し

いなんていうとロータリーはダメだよ。みんな忙しいんだよ。それを理由に与えられた仕事を断るのは、もともとロータリアンになる資格はないんじゃないのか」と言われました。忙しいことを理由に断っていれば、みんな忙しいのですから、ロータリーは誰も引き受け手がなくなってしまいます。

ロータリーには満足しているが

中田 アンケートについてお話しします。第1の質問は「ロータリーにお入りになって、どれぐらいになりますか」です。3年未満という方が6人、4～6年が31人、7～10年が22人、10年以上の方が24人で、いちばん多かったのが、4～6年です。

熊澤PGも言われましたが、できるなら早く幹事へ、早く会長へなっていただきたい。2004年に世界大会が大阪で開催されますが、世界中から来る40代のガバナー、女性のガバナーはざらです。若いときにガバナーをお願いしたいと思います。

第2問目は「入会の動機」です。友人の紹介、取引先からの紹介というのが51人。ほかは、自発的にと私はまとめてしまいましたが、はたして自発的といえるかどうかはわかりませんが、ロータリークラブに入ったら自己研鑽ができるのではないかという期待感を持ってお入りの方も含めて、自発的という入会動機が24人。その他が8人です。

第3問目は「ロータリーに満足しておられますか」です。次の質問が「満足していないとお答えになった方は、理由をお書きください」ときいています。ほとんどの皆さんが満足しておられる。

満足しておられるのに、第5問目の「あなたのクラブでかかえている問題はありませんか」については、いろいろ書いておられます。必ずしもクラブライフに満足しておられるとは限らないのではないかと思うのですが、満足しているが64人、満足していないが16人、どちらともいえない人が3人です。

満足しておられない理由ですが、私なりに整理してみますと、会員の意識が低いということを嘆いておられる。会員の意識が低いということは、

どういう意識であればよいのでしょうか。

岩本（大東中央） 設立5年の若いクラブで30名の会員数です。殆ど全員が何らかの役を担っていますが、その役割が理解できていないか、あるいは知ろうとしていないようです。週に1回食事に集まってくるだけでは意味がないと思います。

中田 いろんな届け物、会合の通知、あるいは諸会報の整理といったことについて、皆さん方がその処理にあたられるわけですから、処理の能力を十二分に発揮していただきたいと思います。事務員がやってますというのでは困ります。

そうすることによって、自分のクラブの実態がよく把握できるのです。私も幹事を受けるときに迷い、ある方に相談しましたら、「それは引き受けなさい。幹事を引き受けて初めて『うちのクラブ』と呼べるのだ」と。ですから、できるだけ事務員さんに任せないでください。その分クラブの費用も安くなるはずですよ。

それから、「費用がかかりすぎる」というのがありました。確かに日本のロータリーは費用がかかります。自分の懐をいためてないから、いくらかかっても平気です。新地で社用で飲んでいるのと変わらない。ロータリアンがいつからか、社用族になってしまったと私は思います。

私たちはロータリークラブに所属していて、そのロータリークラブはロータリーインターナショナルに所属している。ロータリーインターナショナルの定款・細則に自動的に縛られるということになっています。そんな規定はイヤだといってもダメです。

アンケートのなかに、「これからは月3回の出席にしたらどうか」というご提案がありました。これは勝手にいってもダメです。こういった規定に関することは3年に1度、RIで開かれる規定審議会で改訂されます。現在、いちばん新しい規定は黄色い表紙の手続き要覧に書いてあります。

いま、われわれが縛られている規定は2度目の入会時に際して入会費を免除するのは、アクティ

ブ会員がパストサービスの会員になるとかの、会員の身分が変わるときだけです。その規定が唯一、名誉会員に対しては適用されません。名誉会員は会費もいりませんが、そのかわり皆さんのように、会員を推薦するという特典はありません。手垢がつくくらい手続き要覧をひっくり返して見てください。どんなことでもわかりやすく載っています。自分ところで独自の定款細則をつくっておられるクラブもあるようですが、それはまちがいですので、ご注意ください。

クラブの独自性が発揮されていない

中田 ロータリアンとクラブ、地区、R Iとの関係です。R Iはロータリーインターナショナル、昔は全米ロータリークラブ連合会とっていたように、クラブが集まってR Iをつくっている。地区が集まってR Iをつくっているのではないのです。ですから、われわれロータリアンはクラブを通してR Iにつながっているのです。誤解を受ける恐れもある勇気のいる言い方ですが、地区から言ってきたことをそのままやるというのはまちがいです。

地区はR I、あるいはその他の地区のいろんな情報もっていますから、それを各クラブ、各ロータリアンに提供し、調整するのが役目です。地区がそうするから、クラブもそうしましょうかというのは、あまりにも自主性がないですね。大事なのは自分たち、自分たちのクラブが何をしたいかということです。ところが、最近、クラブがだんだんマンネリの形骸化した運営をしているから、新しいプロジェクトの発想が生まれてこない。

私のよく行くアメリカのロータリークラブで、ある例会で会長がボトルを書いて「われわれのプロジェクトは半分までしかきていない。あまり時間がないが、これをどう思うか」と言うのです。すると、ある会員が立って「いくら足りないのだ」と聞き、「足りない分をみんなで頭割りして出そう」と言うと、会長は「その方法はしたくない」と言うのです。「このプロジェクトに対する諸君

の理解が足りないから、プロジェクトは完成しない。完成するまで、この年度で終わらなければならないことはない。みんなの理解を求めねばいかん」とおっしゃる。

ロータリアンとしてはその考え方のほうが筋道だと思います。ところが、日本ではどうでしょうか。100万円なら、100人いれば1人1万円で、すぐ集まります。実際、そのプロジェクトに対してどれだけの理解をもって、自発的にお金を出しているか。そういうやり方を続ける限り満足感は得られないのではないかと思います。

松本（大阪中之島） 当クラブは同好会活動が活発で、参加する会員は社会奉仕などにも積極的です。問題は同好会活動にも、また、社会奉仕活動にも参加しない会員がいて、クラブが二極化しています。その統合化をどのようにすればよいでしょうか。

中田 ロータリーでは常に問題になるのは、親睦か、奉仕かという問いかけです。かつて親睦派、奉仕派が分かれて大論争をした時代がありました。創始者のポール・ハリスは奉仕派の人でした。彼がロータリーを創設したから、初代会長は彼だと思いたいのですが、そうではないんです。彼は3代目の会長でした。後に全米ロータリークラブ連合会ができたときには、初代の会長になりましたが、そのときも必ずしもみんなに押されてなったのではないようです。ちょっとうるさい人だったようです。

ところが、彼がこんなことを言っています。「まず、親睦だ。親睦ギアを奉仕ギアに連動させねばいけない。いきなり奉仕というとも会員の力を得られない」。日本では、親睦というと出てくるが、奉仕のプロジェクトには出てこないという人が、どのクラブにも何人かおられます。どちらかということ、そういう人たちのほうにグループは生まれます。そのグループはだんだん大きく広がっていくように思います。悪貨は良貨を駆逐するじゃありませんが、親睦は大事なことですが、親睦ば

かりやっている人は上等な会員とは思えません。こういう人たちを、どういうふうな奉仕に連動させるか。ここが幹事さん、頭のいるところですね。

改めて会員の向上をはかる必要はない

芦谷（守口） ロータリーの入会手続きを正確に運用すれば解決できると思います。入会後にロータリアン個々の質の論議は難しいと思いますが。

谷口（大阪ちゃやまち） 当クラブでは会員の質の向上よりも会員の減少のほうが重要な問題です。

中田 私は量の変化は、必ず質の変化を伴うものだと思います。質の変化なしに、量を増やすことができたなら、こんな気楽なことはないです。そこで、はたして拡大は必要なのだろうか、という疑問を投げかけているクラブが5、6クラブあります。どちらかという、私もその考えに近いほうですけれども、R Iがわれわれに求めているのは、会員の質を落とさずに、会員数を増やせということです。考えてみたら、ほっておいたら必ず減るのです。それを減らさない程度に、常に新しい会員を求めていく努力は、絶やすことなく続けていかねばならないと思います。

ここにおられる戸田パスト・ガバナーと何年前でしょうか、豊橋でガバナー・ミニーの方の研修をしたことがあります。戸田さんはいまもすてきな方ですが、十分に準備をして研修会に出られ、私は非常に感銘を受けたことがあります。ロータリアン1人1人は新幹線だ。昔は機関車1台が客車を引っばっていました。新幹線はどの車両にもモーターがついているから速く走れるそうです。私はそれに非常に感銘を深くしたのです。

そのように、われわれ1人1人が奉仕の活動をするというモーターをもっている車両です。幹事である皆さんはそれぞれの連結器の役割を果たしていただきたいと思うのです。これがしっかりとないと、連結がはずれてしまったら、あとの車両

はその場所で止まってしまいます。

芦谷（守口） 2001～2002年度幹事としての役割の話ではなく総論ではないでしょうか。総論としては賛成します。しかし、システムそのものを変えないとなんら変化しないと思います。

中田 いっぺんに明日から、年会費をやめようということになるとも思えません。私が言いたいのは、日本式ロータリーと、欧米型ロータリー、2つのロータリーがあるということ。そして、日本式ロータリーというのは、われわれが百人力、千人力のロータリアンであって、そのためにこそロータリーの社会的評価は高かったのだという自覚をもっていただきたいのです。

残念ながら、ここ4、5年の経済事件を見ておりますと、ほとんどがロータリアンでした。経済事件が起こると、私はすぐに全国名簿を取り出して調べるのです。何々証券も何々銀行もみんなロータリアンでした。そのロータリアンが“われらのなりわい……”と歌ってる。このことを恥ずかしいと思わないかということから、ロータリーというものを自覚しないと、なかなかロータリーを正しい方向へもっていくことはできないのではないかと思います。今のままのロータリーをよしとしない、ということ強く皆さんに訴えて、そのためにクラブ内におけるリーダーシップを発揮していただきたいと思うのです。

戸田パスト・ガバナー（P G） 途中で申し訳ないのですが、会長部門の報告をしておいたほうがいいので、ちょっとお話ししておきます。あとは会長さんにご相談ください。

「地区リーダーシッププラン」が国際ロータリーのなかで考えられています（内容説明略。会長部門参照）。ぜひ協力をしていただきたい。世界的な趨勢ですから、幹事さんに概略を説明してガバナー補佐だけではなく、ガバナーを出してもらわねばなりません。

ところで、ガイガンディガーという人が、トー

キングノリッジ オブ ロータリー、『ロータリー通解』という本を書いています。ロータリークラブは親睦の背後に自己教育という特性をもっている、と。親睦というのは野球やゴルフをやるだけでなく、良質な親睦です。良質な親睦とは、やはりお互いにいろんなことを話し合い、人の悩みをききながら、自分もいろいろち明けていく間に、ほんとうに心の通じ合うような親睦です。そういう親睦を続けていたら、自分を教育していく、自己啓発ですね、それが生まれてくる。だから、RIがどんな規則の変更をしても、各ロータリークラブにそれがあれば、ロータリークラブはつぶれることはない、変質することはない。

会費が高くて入れない

山本（大阪咲洲） ご存じのように、私どもは非常に人数の少ないクラブで苦勞しているわけです。ひとつは地区内の大学に外国人の方がおられ、ロータリーへ入会の意志をお持ちです。ただ、その方の年収が約400万あるか、ないか。とてもロータリーの会費は払えない。何かいい方法がないものだろうか、教えていただければと思います。

もうひとつは人数の関係です。今日でも9人の出席義務者が必要なのですが、これが数年続きますと、非常にしんどいです。そういう義務感をもつこと自体がロータリアンではないのかもわかりませんが、小さいクラブには配慮していただければ、非常に助かります。

6年目のクラブですが、クラブの役員、地区のいろんなことに対して疲れてきて、退会を考える人があるのではないかと、いうところまできています。いま、お返事いただかなくても、地区としてご検討いただければと思います。

中田 83クラブからご回答いただいたなかで、私が感心しました3クラブがございました。そのうちのひとつが大阪咲洲クラブで、あと、東大阪みどりクラブ、大阪八尾フレンドクラブです。この3クラブに非常に感銘を受けました。

書いてあることは必ずしもロータリーのことをよくご存じとはみえませんが、めざす方向としてロータリーのことをよくわかっておられると感じたと思います。3クラブに敬意を表しておきながら、質問にお答えします。

いい方がおられるのだが、会費が高くて入れないということについては、私どものクラブでも同じ経験をしています。大阪の領事の方を私どものクラブにお招きしようと思ったら、とてもそんな高い会費は払えない、本国からそんな金はない、と。もっと会費を安くする、あるいは世界に通用するような程度にまで、皆さんのご努力で下げていかねばならない。そのためには皆さん方1人1人が実際の活動をしていただくことで、クラブの経費を下げていかないとはいけません。

咲洲クラブには、まことに残念な回答になりますが、それ以外に方法はないようです。特定の方だけ特別会費を免除しようなどとも考えがちですが、規定によって、そういうことはできません。これは何ともしようがございません。いい会員を見つけ、誘っていただく以外にありません。

戸田PG それに関してひとつ。安くするのはホテルではやらないことです。私どものように商工会議所でやりますと、非常に安い。食事も1,600円ぐらいかな。場所代をあまり出さずに、安い食事で作るのがロータリークラブです。しかし、日本はアンダー・ザ・シャンデリアでやらないと人が集まらないのでやっています。

もうひとつの方法は食事をしない。1時半から2時半までお茶とケーキでやる。これは安いですよ。ザルソバは自分で食べてくるわけです。ウドンでもよろしいけど。真剣にそこまで考えたら、本物ですね。それは皆さんのお考えによるわけですから、どうぞご検討いただきたいと思います。

熊澤PG 戸田PGにきていただき、しまりのいい協議会になりました。中田さん、ありがとうございました。実のこもったお話で、皆さん、感動的にお受け取りになったと思います。

クラブ奉仕部門

| | | |
|--------|----------|--------------|
| リーダー | パスト・ガバナー | 吉川 謹司 (東大阪東) |
| サブリーダー | | 岩知道寿夫 (千里) |
| サブリーダー | | 新津 敬直 (大阪西) |
| サブリーダー | | 井上 暎夫 (千里) |
| サブリーダー | | 大川進一郎 (大東) |
| SAA | | 佐野 吉彦 (大阪) |
| 記録 | | 廣瀬 吉彦 (大阪) |

ガバナー補佐の導入と増強

吉川パスト・ガバナー（PG） 来年度のキングR I会長は個性の強い方のように聞いております。

来年度からリーダーシッププランが導入されます。つまり、ガバナー補佐をおくこととなります。当地区の場合、IMが8組ありますから、2組を1人で担当して4名、他に2名の合計6名のガバナー補佐をつくり、クラブへの協力をするという事に、たぶん決まるのではないかと思います。

従って、クラブ奉仕委員長の方には、あいかわらず増強、例えば100名以上のクラブは10～12名の増強など、ご協力を賜ることになるかと思えます。クラブそのものがロータリーの原点ですので、クラブが活性化されますと、親睦が深まり、広まり、それが出席率の向上にもつながってまいります。また、出席率の向上につながれば、情報が皆さま方に行き渡り、それが奉仕活動の活性化につながるのではないかと考えています。

岩知道サブリーダー 会員増強に関する事柄について、地区会員増強委員会がいろんな形で情報を提供し、討議の場としてのセミナーも開催します。場合によっては、皆さんのクラブに出向き、当委員会の委員がお話しするという事も用意しています。

各クラブと、地区会員増強委員会が手を取り合っており、初期の計画目標を達成したいと思います。

さて、2660地区の現状です。過去10年間におけ

る各クラブ会員数の推移をみますとおおかたのクラブで減少しています。減り方では若干の差異がありますが、世界的に会員数が減っている状況があります。ただ、減少しているクラブばかりではなく、11クラブはこの10年間で増加しています。

10年前と比べて、期初、2000年7月の数字で見ますと総数で5%ダウンし、4,979名です。今年1月末には5,000人台に回復していますので、やや減少傾向も底を打ったかなという感じがしないでもないのですが、退会者の数は毎年のように続出している状況が一方であります。

会員のピークであった96年の5,589名に比較して2000年の会員数は約11%ダウンの89%という数字になっています。91年から96年にかけてはずっと増えてきた時期がありますが、その後急落してきている事情もあります。

資料の2頁には10年間の純増分の推移を出しています。

各クラブを合計した数字は、2660地区合計の数字とは一致していませんので、予め申しあげておきます。

〈グラフ1 映写し説明〉

10年間の推移です。棒グラフで変化がはっきりとはわからないのですけれど、2660地区には91年に5,204名会員がいました。いちばん多い年度は96年の5,589名、今期の期初が4,979名です。そのうち、175名が女性です。

96年は会員増強の非常に大きな運動がありましたので、急激に伸びています。しかし、その翌年からコンスタントに下がってきた。今年の1月の

段階では5,000名を回復しています。

〈グラフ2〉

純増分が増えたり、減ったりすることがありますので、実際の中身はどうかというグラフです。純増で実際プラスが出たのは95年度、96年は純減です。2000年は実際には一昨年の動きですが、少しプラスになってきた。

去年1年間の動きは、入会者は少なかったけれども、退会者もだいぶ落ち着いてきたという傾向がグラフから見て取れると思います。268名の入会者に対して、退会者が210名、純増58名です。

〈グラフ3〉

96年がそうですが、大きく盛り上がった年度は7月から9月にかけて急に増えてきたわけです。しかし、12月には減り、3月、6月と減り、7月にはさらに減る。こういった周期を毎年のように繰り返しています。こういった傾向をご理解いただいて、会員増強への取り組みをしていただきたい。

年に2回ほど、地区会員増強セミナーを実施しております。来期についても8月と2月を予定していますが、場合によっては3回しなければいけないかもしれません。

皆さんのクラブが日常のロータリー活動を通じて成り立つ以上、クラブの活動をベースにしたものでないといけない。そういったことも含めて、地区の委員会で論議を重ね、セミナーを開催しながら、会員増強の試みを実践していきたいと考えております。

インターネット・Eメールの普及を

新津サブリーダー

1. 広報におけるロータリークラブの責務



資料1をご覧ください。広報に対するロータリーアンの考え方について近藤ガバナーが明解に書かれています。

「ロータリーのめざすところを広く理解していただき、共感者を得ることは、ロータリー活動にとって、たいへん重要なことであります。奉仕活動を地域に、そして世界に広めるために、これまでロータリーは何をしてきたか、いま何をしているか、そして21世紀に向けて、何をしようとしているかをできるだけ多くの人に知っていただくことが大切です。これによってさらに、奉仕活動への的確なニュースの把握ができますし、共感者を得ることが会員増強へもつながるでしょう。地区委員会が提唱していますインターネット、電子メールの普及及びマスコミの活動に協力してください」。

2. ロータリーと報道機関との関係

報道関係者による報道機関の役割に関する卓話。これは産経新聞の大船企画開発部長にお願いしまして、すでに11クラブで卓話をしていただいています。非常に好評です。ご希望のクラブは私へ連絡ください。産経の機構改革で、氏は総合企画室国民の産経推進本部事務局長に栄転されましたが、ロータリーの卓話は都合をつけるとのことですのでお申し込みください。

3. アンケートについて

11月に各クラブ広報委員長にアンケートをとっ

たのが、資料2です。85クラブ全部から回答がありました。産経新聞に掲載された事例が68件。他の全国紙に掲載されたのが28件。R I本部では、地元紙の大きい記事よりも、全国紙の小さい記事を大切にしてほしいとのことです。資料2-3に役職の方が載っています。ロータリークラブにマスコミ幹部の方が入会されるよう、ぜひ、勧めていただきたいと思います。

全国紙のロータリーの購読者数は産経が1,101、日経が2,136、読売が1,102、朝日が1,657、毎日が896。われわれの年齢では思想的に、産経が合うように思います。最近読売新聞もだいたい産経に似てきまして、両新聞社の社長さんは親友だそうです。中国でも四国でも印刷を一緒にやっておられるそうです。日経をたくさんの方がお読みでするので、広報としては日経にもアタックしてロータリーの活動について載せていただきたいと思います。最後に『ロータリーの友』昨年度の推奨記事です。これをもう一度お読みくださればいいと思います。

毎年、8月のお盆のころに、在阪のメディア12社とガバナーの懇談会をいたします。非常に盛況です。記者の方々はたいへん興味を示され、定刻より30分以上延びます。

産経新聞は昨年と今年の3月に連載記事の集大成版を6,000部作り、各クラブに配布しました。

次に、ロータリー講演会の件です。お招きする総領事はアメリカ人で、費用はいらぬ、皆さんとお話ししたいと言っておられます。しかも、彼は日本で生まれ、日本語が堪能で、講演のあとは日本語で質疑応答に答えたいそうです。有意義な会だと思いますので、ご参加のほう、くれぐれもお願いいたします。

大阪市内クラブ合同で高齢者の作文の発表会があります。

2004年に向け、5年前から大川親善活動委員長が作曲されたロータリーソングがあります。

クラブ間のギャップ

井上サブリーダー 今回の規定審議会には527件の立法案が提出されています。地区規定情報委員会で重要と思われる7つの案件に絞り込み、クラブのご意見をお聞きしました。

そのうち、「会員の種類と職業分類」、「区域限界の廃止」に賛成が多く、残りは反対が多数でした。

1) 例会

現在の規定では、例会は週1回必ず行う。ただし、法定休日、クラブの会長が亡くなられたとき、クラブの裁量で年2回までは取り止めることができます。

改正案は会員の3分の2以上賛成があれば月2回でいい、ただし、最低24回はやってほしいということです。地区内のご意見は反対のほうが多かったということです。例会の数を減らすことはロータリーが大きく変質するということになるかと思うのですが、そういう提案が出ています。

2) 会員の種類と職業分類

現在、会員の種類は4種類です。正会員、シニアアクティブ会員、パストサービス会員、名誉会員です。4種類を2種類にしたい。かねがねR Iはルールを簡素化したいというラビッツァ会長のお言葉がありました。そういう方向には向いているようです。

3) 半期の最低出席率

現在はメイクアップを含め出席率が例会の60%、ホームクラブにおいては30%を切りますと、会員身分は自動的に終結します。この規定をゆるめ、メイクアップを含めた出席率では50%、ホームクラブでは25%にしようという提案です。

4) ニューモデルクラブ

新しいロータリークラブの姿を模索するために、現在の定款細則にとらわれない、まったく新しいクラブを試験的につくって、それにロータリークラブと名前をつけてよいということです。

5) 区域限界

テリトリーを廃止するという事です。どこで

もクラブができる。たとえば、私たちは大阪市を区域としてロータリークラブをつくりたいといえ、できるという提案です。拡大にもなりますし、メンバーの増員にもなるということです。

6) R I 人頭分担金

これを値上げしたいということ。

7) 地区とゾーンの変更

現在の地区を分割する場合はクラブの同意があるわけですが、この規定はそういう権限を R I の理事会に変更する。ゾーンも同じように、規定審議会の決議が必要ですが、規定審議会の決議なしで R I 理事会が勝手にゾーン変更をするということです。

地区内のアンケート結果を見ると、2番、5番の件は改正に賛成のクラブが多かったようです。

来週行われる規定審議会で新しい制定案が通りましたら、皆さん方がクラブ奉仕を担当される年度から適応されるということです。結果がいつ私どものほうへ来るのかやきもきしているところです。地区に届きましたら、私どもは最優先で1日も早くお知らせいたします。

今年度、近藤ガバナーが各クラブをまわられたとき、新入会員に対するセミナーを開いてほしいという意見が多くありました。2年ないし3年に1回ぐらいの割合で、セミナーを開いていましたが、今回、こういう改正の時期ですので、改正案が出た段階でセミナーを開きたいというので、予算を提出いたしました。

アンケートにつきまして、質問すべてに反対というのが18クラブありました。いちばん古い大阪クラブを筆頭に東西南北、古いクラブは全部反対です。

逆に、全部賛成というのも2クラブありました。これは非常に若いクラブです。他地区でも古いクラブと新しいクラブの間にギャップがある、という気がしています。

いちばん質問の多いメイクアップの通知の件をお話いたします。メイクアップカードですが、規則ではクラブの指示によって、ローターアクトクラブ、インターアクトクラブの例会に出席した

場合はメイクアップカードは発行されません。

本人自らがクラブで、ローターアクトクラブに出たと報告されれば、これでメイクアップになります。本人自らがクラブに報告するものはこのほかに、R I の国際大会、国際協議会、地区協議会、ガバナーの指示のもとに開かれる地区大会です。

こういうものはカードがなくても、本人自らがクラブに申し出ればメイクアップになるという現在の規則ですから、このまま守っていただけてこうです。

問題は他のクラブの例会に出席した場合と、他のクラブの当然開かれているはずの例会に行ったが、例会が開かれてなかったという場合です。この2点に関する規則は、本人自らが通知をするか、あるいはそのクラブの幹事がカードを発行する。2つの方式が並列になっていますので、どちらでもいいとなるわけで、本人自らが通知をすればカードがなくてもOKということです。

ここで問題になるのは、クラブが例会を休会した場合、あるいは予定を変更して他の週にもっていった場合、受付を設けてメイクアップカードを渡さねばならないか、ということです。近藤ガバナーのときに協議いたしまして、原則として受付はしていただかなくてもよい。というのは、自らがその旨通知すればメイクアップになるという規則ですから。

チャリティコンサート

大川サブリーダー ロータリーは親睦からということですが、地区に親睦活動委員会ができたのは比較的新しく、熊澤ガバナー時代です。阪神・淡路大震災支援のためのチャリティコンサートをやってくれ、と言われたのが最初です。皆さま方のご協力によりまして、フェスティバルホールが満席、2,500名の参加があり、800万円を超える義捐金が集まりました。いまでも7つのクラブで震災孤児のための里親クラブをしていただいています。そのときの基金でできたものです。

クラブだけでは資金の集まりが少ない、地区も

予算がないというときは私どもにいていただければ、チャリティコンサートでだいたい500万円ぐらいは集められます。来られた方にも喜んでいただけます。それがチャリティコンサートですので、何かありましたらご相談ください。

昨年9月24日夕刻、午後6時からダンスパーティを開催しました。男性49名、女性52名、計101名の参加がありました。好きな人が集まってうまいことやってる、ではなくて、そのなかでチャリティ、奉仕活動ができるということが、メイクアップになる根拠です。

今年1月8日の成人の日、85名の参加を得て地区カラオケ大会を開催しました。さすがロータリアン、一芸に秀でた人は何でもできるのだなと思いました。

ヘリコプターなどがオークションに

大川 吉川パスト・ガバナーのご提案により、昨年、開催しましたが、オークションというより、競り市みたいな感じでした。今年は正式にオークションという形で開催します。

去年とちがうのは、今年は2,700万円のヘリコプターから850万円のジャガー・ロードスターまで、ピンからキリまで出品されます。キリのほうは0円のポスターなど、非常にバラエティに富んでいました。

美術オークションというのは、自分で描かれたものでも、記念品として貰われたものでも結構です。貰ったけれども、ちょっと使えない絵、新築の家に合わないから蔵で寝ているようなものを持ってきていただき、売上額の10%をロータリーに、90%はご本人にお戻しします。これがまた次の奉仕活動にもつながるといって、楽しみながら親睦活動をし、奉仕できるという喜びができたわけです。

主催としてはそれだけですが、当地区内の有志の方で、ガバナー杯争奪軟式野球大会が、85クラブのうち11クラブの参加で行われています。大会で1位と2位になったチームは、甲子園で開催さ

れるロータリアン全国大会に出場できますので、ぜひ参加いただきたいと思います。

茶の湯同好会は大阪東淀の濱野勉さんが提唱されたもので、前回は有珠山義捐金に20万円ほど寄贈されました。お茶を楽しみながら、お茶の流派を超えて、お互いに求道していこうという真理の探究に邁進されています。

剣友会、囲碁、ヨット・クルーザー、ハムの会もあります。地区活動は資料9-3に集計しています。

新津 先ほどの産経新聞に奉仕活動を掲載してほしいという方がございましたら、総合企画室国民の産経推進本部事務局長、大船さんの卓話をお世話いたします。電話06-6571-0549またはファクス6574-8174で、私にお申し込み下さい。取材は記者やカメラマンの都合がありますので、3週間以上前に申し込まれたほうが良いと思います。また、大船さんは、皆さんが感激なさるいい話をされますので、ぜひご採用くださったらいいと思います。

文化講演会「ブッシュ政権発足から4カ月一何が変わったのか、変わらなかったのか」もキャパシティをとりましたので、ぜひご参加下さい。

岡本（大阪城南） 新津サブリーダー、これは事前の申込はクラブを通じて申し込めばよろしいのですね。

クラブ経験の長い人ほど反対とのことですが、それはひとつのノスタルジア以外なものでもないと思います。

大川サブリーダーへのお願いです。地区のイベントをやっていただくのは大歓迎ですが、あまり出席してくれないクラブに対して、もう少し強く出て、PRすることで地区、RIに協力するようになるのではないかと思います。

加藤（八尾） 最近、会員の質を高める研修が少なくなったと感じております。情報集会に相当するものもファイアーサイド式で夜の会合になり、

お酒も入るので親睦委員会がずっと担当しています。次年度は情報委員会で行っていただこうと考えております。

親睦という本来的な意味をはきちがえているのではないのでしょうか。そのことをお聞きしたうえで、最終的に自分の考え方をまとめ、次年度に役立てたいと思います。

井上 炉辺談話から家庭集会というのは英文が変わり、訳も変わったのですが、家庭集会から情報集会というのは英文はそのまま、日本語訳だけが変わりましたので、実質は変わりません。私、個人的には炉辺談話を使っていたとしても問題はないと思うのです。

汗を流したなかでの親睦

吉川 P G 私がガバナーのときにレイシー会長から、ロータリーでいちばん大事なことは参加することだといわれました。

ロータリーの活動は親睦と奉仕の両輪ということですが、私の考えでは親睦というのは、夜に一杯飲むというのも即効性がありますけど、大事なことは汗を流したなかでの親睦が大切ではないかと思えます。障害者の方をボーリングに招待したとき、いちばん喜ばれたのはお母さん方です。次に喜んだのがロータリアンの方々。こういう一石二鳥といいますか、汗を流したなかでの親睦活動が理想的な形ではないかと思えます。

大川 勉強会の話がありましたが、ご質問された岡本さんは関西ロータリー研究会に毎回出席されています。会費はありますが、毎回参加者が多くて、過日は100人近くが参加され、会場を変えねばならないくらいです。残念ですが当地区からの参加者は少ない。当地区よりも隣の2640地区(堺・和歌山)のほうが多く参加していました。わからないことはそこで質問もできます。ロータリーのことをもっと知りたい、また疑問をもたれる方はぜひ、関西ロータリー研究会へ参加してく

ださい。一度行かない限り案内はきません。また、欠席すると、二度と送ってこなくなります。初めての方はガバナー事務所に詳細をお聞きください。

奥山(箕面中央) 私どものクラブ在籍のロータリアンにはベテラン、いろんな知識をお持ちの方がおられます。その方々をお願いして、その知識を一般の方々にも聞いていただくという企画を立て、3回開催しました。1回平均30名の来聴者があります。この会はロータリークラブの外部に対するPRにもなり、来られた方には好評いただいているのです。問題はどうやってPRするか。そのときは産経新聞社にお願いし、地域版のなかでメッセージを書いていただきました。2回、3回目もお願いしましたが、残念ながら掲載されませんでした。

大富(大阪西) 私どものクラブもフォーラムを実施しますが、出てくるメンバーがほぼ決まっています。今日はいろんな情報をお聞きしましたが、私も初めてのものがあり、意外に伝わっていないと思います。

フォーラムのときですと、全員に伝えることができると思いますが、卓話の時間にフォーラムを行っているクラブが2660地区でどの程度あるのでしょうか。

井上 私どものクラブでもフォーラムだけ開くと参加が悪いので、例会時間を何回かはフォーラムの会議にしました。例会の30分は、何をしなければならぬということはないわけですから、卓話をやったり、メンバー同士で話したり、時間をどうして使うかという問題で、クラブの皆さん方がそれでご承知されれば問題はないのではないかと思います。

職業奉仕部門

| | | |
|--------|------|-------------|
| リーダー | ガバナー | 近藤 雅臣 (千里) |
| サブリーダー | | 近藤 浩司 (大阪南) |
| サブリーダー | | 松本 豊 (大阪東南) |
| SAA | | 菅野 直之 (大阪) |
| 記録 | | 細川 悦男 (大阪) |

事業所を子どもたちに開放しよう

近藤ガバナー（G） 来週行われる地区大会の決議案のなかに職業奉仕に関する決議案を上程しています。突然のことで両委員長には申し訳ないが、この件に関しましては両委員長、さらに皆さま方とご相談をして、次年度の職業奉仕のなかで新しい運動ができるのではないかと考えています。

皆さまはすばらしい職業の専門家です。自分たちの事業所その他を若い子どもたちに開放する、あるいは自分たちが専門家として、子どもたちに何かを現実に教えてやる。そういう場所を作ったり、そういう機会を作って、子どもたちの将来に何か益する運動ができるのではないかと思います。

たとえば、理科の実験を子供たちの目の前で見せ、これを見た子供たちはびっくりして喜び、理科に対する興味が出てくるというような学習をされている人がいます。われわれの職業を通じてこれと同じようなことができないだろうかと考えました。

奉仕の理想を世の中に広めなさい

近藤（浩） サブリーダー 手続き要覧第5章「職業奉仕」に、職業奉仕委員会の目的が明確に書いてあります。あらゆる職業にかかわるなかで、奉仕の理想を、ロータリアン、ロータリアンが運営している企業あるいは職業、そのまわりの方々、地域社会、はては全人類に及ぶまで、鼓舞、育成

すること、と。従って、目標というか基本方針というのは、職業奉仕の理想を世の中に広めること。この、ただ一点に絞られるわけです。

それになう活動というのが種々あり、当初は特別職業奉仕委員会として奉仕の理想を広めなさいという、非常に抽象的なものでした。1987年以降に職業奉仕委員会は各小委員会を設けて、その小委員会ごとに活動していきなさいというふうに決められております。

その小委員会というのは、「R Iにおける職業奉仕の事例紹介」にありますように、職業相談、職業活動表彰、職業情報、職業指導と4つ、それにボランティア委員会を加えた5つです。

アンケートの結果をまとめてあります。1～2頁が、当地区で行われた活動です。例会での職業奉仕に関する卓話、事業所の見学、職業上の優れた人の表彰、フォーラムの開催、ボランティア活動などの形で、職業奉仕の活動が行われています。しかし、元の目的というのは、R Iの手続き要覧にもありますように、ただ一つで、いわゆる奉仕の理想を世の中に広めなさいということです。

地区としては、10月の職業奉仕月間に向けて8月に合同で委員会を開催する予定です。そこで、10月にどのようなことで職業奉仕月間を迎えるか、ということがおわかりになるかと思います。資料小冊子は、昨年度その目的で作られたもので、2,000部印刷しましたが、なくなったので、1,000部追加製作しております。

年末から翌年にかけてアンケートによりますと、不景気の影響が出ているようで、卓話を行ったと

いうクラブ数は減り、事業所見学も減っています。実績をあげた人の表彰についてはとくに減っております。不況の影響がロータリアンの活動にまで影響を及ぼしてるのかというのが今年の実感でした。

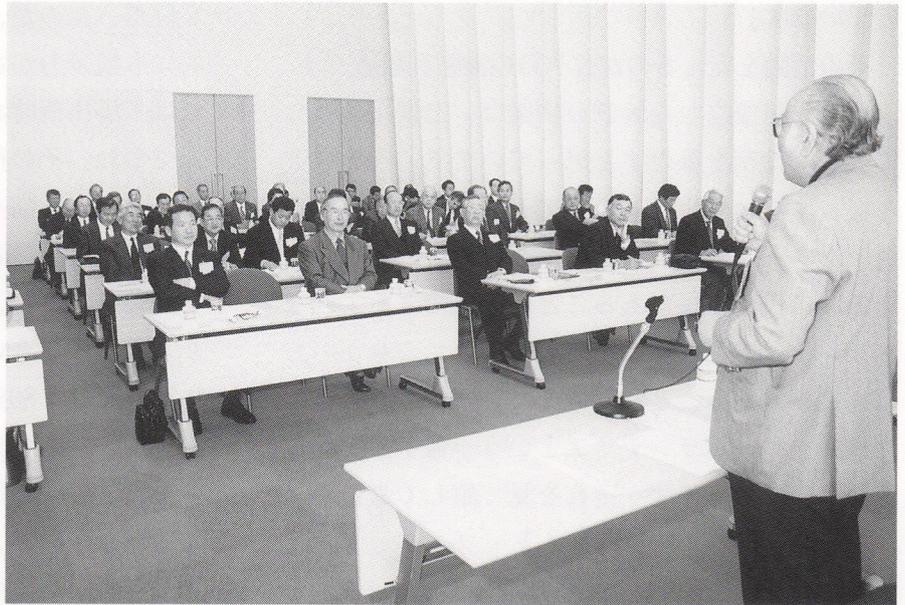
ボランティアは非営利で 自発的な活動

松本サブリーダー ボランティアという言葉は、普及するにつれ概念が曖昧になってきました。いまではボランティアといいながら、動員がかけられ、無理に参加しなければいけない場合もあります。いわば奉仕活動との区別がありません。

しかしながら、本来のボランティアは志願するということです。たとえばミリタリーサービスと徴兵制ですが、ミリタリーボランティアというと志願兵となります。要するに志願、自分が心から進んで行くということで、明らかに奉仕と違うと思っております。さらに、NPOという言葉が入ってきました。これはアメリカ風な言い方をするとミッションで、社会的使命と訳しております。さらに大事なことは、ボランティアというのは有償か無償かという議論です。

ボランティア活動そのものは、無償であることが大事なのではありません。非営利、自発的な活動があるかどうか、ということがいちばん大事であると思います。男性も女性も、高齢者も身体障害者も参加して、市民活動、ボランティア的な、will(意思)が活かされたなかで、市民がNPO活動をいきいきと展開することができるのだと思います。その具現者が個人であればボランティアで、組織ではNPOです。

介護保険の導入により、ようやくわが国では、福祉が市民の身近な存在になってきました。介護保険制度は保険によるサービス給付ですが、福祉サービス、地域のさまざまな福祉に関する市民活



動やボランティアと結びつき、要介護の高齢者や痴呆の方々に適切なサービスを提供しなければなりません。そういう市民参加はすでに始まっており、これからは福祉の市民化、市民的常識が通る社会をつくりあげていかなければいけません。

ロータリーボランティア

松本 わが国では、住民参加型の在宅福祉サービスが、先進国のなかでも最先端の新しい動き、ムーブメントとして行われつつあります。それは海外の経験から学んだものでもなければ、ひな形があってやったものでもありません。働く女性や主婦が、何かやらなければならないと、自分たちの老後を現実と考えて、活動しはじめた住民参加型の在宅福祉サービスです。地域ネットワーク、ふれあいの集い、ボランティアビューロー等々、たくさんのインフォーマルなサービスがあちこちにあります。

人生80年時代に、これからわれわれが考えなければいけないのは、人生80年のワークシェアリング、つまり仕事の配分です。余ってきた20年がわれわれ共同社会の福祉、共同参加型社会になりつつあるのではないかと思います。要するに非産業活動の時間の増大です。それを経済的活動以外の視野、いわゆる福祉に関する、あるいは社会のためになにかをする、ということが大事ではないか、

と思います。

その活動を支えるのがNPOの非営利組織です。国会で先年成立したNPO法案は、21世紀の社会で大きな役割を果たすと思っています。NPOとして、すなわちボランティアセクターとして、公的セクターや市場セクターがなし得ないことが行える。市民が市民であることを実感できるようなボランティア活動を始めていくこと、これがいちばん大事である、と私は考えています。

ロータリーボランティアという小冊子が2660地区から出ております。それを見て嬉しくなった。「ロータリアン・アドボケート・フォー・ザ・インディオ（原住民に対して、持続できるロータリープロジェクト）」、要するにロータリーボランティアを派遣しています。ブラジルが多いのですが、障害者、あるいは言葉の不自由な方、高齢者、ハンディキャップをもった人たちの利益をはかり、ノーマライゼーション、身体障害者が健常者と同じような生活を理想とする活動を行う。

QOL（クオリティ・オブ・ライフ）の理念が行き渡って、その人の生活の質を高めることを主張し、代弁し、活動した。そのような方が、ロータリアンのなかにたくさんおられるということが載っています。そして、権利を要望して、アドボカシー、権利擁護として活動している、その方々をアドボケートと呼んでいます。大事なことは、ロータリーそのものはお互いに学びあう存在として、また会員ともどもに生きているのだということを実感し、自分が他の人にとっても、また地域にとっても欠かせない存在である、ということです。

借金の利息を払うために国債を発行

近藤（浩） 還暦を迎えるとテレビや新聞のニュースを見ても腹の立つことばかりです。

国の赤字国債を考えても、会社なら当然破産しております。借金の利息を払うために、また国債を発行するというような状況です。つい10年くらい前までは先進20カ国中で貿易の競争力が世界第

2位だったのが、現在18位まで落ち、日本が国際的にも競争力がなくなったと見られています。これは工場出荷時までは、相変わらず世界第2位なんです。その後、利権とかいろんな規制が絡んで、どんどん高くなってしまっています。先日、ある衆議院議員と会食していると、食糧も60~70%が輸入であり、もし、事あれば日本は食糧の面から破滅するということです。エネルギー・資源に至っては、80%を超えているともいわれています。

また、青少年問題も毎日のように新聞、テレビを賑わしており、なぜ、このような国になったのかと、毎日のように腹立たしいことばかりです。

ロータリークラブに関しても、いったい何のために入ったのかと、あるいは何をするとところなのか、入ってない人と入った人とどう違うのか、入ってなかったらどうなのか、そういうようなことを最近よく考えるようになりました。

弱肉強食は自然の摂理

近藤（浩） 世の中、諸行無情だと思います。1年ほど前に小学校のクラス会をやりましたが、50年たつと男も女も昔の面影はそのとおりに残りません。ましてロータリーは100年近くです。栄耀栄華を極めても死ぬとき惨めであれば、はかないものであり、不幸であると思ったわけです。人間が自分の安定を求めるあまり、他人や他国、あるいは宗教などを排斥して、自分の主張に従わせようとする面が出てきます。安定を求める自分の願望が強ければ強いほど、他人を不安定にする状態になるわけです。

民族に自分たちが安定しようというエネルギーがある限り、あるいは人間が安定したいというエネルギーがある限りは必ず衝突があるわけで、全人類の平和ということはありません。弱肉強食は人間の本能的なものであり、自然の摂理であるということになります。それに対する自然の摂理がもうひとつあります。それがここでいわれる奉仕ということになるのです。

他人を思いやる心、他人にサービスする、奉仕するということです。何かを削って他人に利益を与えることのように解されていますが、そうではなくて、他人が奉仕されて喜ぶ、安心する姿を見て、自分が安心しているわけです。いま、人類が繁栄していますが、弱肉強食ともうひとつ奉仕という自然の法則のなかで、奉仕という摂理もっているのは人類だけです。強者が弱者を思いやり、弱者が強者を敬うという心です。

ロータリーの職業奉仕というのは弱肉強食の企業がもっている面と、職業、企業が奉仕するのはほんとうは自分のためなのだという自然の摂理です。奉仕の理想は非常に簡単な言葉で表されています。具体的にどうしたら奉仕できる職業に高められるかといいますと、ロータリーでははっきりしていて、四つのテストを常に考えなさいということです。

1) 真実かどうか。言葉は非常に簡単なことですが、白か黒かで決まるようなことはいまの社会ではほとんどありません。49対51で、多いほうが真実かな、という程度のもので、非常に難しいと思います。

Yの字の右に行くか、左に行くか。最初はすぐやり直しがきく、ある程度行ってしまうとやり直しがきかない、つぶれてしまった。これはどこかの時点で真実かどうか、見誤って、人間であれば何も残さずに死んでしまう、会社であればつぶれるということになってしまふと思います。

2) 公平かどうか。従来、年功序列でピラミッド型の組織が公平だといわれてきました。いまはこれは不公平といわれ、悪になっています。むしろ能力給、年収とかが強調され、従来の公平という概念が変わってきています。

3) 好意と友情を深めるか。どこまでが好意で、どこまでが友情か、こちらで一方的に好意と友情をもって騙されたというのは、たんなるお人好しにすぎないわけです。

4) みんなのためになるかどうか。みんなとはどの範囲なのか。全人類が満足して生き長ら

える世界はありえないわけで、どのへんまでがみんなのためか、これも非常に難しいです。自分の家族だけよければいいのか、会社だけよければいいのか、地域社会がよければいいのか、国がよければいいのか。

自分の心を平安、安定にする方向に向けて活動していく。弱肉強食と奉仕の両面をうまくバランスを取りながらやっていく奉仕のやり方を学ぶのがロータリーではないかと思います。

毎月1人の新会員は絵に描いた餅

正田（大阪西南） あまりにも建前の話が進められ、本音でものを言い合えるような会合でないですね。退屈だし、なんか嘘っぽいし、非常に興味を失います。もう少し皆さんから、本音をきき出すような会合にしていきたい。

毎月1人の新会員、こんなことはとても無理です。絵に描いた餅でしょう。皆さんのご意見を聞きたいです。

近藤G いまのRIは金集めばかり考えている。そのために人数を増やす。人数を増やすためには垣根を低くしなければならない。月に2回しか集まらなくていいとか、どんどん緩和されてくる。これがはたしているのだろうか。私は昨年、公式訪問でまわりましたとき、このことを徹底的に申しあげてまいりました。私は量より質の立場ですので、個人の考えとして今後も私の立場は変わらないということです。

RCを商売の面で利用したらいけないのか

正田 ロータリークラブというのは仕事の面と、商売の面で利用したらいけないのでしょうか？

というのは、私自身、長い間ロータリーに在籍していますが、最近のように不況、厳しい時代になると非常に出不にくい。やめざるを得ないかと思っていたのですが、あるとき、勇気を持ってロータ

リークラブの1人に「お取引したいのですが」と申し出ましたら、どうぞということで訪問して取引が成立しました。

そうすると、私に対する社員の態度がガラッと変わりました。いままでロータリークラブに出席することに批判的でしたし、私も後ろめたかった。ところが、それがあってから私も出やすくなったし、従業員もバックアップしてくれるようになった。私が入会したとき、「商売に使うなよ」と先輩に言われたんですが、最近、そういう事例が出て動きやすくなった。

職業奉仕部門で、そのへんをもう少し強調すれば、新入会員の勧誘もしやすい。ロータリークラブに入れば「仕事が増える」とはっきり言ってもいいと思います。

近藤（浩） まったく同意見です。小史にもありますように、最初できたときはそういう目的でした。お互いに助け合おうということから始まりました。いま、130万人で、こんな不景気のときに助け合えば楽になるというのは、痛いほど感じています。

ロータリークラブはもっと垣根が低いかと思いましたが、おっしゃるように意外と高い。商売していると後ろ指さされるようで、やりにくいなどという感じですが、やっている人もいます。ただ、先に人の信用を得るとというのが順序だと思います。

近藤G ロータリーの発足はおっしゃられたとおりですが、それを目的にロータリーに入るといのは賛成いたしかねます。それはロータリーではないと思います。そこのところをよほど注意しないと、何のためのロータリーかさっぱりわからん、ということになるというご忠告だけは申しあげておきます。

勝根（大阪住之江） 近藤サブリーダーのお話でもっともだという点と、どうかなという点の両方がありました。ひとつずつ質問して激論を飛ばすのは避けませんが、できればお時間をいただいて、

じっくり人生論をぶっつけたいと思います（会場笑）。

大学の先生のように一方的に言われるところに、私はそやないで、というところがあります。皆さんの意見をしっかりきいて、発言する。「私は、そうは思っていない」ということが話題になって会合を進めないと、建前ばかりでおもしろくないことになります。

私も出にくいですし、なんべんもやめようかなと思います。大事な仕事ほっといて、ロータリーで食事して、今日の1時間は何があったんだろう、仕事してたほうがましだったなという日があります。悩みと前進の毎日です。けれど、充実して前向きに生きていくことの大切さを思って、やはり続けてがんばっていこう、と。人間としてのつきあい、助け合い、そのなかではたいへん大事なものがああります。ですから、理路整然と片づけてしまわないで、片づかない人間臭さのなかの仲の良さを大切にしたいと思っています。

1 業種1人という制度にこだわる

表（大阪北） ロータリーの1業種1人という制度は、どういう合理性があるのだろうか。小史によれば、ポール・ハリスは仕事上の競争仲間とうまくいかないから、1業種1人にしたという、ほんとうの話か伝説か知りませんが、書いてあります。近藤委員長の「奉仕の理念は自然の摂理に通じるものだ」というお話もいいと思います。職業奉仕の理念、考え方、今後どうやって同じ仕事の仲間に広めていくか、それに努めよということですが、それなら1業種1人でなく、何人でも会員になっていただき、お互いに仲間になって、同じ業種の人に職業奉仕を広めるほうが、おおらかでいいのではないかと思います。

近藤（浩） その点につきましては、私も非常に矛盾を感じています。発足当時の1業種1人というのは、4人から始まり、100人までくらいですと成り立ちます。

100人がロータリーの理想に従っていれば企業も社会も発展するというのを広めようとする段階で人数も増えていったと思います。当初は1業種1人で、お互いに助け合いということもいわれていましたから、おそらく商売も一緒にやっていたと思います。1業種1人という建前のなかで同業種も入ってきた。ということになると、逆に、商売はするなというふうになった歴史的なものがあるのではないかと想像します。

もうひとつ、1910年ごろは第1次世界大戦前後で、非常に世の中が荒廃していたといわれています。そのときに、せめてロータリアンは襟を正そうということから始まったと思います。ロータリーに入ると、襟を正して企業を運営するということで入会される方も多かったし、それによって企業が大きくなったということもございます。

1930年代の不況でもロータリアンの企業ではつぶれたところが、ほとんどないといわれたぐらいです。それが最近、世の中も落ち着いてくると、すでに功なり名を遂げた人が入会するケースが多くなってきました。そうなる、やってもらうのはお金を出してもらい、それによって活動するようなやり方になってきています。1業種1人というのは名目だけになっているのではないかと思います。

表 たとえば弁護士でも民事弁護士、刑事弁護士、一般弁護士とか、まったく意味をなさないような分類になっていると思うんです。医師もそうだし、マスコミもそうだと思います。本音と建前、つまり書いてあることと、実際にやっていることはちがう。なぜもっと素直に現実をそのまま受け入れて、おおらかにやらないのかという疑問があります。

近藤G ポール・ハリスから聞いたことではないのでわからないのですが、噂によりますと、同じ業種に入った人がケンカするので入れないというのがあったそうです。ハリス自身が弁護士であったために、異業種がたくさんあったほうが商売上

よかったのではないかと、勘ぐられての話はいろいろあります。現実には2660地区すべてのクラブにおいて、1業種1人が鉄則として守られているか、そのへんは問題があると思います。規定審議会のアンケートでも職業分類はもっとおおらかにという意見が非常に多かった点でもわかるように、皆さん方は矛盾を感じておられます。私もそれに賛成をしています。

仕事の時間が有意義であるような職場づくり

増井（八尾東） 自信をもって、自分の友人をロータリーに誘えるか。増強をいわれるたびに、そういう思いをしています。紹介したけれど、疑問を持たれる恐れがあるということが一つ。ロータリーは得難いところであるという実感は持っています。何がそうさせるかということ、心温まる友人関係です。このいいところを忘れていないか。もっと深く自分の同僚の方々を見極めていただいて、まず絆を深めることを前提に、得難いロータリーをつくり直していくのが大事ではないかと思います。

職業奉仕の原点は、生まれていちばん長く従事するであろう仕事の時間が有意義であるような職場づくり。それが利益を生む源泉ではないかと思っています。

具体的に地区の職業奉仕委員の提言、ノウハウをクラブに持ち帰るという形の地区職業奉仕委員会の構成であれば、それだけで十分成り立つロータリーになるのではないかと思います。

近藤（浩） 職業を楽しくするというのは、奉仕の理想でいわれる職業において高い道德水準をつくりなさいというのと同じことだと思います。その手段として、地区云々より、ロータリーの根本的な思想になると思います。四つのテストを忘れずに実行しなさい、と。これ以外に言い方はないわけです。これは非常に含蓄深いものでして、私もこれは常に頭にあります。

厳しい世の中、会社の存続は企業者にとって、

やはり使命になりますから、それとのかねあいを見ながら、バランスを取りながらとなると、どうしても四つのテストになってきます。

常に何が真実か、何が公平か、何がみんなにとっていいのかと、いやでも考えざるを得ません。それによって楽しい職場、張りのある職場、前向きの職場ができてくるのではないかろうかと思いません。

近藤 G 本来はクラブの皆さんが主体的に考えてやるべき問題で、地区委員会はこれこうですと言えた義理ではないのです。皆さん方がディスカッションリーダーとなり、どんどん意見を言うほうがいいのではないかと、私は考えております。

そういうことで、暴論かもしれませんが、皆さん方の職場を開放して、子どもたちに現実の社会にもっと興味を持ってもらおう、われわれの仕事に興味を持ってもらうことをそろそろ始めてはどうかとご提案したのです。IMの何組か共同していただいてけっこうです。その教育委員会、学校の先生方と一緒に、それこそ無料の塾をつくってもらってもいいのです。

職業奉仕のフィロソフィを論じるのは大事かと思いますが、現実はどういうことをしていけばわかりやすく、みんなが協力してできるかもお考えいただければありがたいと思います。

私が提案するのではなくて、地区の各クラブのなかから盛り上がり、湧き上がってくる問題ではないかと思しますので、皆さまもお考えいただければありがたいと思います。

正田 金を見つめて仕事をしてますと、あまり楽しくないですね。命を見つめて仕事をしろという話も聞いたこともありますが、儲からない仕事でもたいへん楽しい仕事があります。楽しさを分かち合うような形のロータリアンの交流、そのなかから依頼する、依頼されるという交流。ただ、取引をするというだけではなく、仕事上の交流からお互いに補完しあう社会的成立が望ましい。職業がたくさんあって社会ができていますが、それ

を満たすチャンスになる可能性はロータリーとして、あっていいのではないかと思います。

勝根 いま、提案されたことはたいへん大切なことで、大阪市の中学校は各企業見学や訪問をしてもらえる企業を真剣に探しています。

今岡（大阪本町） 私は医療に携わっています。ガバナーがおっしゃった件は私も病院として計画していましたが、はたしてロータリーの仕事としてどうかと思っていたのですが、教育は非常に大事だと思っています。きちんとした教育をしていかないと、いくら机上の空論を述べてもダメで、医師も学問はよくできるけど、患者さんは見られないとか、いろんなことをいわれています。また、向き不向きもあるかもしれません。

勉強がよくできるから医学部へ行けというのは、言語道断だと思っています。中学校、小学校からでも結構ですから、実際の医療の現場を見ていただく。自分はやってみたいという熱意をもって医師になる人が増えると、いまのような医療事故は激減すると思います。ガバナーがおっしゃったように進めていただけると非常にありがたいので、さっそく取り組んでいきたいと思っています。

近藤 G 今度の教科書問題でご存じかと思いますが、ああいう教科書ばかりでやっていたら、日本がアホになるのは目に見えています。われわれが埋めていかねばならない義務感を持つべきかと。言い過ぎかもしれませんが、そう思ってご提案申しあげているしだいです。

社会奉仕部門

| | | |
|--------|----------|---------------|
| リーダー | パスト・ガバナー | 中川 章三 (大阪城南) |
| サブリーダー | パスト・ガバナー | 廣瀬 勘一郎 (大阪西南) |
| サブリーダー | | 若宮 邦弘 (大阪天王寺) |
| サブリーダー | | 徳永 惇三 (大阪南西) |
| サブリーダー | | 浦川 光雄 (箕面中央) |
| S A A | | 藤井 公三 (大 阪) |
| 記 録 | | 松本 鐵一 (大 阪) |

奉仕と親睦の狭間で

中川パスト・ガバナー（P G） いまから96年前、1905年に経済恐慌で人心が荒れすさんでいたアメリカの社会、とくにシカゴの状態を憂えた青年弁護士のポール・ハリスが3人の友人と語り合っ
てロータリークラブをつくった。1905年2月23日に第1回の会合を開き、のち順番に例会を開いていったので、ロータリーというようになった。

シカゴクラブができたときは会員の親睦と相互扶助を目的としてつくられた。翌1906年の定款を見ると、第1条はクラブ会員の事業上の利益の増大、第2条は通常の社交クラブに付随する親睦及

びその他のとくに必要と思われる事項の推進。当時のシカゴクラブに入会した人々は親睦と会員相互の利益の増大を目的に入会したといわれている。

3年目、フレデリック・ツイードが弁理士のドナルド・カーターに入会を勧めたところ、彼は定款を見てしばらく考え、入会する気はない、これは社交クラブであって、長くは持たない、と断られたという。それをハリスが聞き、奉仕という理念を入れていったということです。

3年目にハリスがシカゴクラブの会長になったとき、3つの方針を打ち出しました。第1は会員の増強、これはいまも変わりません。2番目に他都市における新しいロータリークラブの設立。い



わゆる拡大です。3番目は地域社会への奉仕活動の展開。それで、よくご存じのようにシカゴの公衆便所をつくっていったということです。

こうしてロータリー運動の目的が、親睦と事業上の利益の増大から、奉仕に転換されていきました。それ以後、数年の間は奉仕と親睦をめぐって、シカゴのクラブは大荒れに荒れたといわれています。ハリスも途中で役を辞したということです。

16のクラブができて全米ロータリー連合会をつくり、それが拡大と社会奉仕を進めていった。ロータリー運動を、実際的な社会奉仕活動として捉える傾向はシカゴではなく、地方の比較的小さなクラブで見られた。クラブがたくさんできると、奉仕のあり方をめぐって、また論争が起こってきた。ロータリアンの心に奉仕の心を植えつけるのがロータリー運動の本旨とする理論派と、奉仕活動の実践こそロータリアンの使命だとする実践派の論争です。

この論争が個人奉仕、I serveと団体奉仕のWe serve、さらに金銭的な奉仕へと発展して対立が続き、当時の理事会はあちらを立て、こちらを立てて、理論派と実践派の間を揺れ動いた。

1923年のセントルイス国際大会のときに決議23-34が成立していなかったら、いままでのロータリーは分裂して、現在のロータリーにはならなかっただろうといわれている。1992年の審議会で「社会奉仕に関する新しい方針」というのが提案され、地域社会における奉仕の機会を定期的に調査して、会員の地域のニーズを検討させる、社会奉仕の目標を達成するためにR Iの方針に沿って他団体に協力する、社会奉仕プロジェクトを一般社会の人々に十分認められるようにすること、など10項目があげられた。

地域社会が真に求める奉仕活動を

中川P G 土井ガバナー・ノミニーのお話によると、キング会長は、R Iのテーマとして「MANK IND IS OUR BUSINESS (人類が私たちの仕事)」ということを発表し、会員増強、教育研修の改善、

公共的イメージの高揚、クラブの発展改善を強調事項として言っています。

社会奉仕関係では、ロータリアンは地域社会の自発的奉仕者として務め、ロータリークラブには新しく一つ、さらにもう一つ、社会奉仕プロジェクトを要請しています。公共的イメージの高揚については、ロータリークラブは、地域社会内で真に要望されている奉仕活動の計画を立てて実行し、その成果を地元のマスコミを通して積極的に宣伝することを進めてほしいと要望しています。次期委員長の皆さん方は社会奉仕のプロジェクトを立てるにあたっては、R I会長、ガバナー・ノミニーの要請を踏まえていただきたい。

成果が上がりましたら、地区のホームページ、あるいは月報に投稿して大いにPRしていただきたい。

昔から陰徳を積んだらいいのだといわれているが、R I会長もエレクトもノミニーも、社会奉仕を通してロータリーを一般の皆さんに知らせてほしいという要望しています。3カ月ごとにR I、当地区、他地区に、こういう社会奉仕をしていると報告しなければならない。

海遊館の招待行事の見直し

若宮サブリーダー 基本的には、ここ数年来アクティブエイジングということで老人問題、薬物問題、識字問題を地区の社会奉仕委員会で取りあげてきました。

第9回海遊館招待行事は大阪梅田R Cの葛原会員が実行委員長となり、10月27日(日)、招待者249名、付き添いが61名、ロータリアン129名、計439名の参加を得て実施しました。海遊館にも車椅子を4台寄贈、これまでの合計で17台の車椅子を贈ったこととなります。

次に、第10回をどうするかということですが、長くやっているのでやめたらどうだ、という意見もあり、楽しみにしている人もいるので続けるべきだという話も出ている。海遊館招待行事は見直してほしいというガバナー会の諮問もありました

ので、地区の委員会としては、代案を委員の方々と協議をしているところです。

いま考えているのは、現在、交渉中ですが、USJ行きのクルージング船でUSJと海遊館を船上から見て、そののち、各クラブの招待で海遊館へご案内していただくことを考えています。地区でそのように決まりましたら、海遊館から各クラブへご案内が行くことになる。大阪にお住まいでも行かれた方は少ないのではないのでしょうか。いい機会ですので、地区の行事のあとに、各クラブの行事として、海遊館招待プログラムをつくったらどうでしょうか。

ダメ、絶対、薬物乱用防止

若宮 薬物乱用防止キャンペーンは次年度も続けます。昨年度、地区内64クラブから、2,205,810円の協力金をしていただいた。さらに、昨年度は大阪府の「ダメ、絶対、薬物乱用防止」の大会が10年目ということで、ヤングフェスタが10月22日に開催されました。そのときにも、協力してほしいということで、各クラブから5,000円ずつ協賛していただいた。

東大阪みどりRCでは東大阪市内の市立中学校を中心として、なぜ薬物乱用がいけないかという運動を、地域をまじえて中学校の子どもたちを中心に実施されています。

1円募金と書き損じハガキの回収

若宮 ユネスコに行っている世界寺子屋運動に次年度も協賛したい。今年度から1円募金という形で各クラブに送りましたが、これはまだまだ浸透しておらず、12クラブ、86,949円に止まりました。書き損じハガキの回収は48クラブに協力いただいた。RIでは天然痘撲滅、識字向上の運動を展開しています。当地区としては大阪南ユネスコ協会を中心に協力体制をとっていきたい。各クラブでも、独自の活動として書き損じハガキや使用済みテレホンカードの回収を進めていると思

いますが、地区としては大阪南ユネスコ協会を中心に活動を展開しています。

寒い時期、1月、2月に血液が不足する

若宮 昨年度の第1回社会奉仕委員長会議のときに、献血について話を聞きました。献血はお金のかからない唯一の奉仕活動です。ロータリーは企業の方が多いため、企業やグループというところに献血カーを派遣します。例えば、東大阪東RCは献血例会を実施、会社の方や例会場の従業員の方が献血する形をとっています。地域、行政などでもやっているの、できましたら皆さんの事業所を中心に献血をしていただければありがたい。とくに寒い時期、1月、2月に血液が不足する、と血液センター所長からお話がありました。

ローターアクトが次年度、当地区で全国大会を行うので、RACを提唱されている親クラブのロータリアンもそのときに出向いて献血していただきたい。

献血できる年齢は高校生以上65歳までですが、低年齢、高年齢の人については400cc献血はご遠慮いただき200cc献血となっています。また成分献血といって必要な分だけとるという献血方法もあります。

単年度ごとの事業が本来のロータリーですが、いい事業についてはスパンを長く見て継続の中身も見直し、一歩踏み込んで、ロータリアンだけでなく地域の行政を巻き込むのも一案。ロータリーはこういう活動をしているとなればマスコミ等も取りあげ、各クラブの増強の手立てになるのではないのでしょうか。

老人問題については、独居老人の問題、特別老人ホーム等について、それぞれのクラブとして何かニーズに合うことであれば、一つの事業として展開していただきたいと思っています。

7月10日前後、第1回の社会奉仕委員長会議を開催し、もう少しつっこんだ議論を行う予定です。

容器、包装などの廃棄物を少なくした商品

徳永サブリーダー 配布資料「ロータリーと環境問題」第2版には「グリーンな買い物」、環境保全の補助金の募集案内「かんきょう夢ひろば」などが載っています。

環境問題は、地球の温暖化のような地球規模の問題から、身近な産業廃棄物問題にいたるまで多岐にわたり、解決するには大量生産・大量消費という大量廃棄型の社会からの転換が必要です。

われわれロータリアンも小さな環境問題からでも取り組み、実行に移していくことが重要であり、「環境問題に対する会員の意識喚起」ということで、地区環境保全委員会へ多くの資料が送付されるので、皆さま方の役に立つ情報を各クラブに転送いたします。

資料「活動方針」に去年の10月に見学しましたATCグリーンエコプラザが載っています。参考になる展示、資料等が多く、見学すれば、環境のことについてよくおわかりになるのではないかと思います。もうすぐ稼働します。

グリーン購入を勧めています。「商品やサービスを購入するとき、価格、機能、品質だけでなく、環境の視点を重視して再資源を有効利用した商品、容器、包装などの廃棄物を少なくした商品など、環境に与える影響をできるだけ少なくしたものを選んで消費行動すること」です。環境に配慮した商品を購入することも、環境保全にとっては非常に大切なことで、日ごろ、皆さん方の企業、ご自宅で環境に配慮した商品を購入していただきたいと思います。

活動方針の3番目。「環境問題に積極的に取り組んでいる企業訪問」。昨年度はグリーンエコプラザ、大阪港の水質の問題、環境と福祉という講演を現在の委員会で開催しました。その前は大阪ガス、関西電力で環境問題に関するいろいろな勉強を行い、先だつての講演会ではサントリーが取り組んでいる「循環型社会の構築を目指して」という題で、いっさいゴミを会社の外に出さないということを達成されたと聞きました。取り組んで

いる企業を訪問すべく折衝しているところです。10月ごろに案内を送りますので、参加いただきたい。

2660地区が参画している「豊かな大阪府民会議」で環境問題に取り組んでいる団体を対象に、「おおさか環境賞」というのがあり、約4年前に八尾RCが受賞されました。その対象になるような活動があれば、推薦させていただきます。環境保全活動補助金の申請。上限が80万円ぐらいですが、ロータリーの予算も厳しい時期ですので、そういう補助金の利用をお勧めしたい。締め切りが5月ですので、2001～2002年に間に合わないかもしれませんが、翌年度へ継承する事業、活動等がありましたら、補助金を申請できるよう推薦したい。

世界環境デー、あるいは環境月間を6月に毎年開いています。2002年になりますが、車に乗ってこない例会日、を活動計画のなかに入れていただきたい。

高齢者の事故を防ごう

浦川サブリーダー ガバナー直属でスタートした交通問題特別委員会は来年度で5年目となります。

重点目標の1。「無事故・無違反コンテスト」への積極参加。豊中南RCをトップに第1に10数クラブが取り扱っています。ロータリアン個人、家族、企業・職場の従業員が交通法規の遵守、安全意識の高揚を意識して毎日実践します。参加することによって、事故・違反が減少するという成果が上がってきているので、皆さん方も地域でそれぞれ研究し、実施していただきたい。

その2。「特定任意講習の実施」。交通戦争は車を運転している人だけの問題ではなく、歩いている人にもあるわけですが、免許を持たない方は交通法規を聞いたり、勉強したりする機会がないわけで、つかうかかとマイペースで道を横切るとかのことがあります。そういったことを改め、交通安全協会の方などに話をしていただき、免許をお持ちの方は更新時研修が免除となるなどの方法

を地域でやっていただきたい。

その3。「おおさか交通安全ファミリーフェスティバル」。年に1回、万博公園で大阪府主催で実施。主として子どもさんを招待し、全部で15,000人ぐらいが参加。パトカーに乗ったりして、交通に関するいろいろなことを勉強していただきます。

その4。高齢化社会のなかで、高齢者が事故に遭うことが多くなっています。最近の統計では死亡事故の3分の1を65歳以上が占めています。また、歩行中に事故に遭う人の61%が65歳以上です。

若い人もですが、高齢者が事故に遭わない方法を考えなければいけないということで、昨年度から路地、路地の出口、三差路、四差路といったところで見通しが悪いとか、ヒヤリとしたことがあれば、老人クラブなどで地図を作ってもらうことを行っています。本来であれば、クラブの中に専任者をつくっていただくのが希望ですが、少なくとも社会奉仕委員の中に交通問題担当者を指名し、日常の活動の状況や、地区がお願いすることについてコミュニケーションができるとありがたい。年に2回、担当者会議を開きます。次は7月14日土曜日、2回目を来年の3月に計画、案内を差しあげますので、出席をお願いいたします。活動の状況などについて発表する機会を設けたいと思います。

太田（大阪東） 海遊館招待行事を9回続けたのでそろそろ別のテーマを考えたらどうかということですが、クラブで話をするときはどういう扱いをしたらいいのでしょうか。

若宮 古くは白浜の招待行事、少年ニコニコ運動会などの諸活動を社会奉仕委員会としては行ってきました。海遊館は高齢者社会になり、いろんな施設におられる方など、お年寄りではなかなか行けないということでその行事を進めてきました。近藤ガバナーや土井ノミニーからも、いつまで海遊館招待行事をするのか、ほかに方法はないのかという話がありましたが、近藤ガバナー年度に限り、もう一度させていただきようと思いました。

どこに問題点が出ているかという、朝の集合時間が早い。なおかつセレモニー等々しますと、お世話する方もたいへんだし、交通事情もあるので、できたら時間的なことを考えてほしいというご意見も多数出てきました。逆に、ずっと続けていることでもあり、招待を受けている施設では、次は私たちが行ける、来年も声かけていただけすね、と言うところも多数ある。さらに、ロータリアンを含めて400名近い方が参集するというキャパの問題もあるので、クルージングという形で、船内に集まったほうが、クラブ委員長も、お世話するロータリアンのほうも楽ではないかと考えました。11時ごろに出航すれば、同じ弁天町に行くにしても、皆さんゆっくり来られるということで、現在、模索中です。次年度社会奉仕委員会としては海遊館の招待行事と銘打った活動をいったん閉じさせていただき、代案として、大阪湾クルージングという形で、船をチャーターして、USJを海上から見させていただきことを考えました。

現場の担当者としては即答できないということで、海上交通のこともあるので、詰めている段階です。7月の第1回委員会のときには、きちっとしたお話をできると思います。

白浜の招待行事から海遊館招待行事まで、その年度のIMの担当の社会奉仕委員長さんに実行委員をお願いしています。IMの当番に加えて、その年度の社会奉仕委員長が地区の行事に出るのはたいへんだという話もありますが、そのへんはまげて、次年度各クラブのIMの担当の社会奉仕委員長に出させていただきようお願い申し上げます。

対象はアクティブエイジングということで、なおかつ障害をもっておられる方もどうかということについても、今後、委員会と各クラブの委員長にアンケート等で考えたいと思っています。

新井（四条畷） ホームページは企業、会社が開設しているのですが、個人も多い。私も58歳になり今年1月からパソコン教室で勉強し、環境とは関係ないテーマですが、個人で世界に向けてホームページを開設しました。そのなかに環境、自然、

健康など自分の好きなことを書いて、毎日更新して世界に流しています。

春の交通安全も、期間中にホームページのトップに載せていました。環境もずっとホームページに載っている。2660地区の絵柄を載せ、われわれ四条畷RCの活動も自分で全部つくっています。
<http://www.mirai-x.com>を見てほしい。

人道問題に密着した切実な運動

廣瀬パスト・ガバナー（PG） 社会奉仕部門を担当していた関係上、白浜や海遊館について実際にかかわってきましたので、実状がわかります。奉仕活動は同じことばかりやっているのが能ではない、ということもいわれますが、すばらしいものは継続していくのも必要であり、それによって運動が浸透して効果が高まることもあります。プロジェクトにより、そして時代、時代の変遷により、適宜、適宜に工夫を加えて改善していけばいいと思っています。

環境問題もここをこうせねばいけないということはわかっていても、なかなかそれが実践に結びつかないことに、ロータリーの難しい点、問題点があると思います。

けれど、これからますます環境問題は深刻なことになるので、具体的にいかに実践に結びつけていくか、クラブが工夫し、地区は地区なりにアイデアを横に十分浸透させていくのを地区委員会がお手伝いするのも大切なことです。

交通問題で新井さんがいわれたことは非常に良いアイデアだと思います。地区としても取りあげて、交通問題特別委員会が苦心して一步一步前向きに進めているその状況を発信していく。地区内のクラブだけでなく全ロータリー、日本のロータリーにも発信していく、あるいは世界にも発信していくということができたら、相手から良いアイデアをいただけるかもわからない、という気持ちが湧いてきました。

これから21世紀はいままでと同じことをやっていたのではダメです。工夫し、改善し、時代に合っ

て進んでいかねば、極端に言えばロータリーの存在価値がなくなってしまうのではないかと、私は危惧しています。毎年1万人になんなんとする死者、重軽傷者はその120倍が発生している状況のなかで、何とかして1人でも2人でも被害者を少なくするということが、ロータリーの理想として掲げている教育と人道問題のなかの人道問題に密着した切実な運動であると、私は痛感しています。

いま、やっとなんなんもたげた小さな苗を1日も早く、もっともっと大きくたくましく、皆さん方の力で育成して、2660地区だけではなくて、日本全体のロータリーにも波及していくというようになれば、人道主義を掲げるロータリーとして、人権問題を言うだけでなく実践していくという実証になるでしょう。

毎年発生している事故のなかに巻き込まれているわけですから、ほかの社会奉仕のプロジェクトもありますが、この交通問題に関しても責任もってやってもらえる方を選び、ロータリーの奉仕活動の大切な一環として効果を上げることにご援助いただきたいことを、重ねて強く皆さん方をお願いしたい。

浦川委員長の話にちょっと出ましたが、次年度はIMにおいて豊中南RCがスポンサーになって、交通問題をテーマにしてやる企画を立てていただいていることを耳にしています。この問題を同時に他の組においても、それぞれの地域、立場、考えに立ってIMのテーマに取りあげていただけたらありがたい。それによって交通問題に対する意識が高まり、理解も強まるということで大きな効果が出てくると、私は確信しています。

青少年奉仕部門

| | | |
|--------|----------|--------------|
| リーダー | パスト・ガバナー | 大森 慈祥 (茨 木) |
| サブリーダー | | 有賀 一夫 (大阪咲洲) |
| サブリーダー | | 石田 肇 (東大阪東) |
| サブリーダー | | 奥 剛典 (大阪阪南) |
| SAA | | 増成 恒哉 (大 阪) |
| 記録 | | 小西 哲夫 (大 阪) |

新世代の基本的ニーズを支援

大森パスト・ガバナー(PG)「各ロータリアンの責務は、年齢30歳までの若い人すべてを含む新世代の多様なニーズを認識しつつ、よりよき未来を確かなものとするために、新世代の生活力を高めることによって新世代に将来への準備をさせることである。すべての地区とクラブは新世代の基本的ニーズを支援するプロジェクトに着手するよう奨励されている。基本的ニーズとは、健康、人間の価値、教育、自己開発である。」(手続要覧)

地区青少年委員会には青少年活動委員会、ライラ委員会、それからインターアクト委員会の3つの委員会があります。

地区青少年委員会の新世代のプログラムとして、

ライラ (RYLA = Rotary Youth Leadership Award: ローターリーヤングメン指導者養成プログラム) があります。年に2回、春と秋に開催しており、初級と上級があります。若い人々の指導者および善良な市民としての資質の向上をはかるというのがその目的です。指導者養成ですから、その目的を持ってプログラムも組まれています。

予算の面から年1回にしてはどうかという意見や8つのIMの組が合同開催という形はどうかという話もあります。

私は青少年活動のための人頭分担金を各クラブからお願いしたいと考えておりますが、なかなか実行に移せない。地区内には5,000人の会員がおりますので、1,000円出していただきますと500万円、2,000円であれば1,000万円の資金ができます。



これをRYLA、ニコニコキャンプ、RACあるいはIACの費用に補助していったらいかがでしょうか。

ニコニコキャンプは子どもたちを対象に年1回、8月の暑い時期に開催しています。2660地区独自のプログラムです。これも見直しが提案されており、ひょっとすると中止になるかもしれないと思われませんが、できたら続けていきたいと思えます。

RAC（ローターアクト・クラブ）は18歳から30歳までの青年男女で構成し、地区内クラブが提唱することになっています。月2回の例会、その他多彩な活動を行っています。

手続き要覧に「青年男女が個々の能力の開発にあたって、役立つ知識や技能を高め、それぞれの地域社会における物質的あるいは社会的なニーズと取り組み、親睦と奉仕活動を通じて全世界の人々の間によりよい信頼関係を推進するため、その機会を提供するものである」とあります。未提唱のクラブは考えていただいて、できたら提唱していただくようお願いしたい。青少年を育てる意味ではたいへん大事な活動です。

IAC（インターアクト・クラブ）は高校生を対象として、地区内のクラブが提唱しています。「奉仕と国際理解に貢献する世界的友情精神のなかで、相共に活動する機会を少年に与えるために結成され、インターアクト・クラブに入会できる者は高校に在学中の学生または年齢14歳から18歳までの若い人である」と書いてあります。高等学校と提携してインターアクト・クラブを提唱していただきたい。これも増やしていきたい。

青少年交換というのは青少年活動委員会の担当で、海外地区との連携で青少年を交換・留学させるプログラムです。クラブから推薦していただくと、試験がありますが、海外へ長期・短期留学ができます。逆に、海外から受け入れてお世話もする交換プログラムです。これも大事な地区の青少年活動です。

それらを卒業した人たち、留学して帰ってきた人たちの集まり「ローテックス：ROTEX」というものもあります。これも青少年活動として大切

な活動になっています。

ロータリー財団国際親善奨学金は民間の留学プログラムとしては世界最大のもので、奨学金をいただいてロータリークラブが所在する他国で若い人たちが勉学または研修を受けるためのプログラムです。これも試験がありますが、クラブから推薦していただければいいわけです。これを卒業した人たちの会PSCというのがあり、OB会として活動しています。

米山奨学生は海外からきた青少年留学生のお世話をする日本独自のプログラムです。ロータリアンの寄付金によって海外からの留学生を援助・支援するというものです。皆さんよくご存じの青少年活動の一つです。

以上のように新世代のプログラムをロータリーは推進しています。ご理解いただき、とくにローターアクト、インターアクトをご提唱いただくようにお勧めしたいと思います。

どう関わり、何ができるのか

有賀サブリーダー 21世紀こそ人間が真に幸福に生きるために、心や魂の充実をはかるべき世紀であると強く思います。いまこそ家庭、学校、地域、ひいては国全体で教育改革に取り組まなければならない大切なときです。今日まで、私たちは物を生活の道具というだけではなく、伴侶として大切にすることを教えられてきました。このこと自身、とりもなおさず、日本の経済そのものであり、日本の文化そのものであると、私は思っていました。しかしながら、大量生産・大量消費の時代は、物を捨て、物を大切にしなくなった。そして私どもの生活自身も大切にしなくなってきたのだと思います。

人間が真に幸福に生きるためには、心の充実こそ大切であろうと思います。目標を失った日本を救うのは、次世代の若者たちです。『ロータリーの友』に、2770地区の津田ガバナー・エレクトが「いまロータリーは青少年のために」と題して書かれています。

「ロータリーは奉仕の世界的組織団体であり、多くの国に向け、いろいろな形での奉仕を続けてきましたが、わが国の足元を見ると、ますますここにやらなければならないことに気づきました。世界を救うのもよいが、近い将来、世界から救われる日が遠くないのではないかとさえ思われる日本の現在、いまこそロータリーは、青少年のためにどう関わり、どんなことができるのかを真剣に考えなければならない」。

長期にわたる主要なプログラム

有賀 1919年（ロータリー創始から14年目）にオハイオ州のロータリアンは、オハイオ身体障害児童協会を設立しています。そして、1920年代にはオクラホマ州のオクラホマシティRCが、劣悪な労働環境で長時間働く子どもたちを憂慮し、少年保護のプログラムを発足させました。これは当時、その市において全域で採用されたと記録に書いてあります。1923年、わが国においても、東京のロータリアンが世界中のロータリアンから集めた資金で関東大震災後、家をなくした孤児たちのために施設を建設したということです。

1996～97年度に、世界中のロータリアンが、青少年に関する問題について若い人が意見を述べ、解決策を探る場を提供しました。新世代のためのロータリー会議の開催です。

第2660地区の、次年度青少年活動の計画ですが、2001年10月6～8日、大阪府立総合青少年野外センターで東大阪西RCがホストクラブとなり、秋のライラ初級と上級を開催します。2002年5月3～5日、淡輪の大阪府立青少年海洋センターにおいて、豊中千里RCのホストで春のライラ初級が開催されます。

少年少女ニコニコキャンプは2001年7月21～29日、大阪府立青少年海洋センターにおいて大阪西RCのホストで開催されます。

ライラ（RYLA）の対象年齢をRIは14歳から30歳までとしているが、当地区では18歳から30歳までと限定しております。当地区では、初級・

上級とも2泊3日で、すべての経費はロータリアンが負担します。ロータリーとしては青少年部門での最も意義ある奉仕活動であるという認識を持っています。じつはこのライラは、国際ロータリーでは1971年に公式に採用されたプログラムで、世界の各地で、毎年数千人がこのプログラムに参加しております。

※ライラ活動紹介ビデオ上映。

（ガバナー事務所貸し出し可）

増成 SAA 資料2は、上級ライラの参加者が書いたレポートです。上級ライラには事前研修と本番とがあります。この上級ライラを受けた者が初級のライラを手伝ったり、ニコニコキャンプのリーダーとして参加したり、そして最後にロータリーのクラブで卓話をすると上級ライラ卒業ということで認定をされる。このライラを卒業された方々は実社会でもずいぶん活動されていますし、ロータリアンとしてその後活躍されている方がたくさんおられます。

今回はもうちょっと無理かと思いますが、次回以降はぜひ各クラブで初級ライラを終えられた方々にお勧めいただければという意図もあって、このレポートを入れています。

ローターアクトを知らないロータリアン

石田 サブリーダー 2660地区86クラブの内ローターアクトを提唱いただいているのは24クラブ。

大多数の方がローターアクト、インターアクトの活動に対して、あまり深いご理解をいただけないということを踏まえて、本日のお話しをさせていただきます。

2660地区作成のローターアクトの資料にはわかりやすくローターアクトの活動のすべてをパンフレットに盛りこみました。

ローターアクトは1968年3月、アメリカ・シャーロットRCがスポンサーとなり、ノースカロライナ大学ローターアクト・クラブが生まれました。

日本でも、同年6月川越RCが国際商科大学ローターアクト・クラブを提唱、当地区では同年7月、大阪北クラブが大阪北ローターアクト・クラブを提唱しました。

現在、当地区では、約400名のローターアクトが活動しています。

パンフレットのいちばん後ろの頁を見てくださいと、24クラブが活動しております。茨木RCとか池田RCとかは共同で提唱していますので、提唱は27クラブになるんですが実際に活動しているのは24クラブということです。当地区を3つに分け、大阪北ゾーン、中ゾーン、南ゾーンということで各8クラブをひとまとめにして、それぞれ地域性もありますので地域に密着した活動しております。

ローターアクトの活動では、5つの委員会組織をつくって活動しております。クラブ奉仕委員会、社会奉仕委員会、国際奉仕委員会などはロータリーとほとんど同じです。国際奉仕では大阪西南のように独自でベトナムへの援助や、学校の援助をされたりというクラブもあります。

専門知識開発委員会。職業奉仕にあたる部分です。ローターアクトの場合は、18歳から30歳。学生も社会人の方もおられます。比率からすると7割が社会人の方、3割が学生です。学生は職業を持っていないので、学校で専門分野を勉強する。また、社会人の方は専門分野で活動していただく、ということによっております。

最後に財務委員会。ローターアクト・クラブは、提唱クラブと、地区の援助によって活動しております。

ローターアクトは、RIの「奉仕を通じて親睦を」という方針に基づいて誕生していますが、2660地区では「奉仕を通じて友情を」というように言い直しております。

RAC例会への出席もメイクアップ

石田 具体的活動としては月2回の例会。夜の例会がほとんどで、7時ないし7時半から9時頃

までです。パンフレットのいちばん後ろに例会場と開催時間を書いております。近くのクラブに出席していただくとメイクアップにもなりますので、もしロータリーの例会に出席できなければ、ローターアクトの例会に出席してください。

1時間半の例会のなかで、卓話にあたる時間をメインプログラムの時間としています。メインプログラムに何をやるかといいますと、たとえば担当が国際奉仕委員会の場合ですと、寝屋川RACでは世界の料理を紹介したり、料理を作って試食したり、料理の研究をしたりなどしています。大阪北RACは例会時間外になりますが、毎月、はじめの一步といって、身障者の方と一緒に一日を過ごすというような活動しております。

また、ロータリアンの方にお見えいただき、30分卓話をお願いする。それに対する質問の時間が必ずある。われわれロータリーの例会とはちがいがまして、寝てすむような例会ではございません。わからなければ「こういうことはどうなんでしょうか」という質問が出ます。最後に1時間半の例会を振り返って5分くらいのスピーチが必ず来ますので、例会、活動にご講評いただく。皆さん、真剣に例会に出席していただいております。

地区代表以下10名の地区役員がロータリーと同じように1年間奉仕します。

ローターアクトの場合は、地区でいろんな行事をやっています。もちろんロータリーの行事、ニコニコキャンプやライラ、またインターアクト・クラブの大会に参加というのもあります。

地区で献血も年に2回やっております。また、地区協議会にあたるような地区連絡協議会というものもあります。

海外研修も年1回。秋に行いますが、許される日程が4～5日なので行ける範囲は台湾、韓国、シンガポール、マレーシなど、アジア圏に限られます。向こうのローターアクターと交流しています。

次に、2002年1月19～20日に、4地区情報交換交流会を開催します。2004年にRIの国際大会が当地区であります。その国際大会の前にローター

アクト会議を主催いたします。

それと、ローターアクトには世界RACデー(3月17日)というのがあり、その1週間を世界ローターアクト週間ということで、世界中でローターアクトの誕生をお祝いしようとしています。

毎年5月(次年度は5月19日)にRACの年次大会を開催し、6月16日には次年度のためのリーダーシップフォーラムを行います。

全国ローターアクト研修会にご支援を

石田 RACの大きな活動の一つに全国ローターアクト研修会があります。年1回、全国から地区代表、地区代表ノミニ、地区幹事および地区幹事ノミニのRACメンバー、加えて各地区およびクラブのローターアクト委員長が集まります。本年度は2月に鹿児島・宮崎のホストで開催されました。一昨年は熊本、その前が京都でした。2002年3月2～3日に当地区が担当することになっています。会場その他の関係で費用が嵩み、総費用が2,600万円ほどになると見込んでいます。現状、地区から頂戴しております予算ではとうてい賄いきれない状態になります。会長部門でお願いしていますが、各クラブの人頭分担金ということで資金に充当させていただきたい。ちなみに大会テーマは「翔(show)」ということになっております。

ローターアクトは現在24クラブ、400名の会員ですが、ロータリー同様拡大が必要です。未提唱のクラブはぜひご提唱下さい。さきほどお配りしたパンフレットを必要な方はガバナー事務所に申し込んで下さい。すぐに送ります。

大森 P G 2002年3月開催予定の全国ローターアクト研修会については会長部門で提出、了承いただくことになっています。石田サブリーダーの話にもあるように、ローターアクト研修会は地区がホストになりますが、ローターアクトでは資金が出ませんので、地区から資金の援助をいただいています。2660地区が今回ホストしなければなり

ません。というのも、2004年にR Iの国際大会がありますが、その前に世界ローターアクト会議を開催することになっており、やはりホストをしなければなりません。その準備として、4地区合同で研修会をホストすることになりました。結果として資金が必要となり、人頭分担金2,000円ずつをお願いすることになりました。委員長の皆さまのご協力をお願い申し上げます。

インターアクト・クラブは8クラブ

奥サブリーダー インターアクトという言葉は、インターナショナル=国際的、アクション=活動、を意味しております。年齢は14～18歳までの青少年、または高校生のためのロータリークラブ提唱による奉仕クラブで、楽しく、意義ある奉仕プロジェクトに参加をする機会を青少年に与えるものです。

インターアクト・クラブ(IAC)は、少なくとも2つの奉仕プロジェクトを実施します。一つは地域社会への奉仕、いま一つは国際理解の推進。その活動を通じて、青少年は指導力や積極性を養い、新しい友に出会うとともに、①指導力と優れた人格を形成し、②他人を尊敬し、進んで助ける態度を養い、③各自の責任を果たすことや、一生懸命努力することの価値を理解し、重要性を学びます。

1962年10月28日にアメリカのフロリダ州メルボルン高校に23名の生徒が集まり、最初のIACが結成されました。たった1校から発足したIACは、現在、全世界101カ国、440地区、6,605クラブ、会員数は約15万2,000名に達すると発表されています。わが国では、2001年3月現在、35地区、551クラブ、会員14,837名に達しています。当地区では、IAC提唱クラブがわずか8クラブ、会員数が約180名という、いささか寂しい数字です。

当地区では、IAC設置校の実情に沿って活動を展開していますが、最近の中学、高等学校の生徒数の減少傾向により、各学校のIACにもその影響が表れております。地区インターアクト委員

会の大きな役割は、提唱RCとIAC、また、設置学校長、顧問の先生方との意思の疎通を円滑にはかることであると考えます。若者たちに魅力のあるIACにし、クラブ員の増強、さらにはIACを増やすべく努力しています。

プロはだしのパフォーマンス

奥 各IACが独自のプログラムを組み、学校近隣の清掃奉仕、空き缶拾い、老人ホーム・身障者等への慰問、あるいは募金活動等を実施しています。そして地区としては大きな行事が4つあります。

《年次大会》これは2660地区の8つのクラブが一堂に会し、毎年ローテーションを組んでホストをお願いして開催するいちばん大きな行事です。今年度は、昨年8月5日(土)、八尾RC提唱の金光八尾中・高等学校をホスト校として、台湾の第3480地区からの参加を含めインターアクト50数名、ロータリアン17名が参加。大阪で最も由緒の深い住吉大社記念会館において「21世紀につなごう、伝統と友情」をテーマに2日間のホームステイを交え、おおいに友情と国際交流を深めました。

《海外研修》この行事はインターアクトたちが最も期待している行事で、夏休みの時期に実施しています。2000年のIAC海外研修は、8月17～21日までの4泊5日の日程で、大阪城南RC提唱の明浄学院高校をホスト校に、RI第3300地区マレーシア・ペナン島を訪問しました。

今回の海外研修の目玉は、前年訪問した香港、RI第3450地区のインターアクト18名、ロータリアン2名、計20名の特別参加を得て、3カ国の交流を試みたことです。宿泊ホテルを同一に、すべての行動をバス3台に分乗して行いました。ペナンのインターアクトたちの積極性、企画力、そして行動力には目を見張るものがありました。ほとんどの行事が学生たちの手づくりで、パフォーマンスもプロはだしの演技でした。香港、日本もそれぞれにパフォーマンスを担当し、日本側からも全員参加による、われわれの十八番である浴衣

を着ての河内音頭や縄跳び等も好評でした。さらに、海外研修に参加したインターアクトたちは、ペナン島での交流を踏まえ、日本に帰ってからも学校という垣根を超えて、自主的に集い、実績や経験談を語り合う機会を設け、大いに交流を深めています。

《新入生歓迎会》毎年新学期に入部された生徒たちを歓迎し、親睦交流を深める行事です。昨年は平成12年6月4日(日)、大阪阪南RCの提唱する四天王寺学園中・高等学校をホスト校に、淡路花博ジャパンフローラ2000の見学をしました。インターアクト116名、ローターアクト10名、顧問の先生方16名、ロータリアン11名、総勢153名の参加を得ました。

《『スクラム』の発行》IAC活動年次報告書『スクラム』は毎年担当校を決め、1年間の各クラブの活動について詳しく記載しています。未提唱クラブにも配布していますが、今年度は第26号として、大東RC提唱の大阪桐蔭中・高等学校が担当、すでに配布を終えております。

今年度の最終行事となる新入生歓迎会は「インターアクトたちの1人1人の夢と想像力を育む、同時に仲間意識と親睦を深める」をテーマに、6月3日(日)八尾RC提唱の金光八尾中・高等学校をホスト校としてUSJの見学を、予定しています。

日本とマレーシア合同の年次大会を開催

奥 海外研修旅行は台湾3480地区タイペイRCの招きで8月17日～21日まで4泊5日の予定で実施すべく、大阪南RC・ホスト校の清風学園との間で推進中です。

年次大会は今年度訪問したマレーシアのペナン、3450地区から日本を訪問したいとの希望がありますので、これを迎えて3450・2660地区合同年次大会を開催すべく、大阪城南RCとホスト校の明浄学園との間で企画進行中です。開催時期は、8月5日を予定しています。

『スクラム』第27号は、住吉RC提唱の浪速中・

高等学校の担当で来年2月に発刊予定です。

最後の行事、新入生歓迎会は大阪城南RC提唱の明浄学園高校をホスト校として、インターアクターたちにとって最もふさわしい場所で開催すべく検討しています。

IACが最初に発足したのが10月28日ですので、毎年10月28日を含む1週間がインターアクト週間になっています。当2660地区はロータリー財団や米山奨学会をはじめ諸奉仕の実践では、国内はもとより、世界に冠たる実績を誇っておりますが、残念ながらインターアクトは現在8クラブが提唱されているにすぎません。そのうち、1つのIACのともろびが来年度は消えようとしております。近來、学校側でも、ボランティア活動を含め、奉仕活動を、勉学以外に積極的に取り入れようという動きも出始めています。

IACを提唱するための予算

澤田（大阪そねざき） IACを提唱すべく1校候補に入れている女子校がありますが、そのための予算、クラブ内の予算と、IACとして年間予算がどの程度いるのでしょうか。

奥 IACの年間の予算ですが、大阪阪南RCは四天王寺学園を提唱しており、地区内でもインターアクターの数が多いので、年間予算は約100万円を青少年活動委員会の方として計上しています。

大阪そねざきクラブでそういうご提案がございましたら、地区インターアクト委員会といたしまして、全面的にフォローさせていただきます。

石田 RACの提唱にたいしては少ないクラブで30万円、多いクラブで100万前後です。例会場がホテルの場合、毎例会の食事代が4,000円くらいかかる。ロータリーアクトの負担が1,500円となればその不足分をロータリーが援助するという形になります。

また、ここのような会議場で弁当を買う場合に

は、会費が少いので、クラブのご援助も少なくすむ。ケース・バイ・ケースです。人数は日本一のロータリーアクト・クラブ、御堂筋は約80名の会員ですが、たぶん50~60万円で行っています。ぜひご参考に。

大森PG 提唱するのはたいへんですが、100万円もいらないと思います。会員はたいへんかわいい、ほんとうに自分たちの仲間に入ってくれます。インターアクトはとくにかわいい。高校生ですから。いちばんいいことは、それによってクラブの活性化がはかられます。そういう利点もありますので、提唱してください。

村井（豊中大阪国際空港） 以前にRACの委員長をしたときに、RACの卒業生がぶつつんというのは非常に寂しいと言っていました。彼らをそのままロータリーに継続できれば非常に助かるのではないかと思います。

石田 その要望は、ロータリーアクターからたくさん出ています。ロータリーアクトのOB会が三つほどあり、年代別に活動しています。今期、それを統合しようという動きがあり、全体のOB会議を企画しています。

村井 最近、教育のレベルが落ちたといいますか乱れてきた。私なんかはほやいてもどうしようもありませんが、教育の問題はロータリーが取り上げるべき問題ではないでしょうか。青少年に的を絞るとともに乳幼児から高齢者まで、全年齢層にわたって教育が必要であろうと考えます。

日本の教育が戦後非常に乱れてしまいましたので、立て直さないと、日本は無くなってしまわないかとさえ考えています。そこで、各年齢層に合ったTV番組、例えば「ロータリーアワー」を提供してはいかががでしょうか。さらに、ロータリー文庫をつくり、秀でた人々の話を聞くという文庫を出したらどうか。それから、いわゆる文化芸術ですね。たとえば、サロンコンサートをやっ

たらどうかと。音大とか芸大とかを出た若い、生活に困っている音楽家の助けにもなりますし、また、われわれのためにはさらにプラスになる。

青少年を中心として、年齢に関係なく、全世代にわたってそういう教育が必要なんじゃないかと。これが、ロータリーならできるし、やるべきであると。そういうふうには思っております。

大森 P G そのとおりだと思います。私も孫に日本文学全集、世界文学全集を与えて読ませています。ロータリーには教育問題特別委員会というのができています。そこに提案しておきますが、青少年担当の委員会としてはちょっと無理かと思えます。

浮舟（大阪鶴見） 教育問題特別委員会の地区委員をさせていただいています。今年度で一応その委員会も終わるので、提言をいままとめているところです。いろんな項目別に分けているんですが、ロータリアンとして何ができるか、ということも小項目の一つになっています。

有賀 委員会活動計画のなかにあります2002～2003年度のライラの活動の支援組織などの見直しについては、今年度の実行してみたいと思っております。

現在単一クラブでホストをしているライラを、選択肢の一つとして、組単位、10クラブほどでホストする。メインクラブをつくり、コ・ホストをつくる。具体案はまだありませんが、単一クラブのホストしていたものを、IM単位、あるいは、地区ライラ委員会という形など、委員会で検討いたします。

国際奉仕部門

| | | |
|--------|--------|------------------|
| リーダー | 直前ガバナー | 柏木 尚 (豊 中) |
| サブリーダー | | 瀧田 浩彦 (東大阪中央) |
| サブリーダー | | 近藤 眞道 (高 槻 西) |
| サブリーダー | | 笹井 敏之 (大阪八尾フレンド) |
| S A A | | 田淵 暉久 (大 阪) |
| 記 録 | | 前田 一 (大 阪) |

柏木直前ガバナー 当地区の国際奉仕部門は世界社会奉仕委員会（WCS）、青少年交換委員会、国際交流平和委員会の3委員会で構成されており、全国的にみても主導的な役割と、大きな国際奉仕の実践を積み重ねています。来年度RI会長のリチャード・キングの「MANKIND IS OUR BUSINESS」、人類について私たちは関心を深めていこうではないかということのようです。

2004年の国際大会は、関西4地区合同開催の運びになりますが、青少年部門は、プレ・コンベンションのホストとしてのいろいろなお役目も国際会議場であります。2004年の国際大会に関心をもっていただきたい。

44万1,280ドル

瀧田サブリーダー 世界社会奉仕委員会（WCS）の方針としては、飢餓貧困の救済、生活環境改善のための職業訓練や識字教育、および緊急災害援助等の国際奉仕プロジェクトを、年をおって充実させています。（資料参照）

『ロータリーの友』（英語版）53号に金額が載っております。2660地区（大阪北部）が44万1,280ドル、2580地区（東京・沖縄）31万2,180ドル、2790地区（千葉）30万2,000ドルという順で、さきほど柏木PGが言われましたように、日本一、あるいは世界一というような状況を続けております。

次年度の世界社会奉仕活動計画の中で、諸活動



については、DDFやワールドファンドなど同額補助制度の活用によって、WCS事業の効果を高めると書いてあります。世界社会奉仕の「担当と任務」について、国際奉仕部門の中に、世界社会奉仕委員会小委員会を設置していただきたい。WCSプロジェクトは、単年度で完了が難しいという場合があります。それで、3年委員、2年委員を作っていただければ、活動がスムーズにいくと思います。クラブ単独のプロジェクトにDDF、ヘルピング・グラント、ディスカバリー・グラントなどを利用する場合には地区がお手伝いをさせていただきます。ただし、最終報告書を必ず出していただかないと、次のDDFを申請しても、それが認められないということになりますので、その点十分気をつけてください。

現地事情の研修と視察の旅を計画しています。5月の12日からフィリピン、タイ、ベトナムに参ります。2002年は2月に実施したいと考えておりますので、よろしければご参加ください。

WCS活動に対するロータリー財団の援助プログラム、同額補助金（DDF）、半額補助金について。同額補助のDDF使用願いと、ヘルピング・グラント、あるいは新人道的補助金について資料に記載しています。ヘルピング・グラントは、ロータリーがない地区に対しての援助の場合に、DDFから使われるものです。

世界社会奉仕助成金（ディスカバリー・グラント）は視察旅行に際して1人1,000ドル、1件につき5,000ドルまで補助金が出るというものです。「WCS活動に伴うDDFの使用と管理方法」の中に詳しく書かれており、DDF使用の場合のフローチャートも載っています。WCS委員会と人道委員会の両方で審査をして、RIに提出していただくということになります。それをお使いになることを、われわれは去年からお勧めしています。

拠出金の60%が3年後に地区に

瀧田 ロータリー財団の援助プログラムは、シェアシステムと言い、当地区からロータリー財団へ

の拠出金がRIで3年間運用され、その60%が、地区のロータリー財団基金として活用できます。40%はロータリー財団の活動資金として使われず。拠出金の60%のほうは3年後には地区のほうに戻る。といっても、お金が戻るのではなく、使用する権利が与えられるということです。その総額が2001年度～2002年度は、資料の5の1に出ているように、63万6,719ドルということです。そのなかで、人道的委員会とWCSが使えるお金は、13万5,000ドル、人道的分野の合計が13万5,000ドルということになっています。そのうち同額補助金に5万ドル、あるいは社会奉仕助成金（ディスカバリー・グラント）に3万ドルなどというふうに割り振られています。

資料に「癌の早期発見を可能にする内視カメラ設置の医療援助」が出ています。これは淀川RCが、3,000ドル、バングラデシュのラディシャヒRCが2,750ドル、当人道委員会のDDFは4,250ドルをそれぞれ拠出、合計が1万ドルとなります。加えてRIのDEFを使いますと、1万ドルの同額補助が出るので、2万ドルのプロジェクトが可能。当初拠出の約6.5倍の効果が出ます。

フィリピンの「大洪水の緊急援助、低価格カプセルの供給」はもっと画期的なものです。大阪リバーサイドRC、それから大阪西RC、大阪中央RCがそれぞれ1,000ドル、計3,000ドルを拠出。当地区DDFが3,250ドル、それからフィリピンの3780地区DDFが6,250ドル、全部で1万2,500ドル。RIのワールドファンドが1万2,500ドルつきますので、総額2万5,000ドルという大型プロジェクトができあがります。1ロータリークラブの拠出額は1,000ドルに対して25倍の大型プロジェクトになります。このようにDDFを使うことを積極的に進められたほうがよいと思います。詳しくは7月21日の第1回クラブWCS委員長会議でお伝えします。

※ビデオ放映

（配布資料『世界社会奉仕活動の一端』参照）

瀧田 5月12日からのフィリピン、タイ、ベトナム視察検証でここにも参ります。過去は自腹で行っていましたが、昨年から世界社会奉仕助成金(ディスカバリー・グラント)、1人1,000ドルの補助金を使っています。去年と今年とこれで2回使いました。これからもディスカバリー・グラントの利用の輪を拡げていきたいと思っています。

国際大会に参加を

笹井サブリーダー 国際交流平和委員会は地味な委員会ですが、読んで字のごとく世界のロータリアン、その家族と友情を深めていただき、奉仕活動を活発に行い、世界平和に貢献していこうと思います。

2004年は大阪で国際大会が催されます。皆さま方に国際大会を認識をしていただくために、ぜひ参加していただきたい。今年度は6月の24日からアメリカ、テキサス州サンアントニオで開かれ、320人ほどが参加します。2002年がスペインのバルセロナ、2003年がオーストラリアのブリスベンと続き、2004年が大阪です。来年度のスペイン・バルセロナは、今年12月31日までに申し込みますと、参加登録料が非常に安くなります。

友好クラブ、シスタークラブについては20クラブが未締結です。このクラブの方々は、シスタークラブまたは友好クラブを締結していただき、友情を深めてWCS活動を活発にさせていただくほうが、地区に費用を出すよりも、いい奉仕活動ができるのではないかと思います。

友情交換というと堅苦しいように思いますが、シスタークラブ締結をしていますと、家族で相手先の会員宅へ泊まらせていただいたり、逆に、自分の家に泊めて、あちこち見学に連れていったり、いろいろしておられると思います。現在は2660地区は、地区対地区という友情交換はしていませんが、個人対個人レベルでは行っておられると思います。ただ、費用は全額自分たちでもちますが、

当地区ではゴルフ、アマチュア無線、ヨット、IYFR、スキーなど親睦活動が非常に活発です。

2660地区のヨット同好会が、ハワイに行ったときにワイキキRCの方をお誘いし、去年は2泊3日で伊豆、淡路島をまわったりしています。このヨット同好会というのは、いちばん古い同好会で、いま、大阪、西宮、神戸、和歌山、札幌にあります。

親睦が平和を招く

笹井 平和はロータリアンにとっての究極の目標であり、また壮大な夢でもあると思います。日本は戦後50有余年、戦争のない平和な世界で暮らしてきました。しかし、世界を見ますと、あちこちで戦争が起こっています。われわれロータリアンは、宗教または人種差別、そして政治を超越して、世界平和のために歩んでいくというたぐい稀なる能力をもっています。ロータリーを通じて世界の国々の文化について認識をし、世界の人々とも友情を深めてきました。世界の人々と友情を深め、ともに奉仕活動をすることによって、戦争のない平和な世界が作られていくと思います。

10年前、大阪イブニングRCの会長であったとき、フィリピンのマカティ・セントラルRCとシスタークラブ契約をしました。そのときのマイク・アロヨ会長の奥さん(グロリア・アロヨ)が、いま、フィリピンの大統領です。それから家族ぐるみで付き合っていますが、日本人とフィリピンとは、まず戦争なんかしない。日本人と戦争はしないよ、と笑って話しました。

ロータリーを通じて、そのように、なかよくなれば、絶対にそういう戦争はしないと思います。皆さま方でもそういう方がいらっしゃるんじゃないかと思います。

軍港、基地として有名なサンディエゴの北にあるオーシャンサイド・シティとも10年前にシスタークラブ契約をしました。オーシャンサイドにも軍の訓練所があります。オーシャンサイドRCの例会に参加したとき、たまたま、軍の偉い人の卓話をされ、後で歓談をしました。そのときも、彼はもう日本とは戦争しないよと言い、あなたがなくても、国がしたらどうなるんだと聞くと、私が

参謀長官になるから、大阪には爆弾は落とさないよと、冗談を言っていました。

世界社会奉仕、青少年交換、GSE、グループ研究交換など地道なおつきあいをすることが世界平和につながると思います。2月23日は平和の日、そしてその1週間を平和週間としています。また2月の第2週からは家族週間です。2月には平和についての卓話、またはフォーラムをして、平和についての認識を深めていただきたい。

高校生が参加する世界最大のプログラム

近藤サブリーダー 青少年交換プログラムは留学制度ではありません。ロータリーの留学制度はロータリー財団奨学生と米山奨学生という制度がありますが、この青少年交換プログラムは、高校生を対象とした1年間の子どものための交換プログラムです。そしてロータリーの子弟の方が参加できる唯一のプログラムです。全世界で、この1年間に約8,000名の高校生が参加し、世界最大のプログラムです。

2660地区では、年間15名の高校生が海外へ出て行き、そして15~16名が海外からこちらに来ています。15~16クラブで青少年の世話をしてもらっています。このプログラムに参加しているのは25クラブぐらいだと思います。それ以外の約60クラブの方々、この制度もご存知ではないかと思えます。

高槻西RCは今年で12年目のクラブですが、過去11年間ずっとこの青少年交換プログラムに参加しています。46人ぐらいの小さなクラブですが、クラブ総出でみんなやっているようなもので、いままでに関係したロータリアンは、ホストファミリーだけで18家族あります。

毎年15人の若者たちが国を出ていきます。出ていくときは、ほんとうにこんな子がだいじょうぶかなと思うような子どもたちばかりですが、1年間すると立派になって帰ってきます。その帰ってきた子どもたちは、ロテックスというひとつのサークルをつくっています。彼らを将来りっぱなロー

タリアンに育てようと動いています。そして、日本全体の組織を創っていかうと考えています。

青少年交換プログラムは、国ベースで見ますと、日本とオーストラリアが大きな役割を占めています。オーストラリアと日本との間では年間約200名ぐらいの青少年交換が行われています。

かつてメルボルンで世界大会があったときに、メルボルンの市長がこう言いました。「いまオーストラリアはたいへん親日的な国になっています。それはこの青少年交換に帰するところが非常に大きいんですよ。年間約200名の若者たちが日本とオーストラリアの間を行き来しています。それが約30年間続いております。そして30年前の200名、オーストラリアへ帰った若者たちがいま、この国で中心的な役割を支えている人たちばかりです。彼らのほとんどが親日家なんです。」

このプログラムは青少年交換プログラムと留学プログラムというよりも、じつは若者を育てる、私たちの子どもをどう育てるかというプログラムになっています。皆さまのご子弟を次のりっぱなロータリアンにするために、多くの方々に参加していただきたい。募集要項を挟んでいますが、同じものを7月の後半に各クラブにお送りします。8月の25日に、国際奉仕委員長会議、青少年交換委員長会議を合同で開催します。多くの方々のご参加をお願いいたします。

柏木直前G WCSではビデオで現地のように身を身近に感じることができ、まなこの美しさ、あるいは笑顔のきれいさを肌で感じることができました。青少年交換委員会では、感動的な裏話もお聞きいたしました。ロータリアンの子弟が参加できる唯一の交換プログラムであり、何回か現場のオリエンテーションや壮行会なりに出たことがあります。

世界の平和という礎は、小さいこと、細かいことの積み重なりが、心と心との通いあいとなって世界の平和の一助に役立つ日がくるのではないかと思います。そういうものをめざし、われわれは精進してまいりたいと思います。

ロータリー財団部門

| | | | | |
|--------|----------|----|----|----------|
| リーダー | RI理事ノミニー | 菅生 | 浩三 | (大 阪 北) |
| サブリーダー | | 居相 | 英機 | (八 尾) |
| サブリーダー | | 寺田 | 秀興 | (東大阪東) |
| サブリーダー | | 中西 | 藤和 | (大阪梅田) |
| サブリーダー | | 岡本 | 健治 | (大阪東南) |
| サブリーダー | | 野村 | 浩司 | (大阪そねざき) |
| サブリーダー | | 溝畑 | 正信 | (東大阪東) |
| サブリーダー | | 金田 | 勝弘 | (大阪城南) |
| S A A | | 湯木 | 尚治 | (大 阪) |
| 記録 | | 生駒 | 伸夫 | (大 阪) |

4人の偉大な先覚者

菅生RI理事ノミニー ロータリーの原点は、R Iではなく、1人1人のロータリアンこそがロータリーです。クラブというロータリアンの集団こそがロータリーです。そのクラブの活動が命ですので、クラブのロータリー財団の活動は、皆さま方の活躍にかかっていると云わなくてはなりません。財団は、ロータリーの主要な一つのシェアを占めているわけです。

ロータリーは、4人の偉大な先覚者の業績の集約です。ポール・ハリスは「人間愛をもって生きなければならない」と言いました。対して「社会

的な理論武装をしないと、社会的な活動の広がりをもてない」と言ったのが、シェルドンです。人間愛を社会的に構築したものが、サービスという考え方です。ポール・ハリスはロータリーに血肉を与え、ソフトとして構成したのが、シェルドンです。

事務総長を30年務めたペリーのおかげでロータリーの組織が確立しました。本日のような次年度のための地区協議会も、彼の発想です。クラブの組織から、地区、R Iの組織も全てペリーの考案です。彼はロータリーに一生を捧げました。ハリスが亡くなると、すぐに引退をしたということで、ポール・ハリスの影のような人と言われますが、



偉大な社会的貢献といえます。

6代目の会長クランプが財団を提唱しました。「金がなくては、良いことをしようと思っても何もできない」と財団を提唱し、今日があるわけです。

ハリスが1946（昭和21）年に亡くなったとき、全世界から130万ドルもの寄付が集まり、財団の活動というものが緒についたわけです。ロータリー財団は、アメリカ・イリノイ州の州法によって設立された非営利の財団法人です。RIも別法人になっていますが、それは体制的な処理等が必要であるため、財団の管理者はすべて国際ロータリーから選出されていますので、運営も整合性が法律上、きちんと確保されています。

ロータリー財団は、お金を入れるほうと出すほうと両面があります。資金は皆さんの浄財以外にありません。まず、お金を入れなくてはなりません。これが寄付です。それから、入ったお金は有効に使わなくては意味がありません。この使うほうをプログラムと申します。財団は、その「入り」と「出」、両方の把握ということになります。

出るプログラムには、3種類あり、第1が教育的なプログラム、第2が人道的プログラム、第3が文化交流のプログラムです。

教育、配慮、相互理解が幸せを導く

菅生 人間社会は、個々の人間により構築されているわけですから、1人1人の人間の質を上げなくてはいけない。それには「教育的プログラム」が必要です。単に知能的な指数を上げるだけでなく、世界中の人間が仲良くできる人間をつくるということです。「人道的プログラム」は、発展途上国の人々にまず資金を提供するということです。「その国の政治ですればいいじゃないか。なぜ、自分らがやらないといけないのか」という見方もありましょう。われわれは、「政治や行政というものを確立して、彼らに全てを任せておけばいいのだ」と考えますが、それは短慮です。行政や政治にできるのは、丸く社会を掃くだけで隅が残り

ます。隅の残っているところは、結局、自分たちがしなくてはいけないのです。ボランティアというのはそういうことだと思います。

では、1人1人の人間を教育し、人道的な配慮がすみ、それで世界の人々が幸せになるかというところではありません。アメリカ人と日本人はちがいます。相互に理解をしなくては本当の幸せにはならないのです。そこで、3番目のプログラム、「文化交流」が絶対に必要なのです。

非常に大事な「入る」方は、年次寄付とあって、毎年毎年入れて全部使いきる寄付と、恒久基金とあって、入ったら元金を置いておいて、運用益だけで活動をするという、2本立てになっております。

奨学生は親善使節

寺田サブリーダー 財団国際親睦奨学生委員会 は、教育的プログラムのなかで国際親善奨学生のお世話をすることが大部分です。当地区が30年以上、永々と続けてきているもので、地区から世界中に奨学生として送り出した学生は、400名を超えています。教育的プログラムには他にいくつかあり、菅生PGがお書きになった『ロータリー財団』冊子にいくつか書かれています。

今年度は、大学教員のための補助金プログラムに取り組みました。当地区では初めての取り組みです。日本から初めて外国に教員として行っていただき、現在、活躍中です。

委員会の名前が示すように、国際親善奨学生を、海外に送り出すのが大部分の仕事です。毎年、約4,000万円以上のロータリー財団寄付金を使っています。新年度に奨学生部門にいくらのお金を使うかということは、2年前の財団委員会で決定されます。

応募者に対して説明するとき、お配りした資料の内容を熟知していると受付が円満にいくと思いますので、1年間大事にこの資料をお手元に置いてください。裏表紙の左上に「親善使節」の項目が掲げてあり、「国際親善奨学金プログラムは、

国際理解と世界平和を促進するためにロータリー財団の使命を次の通りの方法で支援するためのものです」として6項目が掲げてあります。これは、ロータリアンにはよく理解できることですが、残念ながら奨学金に応募してくる若い学生、あるいは社会人にはこの部分が表面上ではわかって、その深層がなかなかわかっていただけません。

今年3月末に2002～2003年の7月以降に出発する奨学生の募集を締め切り、5月と6月に選抜試験を行います。約40名の応募者の中から、16～17名の奨学生候補者を誕生させます。これに先立ちクラブからの推薦にあたっては、クラブの会長、前任の委員長、事務局などにより、「この学生、あるいは、この若人ならば推薦してもいいだろう」という判断のもとに地区に推薦していただきます。

候補者が決まりますと申請書を6月頃に財団本部に送付します。財団本部は、世界中から集まった候補者を選考して、彼らの希望する大学、科目などを見ながら、留学する大学の指定を行います。指定された大学の所在するロータリー地区の中から受け入れロータリークラブと、顧問ロータリアンを決めます。それが円滑にいけば、11月ぐらいに決定されるはずですが。

候補者となった学生は7月以降、大学の選定の円滑な推進、出発国と受入国の両地域の親善をはかるべき親善大使としてのオリエンテーションを3回受け、そして1年後、2002年の8月以降から各国に出発していくことになります。

25,000ドルの奨学金

寺田 1名に25,000ドル(上限)を受け、1年(あるいは2年)の留學生活を送ることになります。選考に6カ月、オリエンテーションに1年、それから留学ということになります。留學期間中はスポンサークラブや顧問ロータリアン、そして、留學先の外国の地区、顧問ロータリアンの世話になります。無事に留學を終えて帰って来るまで、短くとも2年半から3年(2年留學の方は3年以上)ロータリーとの接触をもつわけです。そう

いうことを地区は地区で、各クラブは顧問ロータリアン、あるいは推薦クラブとして担当していただきます。留學を終え、目的を達成した学生たちはロータリーに感謝の念をもっています。ただ、この組織・システムや、受け入れ側のクラブ・顧問ロータリアンに対する感謝は十分でも、送り出したクラブや、その世話をした顧問ロータリアンに対する感謝は、残念ながらいまひとつのように感じています。この5～6月に選考する学生が2002～2003年に出発して、帰ってくるまでの世話は、財団委員長・委員の方、クラブの顧問がその任にあたるわけです。そして、奨学生と密な接触をもって世話をさせていただくと、クラブ・顧問ロータリアンに対する感謝の気持ちがより大きなものになると思います。

地区内において、推薦をしたことも、合格者を出したこともない、従って奨学生の世話をしたことがないクラブが15クラブ、推薦はしたが合格しなかったのが22クラブあります。皆さんが財団に寄付をされるわけですから、財団活動の70%ぐらいの多額な金額を使う奨学生活動に、もっとクラブとして取り組んでいただきたいのです。留學生を通じてきっと、彼らが行った国やロータリーとの交流が深まり、その地のいろいろな文化状況等が皆さんのクラブにもたらされると思います。そこで、斡旋制度、多数の奨学生が合格したクラブから、合格者をいままで世話をしたことがないクラブにお回しして、世話をさせていただくことです。詳しくは年度途中のクラブ財団委員長会議の中で話をいたします。

DDFは地区に使用を委ねられた資金

中西サブリーダー 年次寄付というのは、1994～95プログラム年度から導入されたシェア・システムによって納めた寄付の40%がワールドファンドとして地区に集められ、あとの60%がDDFとして3年後に還ってきます。DDF(District Designated Fund:地区財団活動資金)は地区が主体的に使用を委ねられた資金で、例えば、国際

親善奨学生資金がそれです。同額補助金の提唱者側の負担分にDDFを少しつけると、倍のお金がワールドファンドから出るという仕組みです。他に3H補助金などいろいろとあります。

財団に入るワールドファンドは財団にプールされますが、これもすべて100%補助金として、同額補助金、GSE活動や、3H補助金等に使われます。これらを使うには申請が必要ですが、申請をすれば誰でも使えるお金があるということになります。次年度の2001～2002年度に2660地区で使えるDDFは、3年前に納めた額の60%、636,719ドルが還ってきます。その76%が奨学金に使われ、人道的分野には135,000ドルの準備があります。(詳細は資料4-①を参照)

同額補助の申請は、援助実施国、または援助国のどちらでもできます。プロジェクト実施国のクラブや地区の寄付額より援助国側が同額以上の寄付、すなわち、外国からの援助を同額以上にしなければなりません。日本のDDFをつける場合には、その資料は日本から出すほうがうまくいくと思います。日本には国際ロータリーの日本サービスセンターというのが東京にあり、ここでは申請をまちがわないようにチェックしてくれますので、日本サービスセンターを通じて出していただくことが大切だと思います。

世界社会奉仕助成金(Discovery Grants)は奉仕をするために外国に行く費用が出るものです。これもDDFを使います。1件が5,000ドル(東南アジアですと1人1,000ドル)、現在は3万ドルの枠があるので、6件のDDFが使えます。

地域社会プログラム(Community Assistance Program:CAP)は今年から始まったもので、国内において国内、または地区内の社会奉仕プロジェクトに1,000ドルの助成ができるものです。トータルが1万ドルですから、10件ぐらい助成できます。

300万人の子どもたちを助けたポリオ・プラス

岡本サブリーダー ロータリーが100周年を迎

える2005年にポリオ撲滅宣言をできるようにと、1985年にポリオ・プラス・プログラムが開始されたわけですが、当時に比べ、現在では発生件数が95%減少し、発生国も1985年の125カ国から20カ国に減少しました。患者数は、確定数で1999年12月に5,230名、2000年に1,985名に減少、うち、ポリオウイルスが確認されたのは、1999年に1,236件、2000年末に521件です。

過去10年間におけるポリオ撲滅活動のおかげで、およそ300万人の子どもたちが犠牲にならずにすみました。1985年から1999年までに20億人の子どもたちがポリオのワクチンを飲み、予防接種を受けた結果です。

2000年末にポリオの流行国が20カ国、2001年に10カ国、2002年にはポリオウイルスの移入がなくなる。2003年に全世界からポリオウイルスが閉じ込められ、2005年にポリオは完全に撲滅される。そういったシナリオを描いています。2005年に無くすためには、その2～3年前にはポリオの患者さんが発生していない状態であればなりません。(資料参照)

この長期計画を実行するためには、WHOでは10億ドルの寄付が必要であると推定していますが、5億5,000万ドルはほぼ確保されています。推定不足額4億5,000万ドルを満たすため、ロータリーはパートナー団体と協力したり、官民の双方に対する寄付の推進活動を行っています。もしも、ポリオの伝染をこの12～14カ月以内に食い止めることができなければ、対策費用は、さらに2億ドルのプラスとなり、2005年における撲滅計画が狂ってきます。

2660地区の2000年から2001年のポリオ・プラス・パートナー・プログラムへの寄付は、45,311ドルで、今年から初めて各ロータリークラブに寄付をお願いしました。31クラブから寄付をいただき、10,311ドルです。一方、このDDFでの寄付35,000ドルを加えて計45,311ドルです。

次年度は、DDFから1万ドルの寄付と、まだ寄付をいただいていないクラブに協力して頂いて、4億5,000万ドルという多額の不足に少しでも協

力していきたいと考えています。

異文化研究

野村サブリーダー GSEは、異なった国同士での研究チームを交換するというもので、1965年での従来の教育的プログラムから独立しました。(菅生浩三PG著『ロータリー財団』10～11頁)

この交換プログラムに携わっていただくのは、団長がロータリアンであること、その団員は25～40歳までの若い職業人ということになっています。皆さま方の会社の従業員で、海外で勉強をして帰国後、自分の会社でその経験を生かしたいという考えでも結構です。まず、異国の生活・文化にふれ、4～6週間の短期間に異文化を研究していただき、自分のいま行っている仕事を中心に比較研究するという形になっています。当地区では、1968年に初めてアメリカに研究グループを出して以来、だいたい、毎年出し、大きな成果をあげています。

すべてのクラブに国際交流・文化交流をしていただきたい願いからGSEの受け入れシステムをIMの組を中心に分けるようにしました。平等に1組から8組までのクラブに経験していただき、身をもって国際交流をエンジョイしていただくということからです。本年は、オランダの1560地区と、来年はアメリカのウィスコンシン州のミルウォーキーと交換をする予定です。

グループ選考でいちばん苦しむのは、団長を選ぶことです。訪問先に4～5週間まいりますので、ロータリーについての話が出てきたり、各クラブの訪問があり、ときには地区大会への参加があります。従って、ロータリーを理解している方、できれば会長経験の方が非常に適切です。団長が決まりますと、8月ころから団員募集に入ります。

ブロック別の各委員長クラブについては、本年度の副委員長クラブに委員長クラブをお願いします。副委員長クラブは、組みたいクラブがあれば申し出てください。なければ輪番制をお願いします。

受けた恩恵を社会に還元

溝畑サブリーダー 帰国した国際親善奨学生を中心に財団学友 (Foundation Alumni) の運営を行なっています。当地区が国際親善奨学生を1957年に1名を派遣して以来、昨年までに多くの奨学生を送り出し、PSC (留学経験者の学友会: Past Service Club) 会員が400名を超えています。会員のなかには各方面で活躍しておられ、いまでもスポンサークラブのカウンセラーと交流をもっている方もおられます。(『ロータリー財団』参照)

学友のフォローは各クラブでもされていますが、地区では、新しく出発する奨学生候補者に、最新の情報を提供し、安心して留学に旅立てるような準備の手伝いを中心に行なっています。帰国した奨学生が自分たちなりに作成したマニュアルを中心に、候補者の指導や質疑応答を行なっています。配布したPSCだよりの後ろに留学マニュアルをつけています。

2年に1回、当地区から派遣した国際親善奨学生とGSEのメンバーを載せた学友名簿をクラブにお配りしていますので、活用してください。

学友と候補者との間では、インターネットのメーリングリストを通じていろいろな質問のやり取りをしています。このやり取りをまとめてマニュアルが作られています。1996年から運営され、150名、2,600通以上のメールがやり取りされています。このメーリングリストには、この2660地区のみに限らず、他地区からも参加されていて、これから行く人たちの役に立っています。

従来、11月のロータリー財団月間には帰国奨学生の卓話希望の依頼が地区に寄せられます。財団学友委員会としては、月間だけでなく、必要があればいつでも財団学友会のメンバーを派遣しますので遠慮なく申し込んでいただきたい。

PSCは、PSCだよりの・財団学友名簿の製作予算を奨学生のスポンサークラブに、1人1年間2万円を拠出いただき運営しています。合格されたクラブは1人2万円を次年度の予算に入れていただきたい。

帰国後、自分たちが受けた恩恵を、次から行く人たちに教えたり、受けた恩恵を社会に還元していただきたいのです。遠くに行かれたり、ときには連絡のとれない例もあります。スポンサークラブは密な連絡をとっていただきたい。

100億円にもなる財団への寄付金

金田サブリーダー 財団増進委員会の役割は、会員の皆さまからできるだけ多くの寄付を頂戴することです。そこで、寄付金が、どのように使われ、どのような経過をたどっているのかを簡単に説明いたします。

世界中から集められました寄付金の総額です。ここ4、5年少しずつ減っていますが、日本円にして100億円から73億円の寄付金があります。内訳は、アメリカ39%、アジア38%、ヨーロッパとアフリカを合わせて11%、その他の地域で12%の比率になっています。うち日本が占めている割合は、昨年度の実績で全体の約22%です。

ロータリー財団は、国際ロータリーを支援する団体で、税制上、別組織になっていますが、R I 会長指名の13名の管理委員（元R I 会長4名を含む）が、運営・管理をしています。寄付金は管理委員会が3年間運用、高い収益を上げています。時には寄付金と同額程度の収益を上げています。その収益から管理委員会経費を差し引いた残りとして寄付金を合わせて、すべて3年後にはプログラムに使用します。収益を上げる方法では株式へ、年次寄付や恒久基金は高利回りの1年ものや3年もの、5年ものといったようなものに投資をします。ポリオ・プラスのような基金は、比較的安全な6～8%程度の投資にまわして運用し、この年間のキャピタルゲインは17%の記録を上げています。

寄付金の配分については管理委員会が開発したシェア・システムにより行われます。シェア・システムでは、管理委員会が毎年プログラム予算を編成する際、年次寄付の合計をDDF（地区財団活動資金）に60%を、残り40%をWF（国際財団活動資金）にまわすようにしています。このシス

テムの特徴は、管理委員会が地区の希望と要望を反映させて、地区の希望がその最も関心のあるプログラムに参加できるように考えている点にあります。

ロータリー財団の1999～2000年度における収入が1億1,840万ドル（約142億円）、支出が1億1,141万ドル（約137億円）。差し引きした残りとして従来からの累積分を合わせると、ロータリー財団の資産は6億7,800万ドル（約813億円）あります。

支出の内訳は、DDFにおいては人道的プログラムに31%、教育的プログラムに29%、ポリオ・プラスに40%の割合で使用され、WFは各地区からの申請プログラム（GSEの研究グループ交換、3H補助金、同額補助金が含まれる）により充てられるようになっています。3H補助金は、保健、飢餓追放、そして人間尊重を補助する補助金のことです。10～50万ドルの範囲で支給されます。これは自主・自浄能力のある経済的かつ社会的な開発プロジェクト等に対して、2、3年続けて支給されるようになっています。

ポール・ハリス・フェロー制度

居相サブリーダー 約70年前、アーチ・克蘭フの提唱により創設されたロータリー財団への寄付が、1946年、創始者ポール・ハリスの死に際して130万ドルになり、ロータリー最初の国際親善奨学生が誕生しました。

ロータリー財団にはポール・ハリス・フェロー（PHF）制度があり、1,000ドル以上寄付した者にPHFという称号が与えられます。寄付回数が2回、3回となると、マルチプル・ポール・フェローとなりますが、これは40年ほど前にその制度ができました。ロータリー財団の組織と運営については、国際ロータリーがきちんと主幹しています。財団の3つのプログラム、教育的、人道的、文化交流プログラムについては資料をご覧ください。

11月はロータリー財団月間で、例会プログラムを財団にあてますが、それは、財団の意義、プロ

グラムへの認識と理解を高めて、寄付の増進につとめていただくことが目的です。クラブ例会と卓話講演者として財団学友の話を聞く機会をお勧めします。(『ロータリー財団』参照)

外国人留学生は財団奨学生の対象

大庭(千里メイプル) 当クラブに、韓国、タイおよびバングラデシュからの留学生が申し込みをしてきました。バングラデシュの人に日本から出す国際親善大使の任が果たせるのか。いずれはバングラデシュに帰って、もうこちらに来ない可能性が強い人を学友委員会はどうかお考えになるか。

また、合格して以後に斡旋をするという話がありました。1クラブ3名以上はアプライするな」とも聞きました。どちらが正しいのでしょうか。書類作成も大事な仕事だと思いますので、書類を出す段階からそのようなクラブにしていきたいという希望をもっています。

寺田 バングラデシュから2名の応募者があり、彼らをこのテストで、申請者として受け付けるかどうか悩みました。クラブが推薦されたことに対して、地区が「受け付けません」とは、いまのところ言いづらい。これから、1次、2次の判定を行なうなかで委員会として協議を重ねていきたい。

斡旋ですが、今年から実施するなかで混乱があります。推薦は3名以内としていますが、来られる方は全員推薦するクラブもあります。1クラブから多くの方が合格されると、1クラブに偏って、プログラムにタッチできないクラブが出ますので、その方々を他のクラブに斡旋したいという主旨です。

井谷(大阪城南) 産経新聞でGSE団員の募集をされ、地区に直接応募した人を当クラブで推薦しましたが、不合格でした。将来このようにマスコミにてPRをし、多数の応募者がでた場合どのような試験をされるのでしょうか。簡単に、あなたは不合格でした、では、本人も推薦したク

ラブも納得がいかない。

寺田 クラブの推薦など多くの方の応募を受け、試験を行います。試験は、論文と面接とがあり、面接に際しては、ガバナー、直前ガバナー、GSE委員長、過去のGSEの団長、当年度の団長など5~6名の審査官で行ないます。

論文はどのような研究をしたいかという目的について提出していただき、その審査の上、面接を行うこととなります。面接は全て英語でします。採点は5段階。本人の考え方、どのような研究をし、どのような目的をもってGSE(研究グループ)にアプライしてきたのかをに厳正に試験を行ないます。

目的と論文とで最終的に決まり、あと面接で英語能力を見ます。最終的には言葉が必要です。先方の国では重要ですから。最終決断を6名で行います。残念ながら当選されなかった方には、地区から不合格という通知をします。

井谷 承るところでは、その方が推薦する前にすでに6名が決まっていたという話ですが。ご説明のようでしたら、当クラブに連絡があって然るべきであると思います。地区のほうから「あなたのクラブのテリトリー内だからあなたのところで推薦しろ」ということで当クラブが推薦したわけです。詳しいことは、当然、地区でその本人なりに説明してやって然るべきではないですか。クラブではわかりませんから。

寺田 産経新聞で募集しますと同時に各クラブにもお願いをしています。決して、地区で陰で誰々を選ぶというようことはまったくございません。私の方針もフェアにやっていますので了解を願いたい。

米山奨学部門

| | |
|--------|--------------|
| リーダー | 中澤章好 (大阪住吉) |
| サブリーダー | 山本和雄 (大阪なにわ) |
| サブリーダー | 小竹靖二 (大阪中之島) |
| SAA | 松田 甫 (大 阪) |
| 記録 | 笹倉敏彦 (大 阪) |

カウンセラーが育てる米山奨学生

* 財団法人ロータリー米山記念奨学会のビデオ 映写

中澤リーダー 制度は、日本に來ている外国の留学生に経済的な援助を与えることが大きな目的であり、1～2名のカウンセラーをつけて、各クラブに預かっていただくものです。米山奨学生がほかの外国人奨学生と大きくちがう点はカウンセラーがついていることと、ロータリークラブの例会に必ず月1回出席して頂く義務があることです。合格したときに誓約書をいただいております。ロータリーが力を入れているのはカウンセラーの委員の方です。いい奨学生になるか、悪い奨学生になるかは個人の差はありますが、やはりカウンセラーの方の力が非常に大きい。

米山さんはアメリカでロータリーを学ばれ、日本に最初にロータリークラブをつくられました。三井銀行の取締役で、三井信託をつくられ、現在の青山学院の大学から幼稚園までつくられた方です。1952年に東京クラブをはじめ国内全クラブの合同事業として、ロータリー米山奨学委員会が結成されました。全国的な組織となるのは1959年の7月で、名前がロータリー米山記念奨学会ですから、ロータリークラブがある国から留学生をとるという制限がありました。いまでは、ロータリークラブがない国でも、東南アジアでなくヨーロッパでも良いと、いっさいの制限を取り払いました。現在、国費とは別の私的な奨学会では、金額、人数とも米山は日本最大の奨学金を渡す団体で、去

年が1,100人で、今年は寄付金の集まりが悪かったので1,000人になりました。

2年前から、当地区も大学推薦地域となり、大学で一次選考をしていただき、われわれが審査するというふうになりました。2660地区は中国、韓国、台湾の3カ国からの留学生が多いので、中国、韓国、台湾の学部学生はとらないことになっています。米山奨学会の主旨としてはいろいろな国からとり、偏らないことになっています。大学推薦になって優秀な学生が来るようになりました。中国は博士課程でなければダメという制限があり、とくに優秀な人が集まっています。

地区の活動は4つになります。ひとつは奨学生を維持するための寄付金の充実、奨学金の確保の問題です。次に奨学生の選考です。いい奨学生をとり、カウンセラーを含めクラブの皆さまと仲良くなってくださいこと。米山奨学生の卒業生でつくられている学友会があります。「学友会関西」は2650、2660、2680地区の3クラブが一緒になっています。せっかく奨学資金を出して卒業してもらっても、以後は、なしのつぶてでどうしているのかわからないと聞くことがあります。地区としては、学友会の組織をきちっとしたものにするために、学友会メンバーとコンタクトをとっています。

5月に新規奨学生のオリエンテーションがあり、カウンセラーの皆さまにお話しします。9月にはクラブ米山奨学生委員会を開催いたします。10月は米山月間で、寄付金のお願いをし、米山奨学会を一般の会員にわかっていただく強化月間です。

10月になりますと、そろそろ次年度の米山奨学生募集を始めます。それと同時に年に1回、米山奨学生を招待して、カウンセラーあるいはクラブ委員長の皆さん方とレクリエーションを開催します。

年間200万円の奨学金

■ 小竹サブリーダー 資料をご覧ください。米山奨学金とは、私費で日本へ留学している学部、修士あるいは博士課程の学生に対して奨学金を支給するというのが基本です。奨学生の募集は10月1～7日に行いますが、2660地区では、地区指定の大学推薦を受けた者のみが応募できます。そして、20名を募集する場合には、40～45名の推薦をいただき、日本に対する理解度、言葉、意志の強さなどを基本的には選考の標準にしています。この制度は今年が4年目に入りますが、今年6月に、この制度の見直しを行います。来年どのように変わるかはまだわかりません。

■ 今月の終わりか、来月になりますと、皆さん方のクラブ、奨学生の面倒をみておられないクラブに、米山奨学生の今年度募集しました21名についてお世話をお願いしたいというガバナーの文書が参ると思います。

■ 5月21日に、本年度新しく採用する21名の奨学生のオリエンテーションを新阪急ホテルで行います。そのとき初めてクラブが面倒をみる学生とカウンセラー、クラブ委員長の方々が会います。2～2時間半説明をした上、懇親会をして6月から各クラブにお世話頂くことになります。奨学金としては4、5、6月の3カ月分をいっぺんに渡し、7月からは1カ月分ずつ渡すことになります。

10月にはロータリアン、カウンセラー、委員長とその家族、そして奨学生とその家族、170～180名でレクリエーションを開催します。いままでは宝塚歌劇の鑑賞を行っていました。日曜の朝10時ごろ集合し、夕方4～5時ごろに解散します。その後、年が明けた2月、2年留学生、博士号・修士号取得者のための歓送会があります。大きな地区の行事は以上の3つ。中間の9月にクラブ委員

長会議を開催します。

米山奨学生は自国の大学を出てから日本の大学、大学院を目指していますので、年齢的には37、8歳の人、家族のいる人もいます。むしろ、そういう人の方が多いと思います。

2660地区の86クラブで44名の奨学生をみますので、二つに一つのクラブしか面倒はみて頂いていません。奨学生1人に月額15万円、年間180万円の学費を支給し、レクリエーションなどの費用20万円を加えて1人200万円ほどかかります。2660地区の寄付総額が1人平均2万円として、約1億円。44名の奨学生に対して若干の事務経費を加味して、それだけ必要だということです。ということで、面倒をみていないクラブもお金は出していますので、自分ところだけがお金を渡しているということではないことをご理解いただきたい。

30万円の個人寄付金で約87,000円軽減税額

山本サブリーダー

1. 寄付金の種類と免税処置

(1) 普通寄付金

これは米山奨学会運営の基本的な安定財源として、欠くことのできない重要なものです。各クラブは寄付金計画を年度ごとにクラブ理事会に提案し、予算編成の承認を得ることが必要です。全会員に拠出をお願いするわけで、会員の十分な理解をお願いします。2660地区としては1人当たり5,000円をお願いしております。

(2) 特別寄付金

個人、法人、クラブの区分けができます。ク



ラブの場合、創立何周年記念等のクラブ事業としてご協力をして頂くもので、金額、時期については自由です。

(3) 遺言寄付金

2000年度からロータリアンの申し出による遺言寄付金を受ける制度が設けられます。この制度は、専門家を含めた特別委員会を組織し、検討しているところです。

(4) 免税処置

個人、法人として特別寄付をいただきますと、税法上の優遇措置を受ける認可を米山奨学会は与えられています。特別寄付金年額1万円以上の方には、免税を受けるために必要な証明書類を米山奨学会から自動的に本人宛に2月初めに送付いたします。

所得税確定申告書の寄付金控除の算式によって、証明額が所得から差し引かれます。具体例として、個人寄付金30万円の場合、そのロータリアンの年収が1,000万円としますと、約87,000円が軽減税額とされます。2,000万円以上の年収があれば約116,000円、年収3,000万円の方は約145,000円が免税処置という形になります。

2. 表彰制度

米山ファンドフェロー、準米山功労賞、米山功労賞、準米山功労法人、米山功労法人、米山特別功労法人、米山功労クラブ、一千万円・二千万円・三千万円達成クラブという8つの表彰制度があります。(資料参照)

2000年12月現在の特別寄付金月報によると、クラブではいちばん多いのが大阪北344万円。以下、大阪南、大阪、大阪西、八尾、大阪西南、大阪天満橋、大東、吹田、大阪梅田東となっています。

1人当たりの平均寄付額では、大阪梅田東(24,553円)、八尾(24,411円)、大阪西(23,083円)、大東(21,558円)、吹田(19,189円)となっています。

全国では、1番目が2650地区(福井・滋賀・京都・奈良)、2660地区、2750地区(東京・グアム・サイパン・パラオ)、2760地区(愛知県)、2590地区(神奈川地区)の順になります。

1人当たり平均寄付額では、2650地区(12,833

円)、2660地区(14,066円)、2750地区(11,709円)、2760地区(9,695円)、2590地区(18,494円)です。全国会員1人当たりの平均が8,971円です。

危機に直面する米山奨学会

山本 米山奨学会の1999年の収支は22億6,000万円の収入に対し、支出が23億9,000万円で、約2億4,000万円の不足が生じています。これは特別積立金から取り崩して差し引きゼロとしています。2000年度の決算はまだ出ていないのですが、収入の部が19億9,600万円、支出は23億4,000万円、これも、特別積立金の取り崩し4億円が見込まれています。

米山奨学会の運営が非常に苦しくなっている現状のなかで、不況のなかですが、当地区としましては昨年同様1人当たり普通寄付金5,000円、特別寄付金15,000円、計2万円の寄付をお願い申しあげます。

地区全体としましては、12月末日の会員数5,037人掛ける2万円で1億74万円の目標達成にご理解をお願いします。

1996年をピークとして寄付金が減少しつつあり、奨学生は1,000名の大台に乗っています。1999年決算は財団始まってはじめて運用財産から2億4,000万円を取り崩し、2000年も1,100名の奨学生を迎え入れ、4億の取り崩しをしなければならず、2001年の奨学生数を1,000名に戻さなければなりません。米山奨学会が危機に直面しているともいえます。寄付金収入に合わせて受け入れ奨学生を調整すれば解決できる問題ですが、それではあまりに短絡的な解決策で、ロータリアンとしての資質が問われるのではないかと思います。

資料にもありますように、わが国の留学生政策として、中曽根総理の時代(昭和58年8月)に21世紀の留学生政策に関する提言及び21世紀への留学生政策の展開についての提言を行い、10万人の留学生受け入れを表明しました。平成10年5月現在の留学生は51,298名、そのなかで米山奨学会が受け入れたのは8,822名、約5分1をわれわれロー

タリアンがお世話しているといえます。

1998年8月に米山奨学会の理事、ガバナー、米山委員長、クラブの会長、大学関係者を中心に実施された「もう一度考えよう～米山奨学事業」では、前途有望で優秀な異文化間コミュニケーション能力の高い学生を援助し、その母国での発展が大いに進み、日本を初め国家間の協力がいっそう綿密で平和なものになるために寄与する、というのがロータリアン全体の願いであると報告されています。

また、平成11年3月に文部大臣の有識者会議でまとめられた「知的国際貢献の発展と新たな留学生政策の展開をめざして」というなかでは、1人1人を大事にする質的充実にいっそう留意することを強調しています。これは従来の留学生を受け入れる姿勢から、さらに進んで世界の国や地域からの優れた留学生を引きつける姿勢へと転換することを意味しています。

この不景気な中で心苦しいのですが、人頭割5,000円は各クラブの皆さまにも十分ご理解いただけたと思います。残り15,000円について、大阪中之島クラブでは、従前は米山功労者になっていない方3人で30万円の協力をお願いしていたのですが、昨年からは準米山功労者でもいい、というので1万円以上3万円と、広く皆さまに協力願う方法をとっています。当クラブの人数は50名ですが、準米山に3万円以上ご寄付いただいているのが48名ということです。

2660地区の指定校

山崎（大阪東南） 選考はまず日本語の理解、次にマナー、その次に勉学ということですが、どのような試験をするのでしょうか。

中澤 30～50校あり、アンケートでは10校から解答がありました。いちばん多いのは大阪大学で約90%、大阪市立大学、大阪府立大学、大阪外国語大学。大阪国際女子大学が入り、関西大学、近畿大学、大阪産業大学。以上で募集を受付けてお

ります。阪大の方が優秀な成績でスッと通られますね。

従来は、圧倒的に中国、韓国の方が多かったのですが、今年はモンゴルが2人、ベトナム1人、ネパール1人というように変えていっています。また、財団の要請で10人以上1カ国からとってはいけないというので今年は、中国8名、韓国7名、台湾2名、モンゴル2名、ベトナム1名、ネパール1名です。

選考は論文形式で、文化系統・理科系統・医学系統の専門委員6名が担当します。その専門委員6名と、ロータリアンが6名（パスト・ガバナー、ガバナー、米山の委員）が審査します。

この人であればロータリークラブに迷惑をかけないとか、あるいは、あいさつもできなかつたら困りますから、マナーや日本語、主にそういう点を重視しています。点数の配分は論文と半分ずつです。

山崎 レクリエーションのことですが、この地域は日本の伝統文化が多く残されています。宝塚も素晴らしいですが、ぜひ日本の文化を鑑賞して、日本文化にふれていただく機会をつくっていただきたい。

中澤 貴重なご意見ありがとうございます。そういうことも考えていきます。

高島（千里メイプル） 台湾、中国、韓国はYD（博士課程）ということですが、他の国、ネパールとかは同じように博士課程なのでしょうか。YU（学部課程）は無くなったと思っていましたが。

また、現在の選考制度は3年前からで、それまではクラブが推薦していたと思います。システムからいえば、大学に任せて、大学から推薦された人をセレクトする方が労力も省けるし、いい学生が集まるというのも事実だと思います。しかし、クラブが推薦する制度が無くなると、奨学生とクラブとのつながりが従来に比して希薄になることがあると思うんです。クラブとして、その学生に

対して親近感をもって接するまで時間がかかると
思います。

中澤 学部課程はございます。中国、台湾、韓国には制限がありますが、他の国にはありませんので、なじみのないネパール、モンゴルなどの学生を引きあげたいと思い、今年、実施しました。

選考制度について現状がいいか、以前のシステムがいいか模索中です。応募者がロータリアンあるいはロータリークラブを知っているかなどコネがないと米山奨学生になれないという噂が出ました。それは公平ではないという意見が多くでました。そこで、一般から募集、いまの段階は大学から推薦してもらうことにした。間口を広げて、大学推薦のほうを地区はとるようになりました。

高島 大学推薦のほう均質レベルであると思います。ただ、受け入れクラブからすれば、もう少し早めにクラブと奨学生との連携がとれるように工夫してもらいたい。

中澤 ご意見はよくわかりました。広い心で面倒を見ていただきたいと思います。ただ、奨学生になる方がロータリアン、あるいはロータリークラブとコネがなければ絶対入れない、という不公平感だけはやめておこうと思いますので、ご理解をお願いします。

市川（吹田） カウンセラー制度の強化に関連して、「カウンセラーに最も適任の方をクラブ会長は選任し……」と資料に書いてありますが、地区委員会としてはどういう方が適任だと思われませんか？ ビデオには家族の付き合いとありました。私の例ですと、私と家内2人だけで、それも年が古希を迎えた2人です。留学生が30歳の方ですから、家族の付き合いといっても困難だと思いますので、カウンセラーを辞退したいと考えるのですが。

中澤 難しい問題です。奨学生を世話するとき

の意識でいちばん大事なのは、奨学生が来るので面倒をみてあげる、という心だけあれば、奨学生も理解されると思います。

小竹 その件に関して、去年の地区協議会でのカウンセラーに関する意見があります。

「そのクラブはカウンセラーを2名用意して、1人がお休みの場合は、もう1人が例会に来て情報交換する。その学生とカウンセラーとはクラブで近況をきくだけでは足りないときには、3カ月に1回ぐらいは食事を一緒にしている。クラブの行事、たとえばクリスマス家族会、親睦の小旅行、あるいは奉仕活動というときには奨学生も一緒に参加する。日曜にも学生も来てもらって一緒に汗を流して和気あいあいとやっている」と。

カウンセラーは2名ついているはずですので、その方とご相談されながら、たとえば学生が歯科専攻で、クラブに歯医者さんがいらっしゃれば、その方をカウンセラーに任命してくださるとか、そういうこともあります。

中田（大阪東淀） 毎年3～4億円の欠損が出るということですが、あとどれだけ余裕があるのでしょうか。2000年6月に基本金が50億円、特別積立金が40億円、計90億。40億円あれば、毎年4億削っても10年もつという数字なのでしょう。

山本 財団法人でも一緒ですが、財団を維持するための基本基金50億円には手がつけられない。特別積立金40億円といいますのは、奨学生が少ない時代に、皆さんのご協力を得て運用資金として積み立ててきたからです。それがグラフでおわかりのように、年々の会員減、それから昨今の状況で寄付金が非常に減ってきています。一方、当初10万人の受け入れということから考えたら、1,000人で満足することなく、1,100、1,200、1,300人と増やしていきたいのです。しかし、状況を考えますと、運用資金を一度に取り崩すというのいかがなものか、という奨学会本部の考え方もあって、やむなく1,000名に減らしたという現況です。

本 会 議

午 後

部門別要旨報告

◆ 会 長 部 門 ◆

ガバナー・エレクト 寺田 和之 (大阪)

1. 予算について

①年間黒字を達成するために、緊縮予算を組み、それについて協力をお願いします。

前年度の繰越金額が非常に不明確で誤差が多く、金額が確定しないと予算が組めないのが8月に補正予算を組んで対処することを皆様に御了解を得ました。

②地区大会の全員登録方式を、予算の関係もあるので継続することに決定しました。

③特別会計の方として、2002年にこの地区でローターアクトの研修を開催します。これを成功させるために、助成金として5,000名の会員の方々に一人2,000円ずつ人頭分担金をお願いします。

2. ユニバーサルシティークラブの発足に関して
次年度のIMに際して、地理的な条件がそのまま実行できればよいのですが、13クラブある所へ入っ

て頂くと14クラブになり、それでは他のクラブとのバランスがとれなくなるので、地理的条件も考えて、5組の天満橋RCが6組に移動してもらいます。

3. 地区リーダーシッププラン

ガバナー補佐の制度を導入することを決定しました。来年の7月以降、この制度が発足できるように細目を決め、皆様ともよく相談をしていきたい。ガバナー補佐で一番大きな問題は、6名の方になって頂くのですが、人選が大変なので最初は4名からにしたいと思います。

アンケートを、前もって書いて頂き、集計の結果4件の問題について解答させてもらいましたが、どのクラブも大きな問題を抱えていて大変な時代だと思います。

◆ 幹 事 部 門 ◆

バスト・ガバナー 熊澤 忠躬 (守口)

出席は、85クラブのうちから82で、3クラブが欠席でしたので、後日マンツーマンで会合する約束を幹事の方をお願いしています。

私は、最初10～15分、幹事がいかに重要か、会長をどのように補佐するか、ということで、報告・連絡・相談(ほう・れん・そう)が大切であるということを理解して頂きました。後は、中田サブ

リーダーにお願いしました。

7つの項目に関するアンケートを出して、その結果についていろいろ事例を上げて、中田さんのロータリーに対する情熱とキャリアと能弁をもって1時間半説明して頂きました。皆さん非常によく御理解頂いたことと思います。

最後に、戸田バスト・ガバナーが会長部門から来

て頂き、リーダーシップの問題について、詳しく説明して頂きました。これには、皆さん大変驚かれましたが、よく理解していただいたと思います。

私の感想は、今回の協議会は本音で問題点を指

摘してお互いに話し合えた。これが今後、大きな活力になり、新しい21世紀のロータリーが、この大阪から出来て来るのではないか、という心証を得ました。

◆ クラブ奉仕部門 ◆

感想としては、非常に楽しい雰囲気の中で行われ、会議の途中で歌唱指導がありまして、皆さんの肩の凝りをほぐす意味で大きな声で歌っていただきました。和気あいあいのうちに、真剣に討議が行われました。

クラブ奉仕部門は、地区の増強委員長、広報委員長、情報親睦委員長に出席していただいて進めました。増強については、91年から96年までは、会員数5千数百名台を維持し、その後減少傾向にありましたが、最近なんとか下げ止りになり、退会の数も落ち着いてきたと思われます。そこで、なお一層増強セミナー等を通じて努力を重ねて行くということなのです。

広報においては、ロータリーというのが、どの

パスト・ガバナー 吉川 謹司 (東大阪東)

ようなものであるのか、ということも多くの方に理解して頂くために、全国紙等をできるだけ利用し、それをどのように利用したらよいか、という討論が行われました。

情報については、本日から開催される規定審議会に中野パスト・ガバナーが参加されています。500件以上の案件があり、その中から我々に関係の深い7件の案件について、情報委員長から説明をしていただきました。

親睦については、親睦の大切さ、同好会等がたくさんあるがどのように進めて行けばよいか。クラブの中で親睦をどのように深めて行けばよいか、という質問があり、楽しさの中にも真剣味の溢れた会議になったのでは、と思っています。

◆ 職業奉仕部門 ◆

基本方針の活動計画について詳細にお話し頂き、アンケートの結果の説明をされました。その後の質疑応答で、「もっと本音の語れる委員会にすべき」という提案がありました。これは、まったくその通りだと考えます。ロータリーの中で商売の話をしてよいのでは、という意見も出ました。職業分類で1業種1人ということで今後よいのではないのでしょうか。

職業奉仕というのがいつも委員会では、哲学的に走りすぎているのではないか。もっと具体的に奉仕する活動を作っていく、それを通して職業奉仕というのをつかんでいったらよいのではないか。

ガバナー 近藤雅臣 (千里)

職場を青少年に公開して頂いて、いろんな業種に対する興味をもってもらい、というチャンスを作ってもよいのではないのでしょうか。

IM各組で、協力頂いて楽しい社会、理科の実験、楽しい教育をしてあげ、見せてチャンスを作っていく。数人の御賛同を得ましたので、具体的に何かできましたら、お願いします。このように結論させてもらいました。

今の教科書問題は、このままで行きますと日本の将来が心配されます。これを穴埋めするのは、我々の義務ではないかと思っています。

◆ 社会奉仕部門 ◆

私と社会奉仕委員長の若宮さんと環境保全委員長の徳永さんの3人でお話ししました。私は、ロータリーの成立、社会奉仕との関係を総論的に申し上げました。

若宮社会奉仕委員長は、次年度の活動方針を説明されました。従来の地区社会奉仕委員会の方針を踏襲して、徐々に変えて行きたい、ということです。共同事業として、海遊館の高齢者の招待行事がありますが、次年度は10回目になるので見直して、それに代わる代案を委員長は考えておられます。

「ダメ、絶対」と提言している薬物乱用防止事

パスト・ガバナー 中川 章三（大阪城南）

業も引き続き行っていきたい。昨年10月20日に、大阪府の「薬物乱用防止」の催しが「ヤングフェスタ」と名付けて行われました。近藤ガバナーも出席していただきました。ユネスコの寺子屋運動に協賛しています。献血も行っていきます。

環境保全の委員長からは、環境問題に対して、会員の意識を喚起していく。グリーン購入推進運動を行う。循環型社会の構築をめざしてサントリーが行っているのは、「会社の中がゴミ一つ落ちていない会社にしていく」というので、今年の秋に見学に行きます。

◆ 交通問題特別委員会担当 ◆

近藤ガバナーに作って頂いた交通問題特別委員会は、次年度で5年目を迎えることになりました。着実に実績を積み上げてきています。客観情勢は、上がって欲しいものが上がらないで景気は下るばかりで、その反対に交通事故災害は毎年右肩上がりで、深刻な状況を呈しております。そのなかで、死者は年間1万人を切っていますが、これも前年対比が上がっています。その他、事故数、重軽傷者などみな右肩上がりです。

本来不景気になれば減るのがあたりまえだと思います。物は動かないと車の活動も鈍ります。ところが、逆に上がるということは、大幅な右肩上がりになっているということを証明しているのです。

パスト・ガバナー 廣瀬勘一郎（大阪西南）

す。こういうなかで我々ロータリーは、常々教育と人道問題を最大のテーマに掲げて行っていますが、具体的な人権にかかる問題が交通問題である、と自認しています。尊い掛け替えのない命が、交通戦争による犠牲にならないように防いでいくのがロータリーの使命だと思います。そういう意味で地区の委員会は懸命に努力して頂いています。各部門にもこの交通問題を取り入れて頂きたいと思っております。

次年度に豊中南RCがスポンサーとして、交通問題をテーマにして実行されるということを知り、ありがたく思っています。

◆ 青少年奉仕部門 ◆

パスト・ガバナー 大森 慈祥（茨木）

今回から初めてこの部門が取り入れられました。

青少年活動部門には、3つの地区委員会があり、

活発に活動して頂いています。部門別協議会で、この3つの委員会からそれぞれの活動について発表してもらいました。

①青少年活動委員会 有賀サブリーダー

現代世相と青少年の活動の意義について。ライラの意義。今年の計画についての発表。

ライラのご依頼。ニコニコキャンプについての計画、協力依頼。ライラのビデオを鑑賞して、ライラについての勉強をさせて頂きました。

②ローターアクト委員会 石田サブリーダー

ローターアクト・クラブとは、どういうものなのか。ローターアクト・クラブについての発表。

全国ローターアクト研修会開催への協力と資金の援助をお願いしました。

③インターアクト委員会 奥サブリーダー
インターアクト・クラブの活動について。歴史について。地区の現況について。

今年度、台湾からインターアクターを迎えての大会が大変感銘深かった等の発表。

その後質疑応答が5件ほどあり、終了しました。

◆ 国際奉仕部門 ◆

パスト・ガバナー 柏木 尚 (豊中)

3つの委員会、①世界社会奉仕委員会、②国際交流平和委員会、③青少年交換委員会、の各リーダーより説明、報告がありました。

WCS (世界社会奉仕委員会) の滝田委員長から非常に整備されたレジュメにより、DDF・同額補助等の具体的な説明がありました。その後、ビデオでフィリピン、ベトナム等の活躍を見ました。現地における奉仕活動が身近に感じられ、子供の眼のきれいさ、笑い顔には感動を覚えました。フィリピン、ベトナムだけでなく、いろんなプログラムが開発され、日本の中でも優れた活動をしています。

国際交流平和委員会の笹井会長からの説明、報告がありました。世界のロータリアンとその家族の交流を中心にして、姉妹提携などの交流を深めて行きたい。6月24日からのサンアントニオでの

国際大会は、家族を含め320人程の参加の予定という報告がありました。姉妹友好クラブ提携は、86のうち66が姉妹友好提携しているのが地区の現状です。2月23日の創立記念日を平和の日、平和週間ということで皆で平和について考えよう、ということです。これも大事にしていきたいと思えます。

青少年交換では、ロータリアンの子弟が唯一参加出来る交換のシステムです。近藤会長からの発表です。参加クラブとしては、延べ25くらいあるのではないかとということです。いろんなエピソードを聞かせてもらいました。高校生を中心にした若い人たちが異文化に接して、多感な時代に1年間そこで過ごし、感動を持って帰って来ることが大きな価値になるのでは、ということをお話しました。

◆ ロータリー財団部門 ◆

R I 理事ノミニー 管生 浩三 (大阪北)

財団は7つの委員会があります。①国際親善奨学生委員会、②人道的援助委員会、③ポリオ・プラス委員会、④財団学友、⑤文化交流 (GSE)、⑥財団増進、⑦財団情報です。

近藤ガバナーが各クラブを公式訪問されたときに、クラブの方から提案事項がありました。その資料の中に、財団関係用語の解説書、同額援助、その他の応募に関するマニュアルの作成、それに

対する認可の基準、申込時期と決定、クラブのWCS予算のプール、地区によるWCS活動の詳細報告などが記載されており、頂いておりました。今日の協議会では、人道的援助委員会の方からも、同額補助の申請用紙を含めて説明をしてもらいました。

『ロータリー財団』という資料は、菅生パスト・ガバナーが書かれたものですが、大変薄くて、よくまとまっていて読みやすいので、皆さんで読んで頂ければ、各クラブから提案があったものも記載されています。

寺田ガバナー・エレクトから、財団に関する次年度の方針の目標の説明がありました。「財団寄付の目標」です。年次プログラム寄付、1人当たり145ドル、ベネファクターを各クラブ1名増、

大口寄付1名等の目標に向かって次年度もご協力をお願いしたいと思います。

財団の3つのプログラムは、教育的、人道的、文化交流に大別されます。人間社会のあり方は人によって決定されるので、人をつくる教育的プログラムの重要性はすべてに優先されます。そして、人と政治の充実が実現されるまでの間は、人道的努力の必要は人間社会にとって不可欠であります。これが、人道的なプログラムの意味です。

良質で幸せな人間社会は、民族とその人文の個性の相互交流によって実現されるものでありますから、文化の交流は私たちの最後の国際的作業であると言えます。これは、GSEです。ロータリー財団に3つのプロジェクトが存在するゆえんです。

◆ 米山奨学部門 ◆

私たちの部門は、大阪なにわRCの山本副委員長と中之島RCの小竹副委員長の3人で分担して報告しました。

最初にビデオを見ていただき、米山奨学記念の全般的な概要を知ってもらい、私から米山記念奨学会の目的、意義、歴史等を簡単にお話しさせて

地区委員長 中澤 章好 (大阪住吉)

いただきました。そして、小竹副委員長から奨学金制度と奨学生募集、山本副委員長から寄付金と表彰制度等を説明して頂き、その後活発な質疑応答がありました。皆様のご協力で米山奨学会の御理解を十分して頂きました。

総 括

ガバナー・エレクト 寺田 和之 (大阪)

本日はスケジュールに基づき、セレモニー的なものは非常に手短に、時間の無駄なく進みました。

午前は、来年度の方針とロータリーの原点とその周辺ということで、本部の方針とその背景にあるものの説明をさせていただきました。

2004年の国際大会について過去のいきさつ等を発表していただき、今後の我々の行く道を明示していただきました。

午後は、部門別協議会で、コンパクトなそれぞれの事情に応じた会議が行われ、実のある協議会が行われました。

今日の協議会は、2660地区の7月からの運営をどうするかという協議が行われました。

次年度の具的な方針は、次の6項目です。

- ①会員の維持、退会防止と増強、地区クラブ数の増加。
- ②会員自ら、ロータリーの奉仕の精神を喚起する。
- ③ロータリーイメージを高揚し、地域社会で尊敬され感謝される存在になろう。
- ④組織を強化しクラブの発展を図ろう。
- ⑤ロータリー財団活動の活性化と基金の体質強化に協力しよう。
- ⑥2004年に大阪地区で開催されるR I国際大会については、2660地区のロータリアンに重大な責務がかかるので、次年度より準備、運営に力を注ぐこと。

所 感

ガバナー 近藤 雅臣 (千里)

寺田ガバナー・エレクトの力強いリーダーシップの元に、次年度の役員、地区、クラブの皆様方は、結束してすばらしい2660地区にしてください

ますように心からお願いします。私もパスト・ガバナーとして修行させていただきます。

閉会の挨拶



地区協議会副委員長 尾崎 敏紘（大阪）

本日は早朝から誠に熱心に学習していただき、ご苦労さまでした。各皆様方のご協力により、本日の協議会が有意義につつがなく終わりましたことを、ホストクラブといたしまして厚くお礼申し上げます。

各クラブに帰られまして、新しい年度に向けて本日の学習の成果を踏まえ、各ロータリークラブの活性化にご尽力をいただき、ロータリーの奉仕の理想の輪が更に大きく広がりますよう、ひたすら祈念をいたしまして閉会の挨拶とさせていただきます。

(里一千) 岩 藤 藤 武
 (京大) 三 新 本 香
 (京大) 八 香 田 可
 (田大) 源 堂 東 夢
 (京大) 堀 貞 本 健
 (京大) 三 雄 田 古
 (南武大) 田 温 藤 要
 (京大) 藤 文 中 山
 (京大) 村 泰 森 大
 (口千) 陳 忠 新 順
 (南武大) 三 章 山 中
 (京大) 田 新 田 吉
 (中一) 尚 小 田
 (京大) 三 研 田 十

 (京大) 三 新 我 立
 (京大) 栗 丹 藤 平
 (京大) 口 輝 田 中
 (里千) 夫 香 田 昌
 (西京大) 前 雄 本 清
 (里千) 武 湖 江 有
 (京大) 藤 武 田 大
 (京大) 田 清 藤 正
 (京大) 藤 牛 藤 益
 (中京大) 藤 供 宮 彦
 (南武大) 二 新 本 彦
 (中京大) 藤 立 田 新
 (南武大) 夫 一 貴 谷
 (京大) 藤 三 田 谷
 (南武大) 藤 藤 藤 彦
 (中京大) 藤 吉 田 新
 (西京大) 藤 藤 藤 彦
 (京大) 文 藤 田 彦

資 料

 出 席 者 名 簿

| | | |
|----------------|-------------------|------------------------|
| ガバナー | 職業奉仕部門リーダー | 近 藤 雅 臣 (千 里) |
| 国際ロータリー理事ノミニ | ロータリー財団部門リーダー | 菅 生 浩 三 (大 阪 北) |
| パスト・ガバナー | 2004年国際大会特別委員会委員長 | 戸 田 孝 (八 尾) |
| パスト・ガバナー | | 坂 東 宏 (吹 田) |
| パスト・ガバナー | | 松 本 良 諄 (大 阪 東) |
| パスト・ガバナー | 会長部門サブリーダー | 古 田 敬 三 (大 阪) |
| パスト・ガバナー | 社会奉仕部門サブリーダー | 廣 瀬 勘 一 郎 (大 阪 西 南) |
| パスト・ガバナー | 国際奉仕部門サブリーダー | 山 中 文 和 (大 阪 南) |
| パスト・ガバナー | 青少年奉仕部門リーダー | 大 森 慈 祥 (茨 木) |
| パスト・ガバナー | 幹事部門リーダー | 熊 澤 忠 躬 (守 口) |
| パスト・ガバナー | 社会奉仕部門リーダー | 中 川 章 三 (大 阪 城 南) |
| パスト・ガバナー | クラブ奉仕部門リーダー | 吉 川 謹 司 (東 大 阪 東) |
| 直前ガバナー | 国際奉仕部門リーダー | 柏 木 尚 (豊 中) |
| ガバナー・エレクト | 会長部門リーダー | 寺 田 和 之 (大 阪) |
| 会長部門 サブリーダー | | 立 野 純 三 (大 阪) |
| 会長部門 サブリーダー | | 下 地 民 男 (大 阪) |
| 幹事部門 サブリーダー | | 中 田 康 仁 (大 阪 南) |
| クラブ奉仕部門 サブリーダー | | 岩 知 道 寿 夫 (千 里) |
| クラブ奉仕部門 サブリーダー | | 新 津 敬 直 (大 阪 西) |
| クラブ奉仕部門 サブリーダー | | 井 上 暎 夫 (千 里) |
| クラブ奉仕部門 サブリーダー | | 大 川 進 一 郎 (大 東) |
| 職業奉仕部門 サブリーダー | | 近 藤 浩 司 (大 阪 南) |
| 職業奉仕部門 サブリーダー | | 松 本 豊 (大 阪 東 南) |
| 社会奉仕部門 サブリーダー | | 若 宮 邦 弘 (大 阪 天 王 寺) |
| 社会奉仕部門 サブリーダー | | 徳 永 淳 三 (大 阪 南 西) |
| 社会奉仕部門 サブリーダー | | 浦 川 光 雄 (箕 面 中 央) |
| 青少年奉仕部門 サブリーダー | | 有 賀 一 夫 (大 阪 咲 洲) |
| 青少年奉仕部門 サブリーダー | | 石 田 肇 (東 大 阪 東) |
| 青少年奉仕部門 サブリーダー | | 奥 剛 典 (大 阪 阪 南) |
| 国際奉仕部門 サブリーダー | | 瀧 田 浩 彦 (東 大 阪 中 央) |
| 国際奉仕部門 サブリーダー | | 近 藤 眞 道 (高 槻 西) |
| 国際奉仕部門 サブリーダー | | 笹 川 敏 之 (大 阪 八 尾 フレンド) |

出席者名簿

| | | | |
|-----------|--------|------|----------|
| ロータリー財団部門 | サブリーダー | 居相英機 | (八尾) |
| ロータリー財団部門 | サブリーダー | 寺田秀興 | (東大阪東) |
| ロータリー財団部門 | サブリーダー | 中西藤和 | (大阪梅田) |
| ロータリー財団部門 | サブリーダー | 野村浩司 | (大阪そねざき) |
| ロータリー財団部門 | サブリーダー | 溝畑正信 | (東大阪東) |
| ロータリー財団部門 | サブリーダー | 金田勝弘 | (大阪城南) |
| ロータリー財団部門 | サブリーダー | 岡本健治 | (大阪東南) |
| 米山奨学部門 | リーダー | 中澤章好 | (大阪住吉) |
| 米山奨学部門 | サブリーダー | 山本和雄 | (大阪なにわ) |
| 米山奨学部門 | サブリーダー | 小竹靖二 | (大阪中之島) |

次期地区財務委員会

| | | |
|----|-------|-------|
| 委員 | 榊田圭児 | (大阪北) |
| 会計 | 横井悌一郎 | (大阪) |

次期地区幹事

| | | | | | |
|-------|------|------|------|--------------|------|
| 立野純三 | (大阪) | 江藤光哉 | (大阪) | 江崎勝久 | (大阪) |
| 早嶋茂 | (大阪) | 平岡龍人 | (大阪) | 木村直樹 | (大阪) |
| 小林龍三 | (大阪) | 小谷年司 | (大阪) | 黒田章裕 | (大阪) |
| 増成恒哉 | (大阪) | 水野明人 | (大阪) | ヴァレンタイン・モロゾフ | (大阪) |
| 能村光太郎 | (大阪) | 尾崎敏紘 | (大阪) | 追田太 | (大阪) |
| 辻卓吏 | (大阪) | 上山英介 | (大阪) | 八木頼夫 | (大阪) |
| 山田晴三 | (大阪) | 吉川秀隆 | (大阪) | 吉川邦英 | (大阪) |
| 吉本晴之 | (大阪) | | | | |

次期ロータリーの友地区委員

| | |
|-----|------|
| 追田太 | (大阪) |
|-----|------|

部門別協議会出席者

| 部門別 クラブ名 | 会 長 | 幹 事 | クラブ奉仕 | 職業奉仕 | 社会奉仕 | 青少年奉仕 | 国際奉仕 | ロータリー 財 団 | 米山奨学 |
|-----------------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|--------|
| 大 東 | 江原 誠三 | 角井 吉彦 | 北村 正汎 | 加藤 敏明 | 清水 修 | 山中 政治 | 榎本 光博 | 樋口 平和 | 石田 和清 |
| 大 東 中 央 | 市川 貴一 | 岩本 静江 | 中島 勤 | 大和田雅江 | 若狭 一夫 | 田中 正美 | 樋口 光弘 | 中山 儀光 | 大東 禮子 |
| 東 大 阪 | 古谷 勝紀 | 織田 宗輔 | 三宅 辰一 | 片岡 豊 | 坂井 孝彦 | 一欠 席一 | 西村 光洋 | 立岡 寛次 | 地引 啓 |
| 東 大 阪 中 央 | 木村 正一 | 中村与志夫 | 日笠 昭男 | 和田栗一良 | 百済 洋一 | 切石 博之 | 原口 隆夫 | 金子 誠二 | 森 豊一 |
| 東 大 阪 東 | 井上 家昌 | 小林 一成 | 常楽寺喜雄 | 池田 博信 | 水守 俊明 | 朝田 全紀 | 須崎 洋一 | 福井 秋雄 | 寺西 太一 |
| 東 大 阪 み どり | 岩本 忍 | 野村 悦子 | 味岡 實 | 土井 健一 | 横田 正明 | 井上 善博 | 一欠 席一 | 小寺 史郎 | 堀 颯一 |
| 東 大 阪 西 | 谷村 佳昭 | 中西 英二 | 浜広 勲 | 井筒 潮 | 四宮 良弘 | 弓手 宏亮 | 米島 末次 | 嶋田 亘 | 前田 進輔 |
| 枚 方 | 堀岡 晃 | 中澤 利文 | 森本 匡胤 | 磯田 隆平 | 三村雄太郎 | 一欠 席一 | 保坂 康弘 | 一欠 席一 | 今仲 弘 |
| 枚 方 く ず は | 田中太一郎 | 中野 保博 | 金森 市造 | 泉谷 楠夫 | 藤原 和彦 | 長村 治 | 南 武 | 一欠 席一 | 國田 欣吾 |
| 茨 木 | 橋本 陽二 | 高田 克明 | 一欠 席一 | 松尾 康弘 | 秋山 勤 | 木村 政治 | 中西 克司 | 中村 憲次 | 大木 令司 |
| 茨 木 東 | 松尾 泰博 | 岡市 正規 | 矢野 克吉 | 西村長比古 | 中田 有紀 | 竹村ルミ子 | 一欠 席一 | 越澤 弘昭 | 吉田 操 |
| 茨 木 西 | 赤井ムツエ | 倉 茂夫 | 竹林 敏彦 | 須川 就三 | 一欠 席一 | 中竹 正 | 馬場 孝志 | 一欠 席一 | 橋本 善治 |
| 池 田 | 仁木 在久 | 奥村 昌也 | 橋高又八郎 | 福本 賀郎 | 藤川 隆治 | 吉田 昌弘 | 吉岡 崇 | 山口 正之 | 小島 治 |
| 池 田 く れ は | 山内 邦夫 | 中堂 武賢 | 新田 耕平 | 尾田 豊 | 谷田 史朗 | 奥村 一光 | 壇 信義 | 藤井 保雄 | 阪田 一男 |
| 門 真 | 高橋 英雄 | 齊藤 紀彦 | 吉村 光弘 | 山中喜代治 | 一欠 席一 | 田中 義昭 | 新田 恒治 | 興津 成実 | 萬木 久克 |
| 交 野 | 渡辺 哲也 | 吉川 峰明 | 松本 道廣 | 大門 康剛 | 安養寺敏彦 | 森 光雄 | 小川 幹雄 | 中野 修行 | 富田 利一 |
| 箕 面 | 神内 紘典 | 岡内 重信 | 南川淳之祐 | 一欠 席一 | 谷川 貢二 | 藤井 稔夫 | 的場 年昭 | 河村 忠紀 | 藤原 敏裕 |
| 箕 面 中 央 | 藏田 禎夫 | 大塚英太郎 | 奥山 淳三 | 山口 誠治 | 森本 光 | 村田 英明 | 浦川 光雄 | 黒木 義典 | 西村 是滋 |
| 守 口 | 家村 武秀 | 芦谷 光 | 西村 公夫 | 辻村 弘 | 江端 将哲 | 石橋 高夫 | 宮内 勝夫 | 河中 昭秀 | 一欠 席一 |
| 守 口 イ ブ ニ ン グ | 森澤 展裕 | 高木るりこ | 一欠 席一 | 和田 静恵 | 吉岡 章夫 | 藤井 良郎 | 瀬川 康清 | 巽 誠一郎 | 一欠 席一 |
| 寝 屋 川 | 藤井 修 | 森 時頼 | 神戸 昭典 | 小西 真明 | 平田 大一 | 竹本 則彦 | 清水 茂實 | 田中 稔 | 前田 澄雄 |
| 寝 屋 川 東 | 足立 光顕 | 南井 恒治 | 村川 武征 | 浅野 勉 | 川尻 昌之 | 太田 正一 | 浅井 勝彌 | 中市喜八郎 | 一欠 席一 |
| 大 阪 | 文箭 安雄 | 更家 悠介 | 江崎 勝久 | 岸本 忠三 | 柳瀬 璋 | 尾崎 敏紘 | 奥田 務 | 山口 集 | 辻本 朝男 |
| 大 阪 阿 倍 野 | 岡野 文雄 | 竹川 修司 | 一欠 席一 | 和田 弘堂 | 立石 泰教 | 村上公三郎 | 大浦 浩暢 | 藤田誠一郎 | 渡邊 純一 |
| 大 阪 ち ゃ や ま ち | 藤田 宗平 | 谷口 晴彦 | 山下 勝 | 一欠 席一 | 一欠 席一 | 一欠 席一 | 杉山 則夫 | 一欠 席一 | 一欠 席一 |
| 大 阪 中 央 | 中務嗣治郎 | 西口 宗宏 | 飯田 精三 | 佐藤 正夫 | 古谷 裕子 | 井上 嗣仁 | 播磨 政明 | 横山 守雄 | 上内 清彦 |
| 大 阪 堂 島 | 水山 章 | 片岡 俊二 | 川本 幹治 | 片岡支一郎 | 前川 久寿 | 北 研次 | 佐藤太一郎 | 道上恵三郎 | 西野 公庸 |
| 大 阪 阪 南 | 笠井 勝巳 | 日野上輝夫 | 能口 武雄 | 和田 健 | 南部 高志 | 井上 隆智 | 渡部 泰夫 | 伯耆 徳武 | 吉田 洋 |
| 大 阪 東 | 小中 義博 | 盛田 三五 | 橋崎 正博 | 青木 永光 | 太田 重彦 | 中川 宏一 | 丹羽 一郎 | 若林 紀男 | 西尾 忠朋 |
| 大 阪 東 淀 | 玉井三貴男 | 磯田 郁子 | 中 眞一 | 北尻金三郎 | 高野 隆 | 乾 新吉郎 | 大津 久直 | 池田啓一郎 | 中田 八朗 |
| 大 阪 平 野 | 平井 政博 | 毛利 進 | 尾川 雅清 | 植村宏一郎 | 三野 久光 | 佐野 元英 | 三女子 宏 | 中庭 寿朗 | 岡部 卓雄 |
| 大 阪 本 町 | 岡野啓治郎 | 磯部 明良 | 一欠 席一 | 今岡 真義 | 一欠 席一 | 一欠 席一 | 一欠 席一 | 一欠 席一 | 中森 英夫 |
| 大 阪 イ ブ ニ ン グ | 玉井 教裕 | 坪内 敏剛 | 一欠 席一 | 出口 政義 | 庄野 昇 | 武市 誠 | 一欠 席一 | 一欠 席一 | 田中 義信 |
| 大 阪 城 | 西本 晴男 | 窪田 映 | 長友 滋尊 | 加藤 勉 | 辻中 明一 | 田中 俊男 | 碓井 昭 | 妙中 幹男 | 一欠 席一 |
| 大 阪 城 南 | 岡倉 三郎 | 山崎 博史 | 岡本克持郎 | 梅崎 道夫 | 本田 盛 | 尾崎 敬則 | 佐伯 爲次 | 井谷 齊 | 片山 勝彦 |
| 大 阪 城 東 | 上西 宏祐 | 小松 功 | 下地 常博 | 小松 弘人 | 有山 茂 | 伊坂 泰治 | 岡本 浩 | 中野 憲城 | 照屋 貞夫 |
| 大 阪 柏 原 | 古賀 省三 | 大橋 秀樹 | 林 芳繁 | 杉原 久史 | 松原 貞一 | 一欠 席一 | 榊原 春枝 | 高井 康伊 | 寺田 信正 |
| 大 阪 北 | 飯田 正弥 | 米谷 伸行 | 吉治 仁義 | 表 久守 | 一欠 席一 | 丸山 雅祥 | 清水 裕之 | 高橋 徹 | 吉田 邦男 |
| 大 阪 北 梅 田 | 越智 碩夫 | 松本 秀樹 | 中條 雅嗣 | 一欠 席一 | 水野 哲次 | 中川 良夫 | 丸毛 和博 | 高石 英二 | 長谷川誠太郎 |
| 大 阪 北 淀 | 宮崎 信夫 | 中川 建司 | 松川 雅典 | 村木 茂 | 松本 圭右 | 打味 俊偉 | 副島 良廣 | 辻本 嘉助 | 伊藤 清一 |
| 大 阪 御 堂 筋 | 祖父江一郎 | 鈴木 俊生 | 坂田 哲男 | 山田 和義 | 一欠 席一 | 前田 陽義 | 高嶋 秀行 | 小倉 康秀 | 高橋 勝彦 |
| 大 阪 南 | 菅生清左衛門 | 平田 雅利 | 中島俊一朗 | 一欠 席一 | 國分 紀一 | 塩山 高之 | 岩田 宙造 | 土井 強 | 一欠 席一 |
| 大 阪 リ バ ー サ イ ド | 小出 寶一 | 清水 英文 | 高田 知彦 | 垣内 康弘 | 一欠 席一 | 乾 勝亮 | 出張 誠治 | 一欠 席一 | 森 栄一 |

ホスト・大阪ロータリークラブ

地区協議会実行委員会

| | | | | | | |
|---|---|------|---------|-------|-------|------|
| 会 | 長 | 川島康生 | 副 | S A A | 朝比奈千足 | |
| 委 | 員 | 長 | 阿部晴彦 | 〃 | 嘉納秀一 | |
| 副 | 委 | 員 | 長 | 尾崎敏紘 | 会 計 | 上田隆三 |
| 幹 | 事 | 吉川邦英 | ソングリーダー | 木川田誠 | | |
| S | A | A | 土井洋三 | 地区幹事 | 能村光太郎 | |

| 委員会 | 委員長 | 委 員 (*印は副委員長) |
|-------------|-------|--|
| 総務 プログラム | 岩井 靖 | 柴田 弘文*、木村 直樹*、市川 宏、石川 正、嘉納 秀一、 松本 鐵一、谷川 正、垂井清一郎 |
| 会 場 | 松田 隆明 | 渥美 和裕、眞木 恒行、本木 満、佐々木 隆 |
| 登録・受付 | 羽間 平安 | 本田 善造*、脇田 修*、出口 湛龍、小林 芳之、神足 泰弘、 眞島 弘、三谷 隆博、中川 俊彦、西崎 保孝、堤 芳夫、 山田 一郎 |
| 接待・案内 | 和田 亮介 | 八木 頼夫*、小林 龍三*、北村 恭二、小谷 年司、中塚 菊雄、 清水 実、白川 俊一、山上 武宏 |
| 記 録 | 今井 悠紀 | 門田 衛士、鈴木 胖 |
| 文 献 | 早嶋 茂 | 追田 太*、水野 明人 |
| 会 計 | 上田 隆三 | 坂野 和夫、野田 正彦 |
| 救 護 | 螺良 英郎 | 佐藤 文三*、東野 一彌、高月 清、豊島久眞男 |

部門別協議会担当委員

| 部 門 | S A A | 記 録 |
|-----------|-------|-------|
| 会 長 | 土井 洋三 | 廣瀬 太一 |
| 幹 事 | 江藤 光哉 | 吉本 晴之 |
| ク ラ ブ 奉 仕 | 佐野 吉彦 | 廣瀬 吉彦 |
| 職 業 奉 仕 | 菅野 直之 | 細川 悦男 |
| 社 会 奉 仕 | 藤井 公三 | 松本 鐵一 |
| 青 少 年 奉 仕 | 増成 恒哉 | 小西 哲夫 |
| 国 際 奉 仕 | 田淵 暉久 | 前田 一 |
| ロータリー財団 | 湯木 尚治 | 生駒 伸夫 |
| 米 山 奨 学 会 | 松田 甫 | 笹倉 敏彦 |

